

内山完造雑記 1944 年 8 月 18 日から 46 年 10 月 5 日

〔一九四四年〕八月十八日

朝一時間延着で五時五十五分に奉天着、十五分間で発車した。大虎山駅で「香腸冷糕」を買った。セロファンに包んだもので一個五十銭、高粱粉に塩味をつけて腸詰めにした物であるが、若し甘い味であったら誠に好点心である。

車窓

鉄路の左右見渡す限りの高粱は誰れが食ふのであらうか、此くも大量の高粱を満洲人だけで食ひつくすのであらうか。私には疑ひがあるが、兎に角満洲は日本の生命線であると云ふたのはモウ忘れたのか。日本人の脚がドレ丈け満洲の土に喰い込んだか。英国の重商政策は已に破れて居ることを吾等は知らねばならん。吾等は農本主義に還るべきである。人間が最後の生活を確保する事こそ今日の急務である。それは商買〔売〕根性ではダメなんだ。何処迄も自ら耕し自ら収穫し自らかしひで自ら食ふ、自ら紡いで自ら着る、自ら家を造って住む。此最後の一線に立たねばダメだ。満洲への分村も移民も指導者ではダメなんだ。自ら耕す人でなければならんと私はつくづく考へさせられた。

偶感

北満の冬は寒いと云ふ事は誰れでも知って居る。ドノ位寒いのか。

○機罐〔関〕車を車庫に入れて置く時には一切の水を抜き棄て、置くのだ。

○列車を待期〔機〕させて置く時にはドンナ時でも汽〔機〕関を焚いて蒸汽〔気〕を各車に通じて置くのだ。此れを忘れたが最後だ。車は冬中は使へないのだ。此れは北満が寒い事に於いて特種区域なるが故にである。仮へソナ事をするのは不経済であると云ふ原則があつても、北満ではソレを止める事は出来ないのだ。空車でも汽関車を焚いて蒸汽を各車に通じて置くと云ふ事が非常な不経済である事は普遍の原則である。然しソレ程普遍的の原則も北満では原則を無視して実行せなければならん特種性があるのだ。

○国策であるからと云ふて上海の特種性を認めないでやった日本人間丈けの垂範的統制が、全く日本人を窮地に陥れた丈けで大失敗になった事は何を吾等に教へるものであらうか。統制が国策であつても四百万人中三百九十万が敵性の支那人であつて、此れは何時でも日本人のやり方に対して犠牲を肯んじない、イヤ何時でも反対の態度を採る人間である。特種性を無視して僅かに絶対服従より路のない十万人の日本人に統制を実行すると日本菓子屋が最も鮮かにました様に、支那人の日本菓子商が雨后の筈の様に出た。国内なるが故に国策の実行は可能であるが、国外なるが故に其特種性を考へて国策を政治する可きであるのだ。ソレが政治と云ふものであるのだ。政治を為し得ない役人は免職すべきである。

偶感

今日の日本人は大体に於いて満腹観〔感〕がない為メに凡べての点に於いて其気持ち焦々して居る。其態度がトゲトゲしい。其言葉迄が尖って居る。笑ひを失ふて居る。和やかさが消へて居る。無論

〇〇が面白くないと云ふ事も大なる原因ではあるが、モット大きな問題は満腹観がなくなった事である。誰れか起って国民を満腹せしめよと叫ぶにあらざれば危険である。実際に其満腹観を充たしてやらねば危機である。満洲の高梁を見て恐らく満洲の満人を吾等が失ふた様な満腹観を失ふて居るとは思はれない。仮へ高梁でもよい、一日も早く日本国民に対して満腹観が与へてやり度い。文明も文化も繁栄も理想郷も、人間は満腹して後の事であるとは必ずしも支那人の寝語ではない。今現に吾等の実験しつゝある事だ。『借問す、満洲の粟梁何処にか往く。』

満洲を羨む

茫々たり梁粟の野、家少く人稀れなり。此梁粟は誰が為メにか作る。怕らくは満人は飢へを知らざる可し。言葉を失らし気を焦らだたし、行を燥がす者は誰れぞ。速かに来って梁粟に飽け。

高梁と粟と菽

満洲の高梁はドレ丈け出来るのであらうか。一穂が二勺として五穂で一合だ。五十穂一升、五百穂一斗だ。五千穂が一石、五万穂十石、五十万穂百石、五百万穂千石、五千万穂万石だ。五万万穂で十万石が、五十億穂百万石、五百億穂千万石だ。一穂の目方が七八匁としても、十穂七十匁、百穂七百匁である。一千穂七貫目だ。

八月十九日（北京の一日）

昨夜十一時五十分北京着の予定の汽車は、最近二個所に事故があつて遂に一時間半の延着となつて午前一時半にやっと到着した。白柳君の出迎ひを受けて北京飯店に入る。一室の予約よりなかったのだが、幸ひに私の交渉で添一床出来て無事に二人が泊る事になった。先づ安心。

北京は涼しい秋だ秋だ。北京飯店の一室から見ると、宮殿の屋根が楼門の二層三層が遠山を背景にして昔淋しく、北海の喇嘛塔は白い大仏とでも云つた形だ。車賃は最少三元だ。車夫は云ふ、一日の飯代は最少十元だと云ふ。北京の宮殿は歴史博物館となつて居る。庭の方は中央公園となつて二角で自由自在である。園内に『知楽簪』と云ふ錦魚を陳列して居る処がある。色々と変態変形魚が居る中で、

望天魚と云ふのは、美しい金魚であつて眼球が蛙の様に空に向いて居る。藍色と紅色と二種ある。

紅絨球魚と云ふのは、金魚であるが両方の眼球の上に古棉か海棉の様なものがブラブラと水にゆれてひつついて居る。此れも藍色と紫色と紅色とがある。

紫龍睛眼魚とは、全身紫色で大きな出眼であるが、其眼迄が紫色である。

藍龍睛魚とは、紫龍睛眼魚の色変りで全身が藍色と云ふよりも紺色である。

翻腮魚と云ふのは、紅金色で頭が変形である。腮が外にフクレて居る為メに頭丈けが円く見へる。

五花蛋龍魚と云ふのは、身体の色がオコゼの様に色々混合された様で斑点があつて汚らしい色である。

珍珠魚、此れが金魚界の王者であると云ふて居つたが、紅色や紅白斑らの太い身体であつてウロコが丸で碁石を並べた様にサメの皮の様である。何んでも大変に年数がかゝるので貴いのだと云ふて居つた。一対が百五六十元もするとの事だ。

蛤蟆頭魚と云ふのは、此れ又非常に変つた奴で両眼の下に各々水袋を持って居て両眼球は其水袋の上に空を見て浮いて居る様である。望天と同形である。紅ばかりであつた。

紅頭魚とは、体色は白で頭部丈けが紅をつけた様に紅いのである。

紅帽子魚とは、日本で云ふ獅子頭である。

紅虎頭魚、タゞ太い丈けで珍らしくない。

紅龍睛魚、同じ様なものだ

紫藍花龍睛眼魚と云ふのは、大きな出目で其体色が実にお怪けの様である処が変り魚であるが、一寸お岩を聯想させるものでグロである。

流石に気の永い支那人のやる事丈けに、イヤハヤ変ったものが居る。園内の一部に華北基通院とか云ふ看板のあるところで野天で室内でシキリに烏鶯を闘はして居るのを見た。一面に青年者が黒を持って壮年者が白を持って凌ぎを削って居ったが、青年の眼は真剣と云ふか眼を据へて居ると云ふか実に一時の左翼青年を思わせるものがある。壮年者は丸で細い岳飛か関羽かと云ふ態度で絶へず身体を左右に支那風に廻はしつゝ、揺らしながら決戦的姿勢であつたが、其割合に強くもなさそうであつた。兎まれ囲碁が此処でも相当流行って居らしい。

○南池子と博物館の門との間に『北京市衛生局立甲種模範公廁』と云ふ長い名のついた便所がある。何が模範か恐らくは少しばかり清潔にしてあると云ふに過ぎないと思ふが、兎に角其長たらしい名とそれが便所である処に妙に私を引〔き〕つけるものがある。

○六階七階の大洋館である北京飯店の入り口にバケツに三四杯の水と五六尺の柄のついた縄で造った天狗さんの塵払いの様なものが四五本たてかけてある。聞けば防空用具であるとの事だ。此洋館の為めに備へられて居るのではないから比較するのが間違ひかも知らんが、此大洋館に此防空用具、私は偶然にも鯨の咽喉に喰いついた猫と云ふことを思ひ出して苦笑した。

○紫禁城の豪壮雄大は遂に近代建築の如何なるものも此れを圧する不能、空しく王者の偉大を誇らしめて居る。生活線の上に在る人々をしては建築学上の芸術上の酔〔粋〕であると喜ばしめて居る。生活線下にある人々としては人間搾取の絶大なる遺物として目を覆はしめるべきものであるが、事實は此種の人々には全くの無関心である。寧ろ逆に此れあるが為めに多くの遊説者あれば、時に一握の食物の代価を得られることもありとする者さへもあるのであるが、仮へ一人の実質的観〔感〕覚を得る者なしと云へども而も尚ほ此大伽藍が人間搾取の代表遺物たることに変わりはないのである。兎に角使用せる大理石丈けでもよくも集めたものかなと思はしめる。北京で一番驚く可き事は天壇を始め紫禁城其他に使用せる膨大なる白色大理石の数である。

○北京迄歸つて来て始めて東京の顔がハッキリと浮んで来た。アノ不親切な態度、アノ焦焦した気持ちアノトゲトゲしい言葉、アノ疲れた風、アノ瘦せた身体、アノ娘共の恥を忘れた物ごし、何にも彼も悉くは喰ひ足らぬと云ふ普遍的原因にあると思ふ。然し其中にも吾等の特色である瘦我慢の一事は尚ほ確かに存在して居ることが感じられた。

八月廿日

朝早く歴史博物館を參觀した。昨日は新民印書館の安藤君が来て呉れて小沢君も来て呉れる。そして小沢君の友人副島君と四人で日本人クラブで昼食を共にして、夜は安藤君が山下君と共に喜樂で夕食を御馳走して呉れた。今日は昼食は小沢君の宅で御馳走になった。午後梨本君が来て呉れて小沢君も来て色々話した。それから明日午后三時半から梨本君の宅で茶会をやる事にして別れた。それから村上君へ電話して呼び出して村上、小沢と三人で東安市場の東来順で羊肉火鍋子をつゝいた。芝麻醬、豆腐醬(醬豆腐の醬)、白菜醬、蝦子醬、辣油、酒の薬味を混合して、羊肉の火鍋子は実に甘い。

東来順の老板は途上に大金を拾ふて苦心して其落主に返還したのが縁で、其人から多少の資金の応援を得て現在の処にサ、ヤカな羊肉飯館を開業して今日の盛大を博した。然し昔を忘れぬ為めに今日も尚ほ旧時の飯館即ち苦力飯を奉仕的にやって居ると云ふ事である。此家の額に『拾金不昧』の四字が書れ

て居る。実に嬉しい話である。

○梨本君が今度王府井の燕京莊を買ひ取って書店を經營すると云ふ話の一切を聞いた。燕京莊の經營者は吉沢某女史と云ふ人で、主人に死別して后妹と二人で店を經營して居る中に、妹を結婚させたトタンに店員の中心人物が応召したと共に自分も中耳炎から遂に店頭に働らく事が出来ない身となった為メに店を譲って帰国せんとした処が、此人の希望と書店連中の考へとは譲渡金の上に相当の開らきがあつてトウトウ話が纏らないので、女史は其窮状を知人である梨本夫人に話して依托經營を依頼した。其事を夫人は梨本君に相談すると、梨本君は依托經營なんて事は後日の面倒があるから經營するつもりなら相当の値段イヤ彼の女史の希望通りの値段で買取ってやれとの事で、夫人は決心して買取る事にした。値段を聞いて見ると金三万円と云ふことであったので梨本氏は心よく三万円を承知した上に尚ほ五千円の金を呈して一切が梨本氏に移り、女史は安心して帰国した処が偶然にも梨本夫人が又病床の人となったので、此れは困ったと思ふて居ると時恰も日本人幼稚園が解散となって保母の失職者が出た。処が此保母先生が梨本氏の子供達の先生であつた処から早速此先生を来て貰ふて毎日店を經營して居るとの事である。此れも亦た温かい血の流れて居る人間らしい美しい話である。何んと嬉しい話を聞いた。

○小沢君は日鉄鉦業会社の北京事務所長某と山の技師長其他との衝突から技師長などの辞職に道理ありとなし、自ら又殉職した。そして他に又転職すると云ふのである。俠気ある彼の行動、実に目がしらが温くなる話を聞いた。今日は何んと云ふ好い日であるか。東安市場を歩るいて驚いた事は日本書籍の古本が各店に山と積まれて居る事である。而も多くの日本人客が高い値段を承知で買って居る奇観を見た。偶然にも上海霖語一冊を見つけると小沢君が三元五角で買って呉れた。其処で奇遇は光子と其夫君とに見つけられた事である。キマリ悪るそうであつたが、兎に角挨拶して別れた。村上君は宅へ小沢君も宅へ私は宿へ帰った。明日は新民印書館へ午前中行く事にして居る。午後三時半から梨本氏茶会、六時から座談会と云ふ事である。

○支那人洋車夫の日々の食事の仕方を見て居ると丁度猫の様な食〔べ〕方である。それは一度に満腹する程の量を食はないで一日に何度も少しづつ、を食ふのである。もっとも此れには大分に食物が暴騰して来たと云ふ大きな問題がついて居る。ソコデー時に満腹する程食ひ度くも食ふ事が出来ないで、止むを得ず少しづつ、空腹を我慢して何度にも食ふて居るのであるが、此ふした食ひ方が或は消化に於いて完全に消化し吸収に於いて滋養物を完全に吸収するのではないかとも思はれる。此れは全く私の素人考へではあるが、若しも長命せんとすれば猫の様に食へと云ふことが實際なら支那人洋車夫はまさに其實行者であるが、反面猫は寝子であるに不拘支那人洋車夫は労働せなければ其少量の食物さへも得られないと云ふ条件がついて居る。其処に止むを得ないではあるが、折角長命法の食ひ方をしながら反面からソレが無意味になりつゝあるのである。ドコ迄も人為的な考へと自然的な行為とには相反するものがついて居るらしい。それは亦た人間生活の一つの悲劇でもあるらしい。

○ものゝやり方に二つある。一つは自然の成行きにまかせるのと自然の流れを人間の考へで変更せうとする行き方との二つである。日本人は後者の極端な実行者であり、前者は支那人が其代表者である。何れにも一長一短はあるが、私の考へでは其事柄が短期の事であるか長期に渡るものであるかと云ふ点で相違があると思ふ。仮へば短期の戦争に於いては奇計謀略は最初に使つて目的を達する事が多い。つまり勝敗は最初の五分間に決定すると云ふのは短期戦の場合に於いて正しい言葉であると思ふが、長期戦に於いては勝敗の決〔定〕は最後の五分間に在りと云ふことが正しい様である。此の時最初の五分間に決するには多分に人間の力が其因となる（力と云ふよりも智慧とか考へとか云ふ方が適切かとも思

ふ)。処が長期戦になると自然の力が非常に働く。仮へば短期戦に於いては、自然生産物量が仮へ少量であっても人力によって其少量を変化せしめて一方人間の我慢心によって或点迄増量し得る、又は増量したと同一効果を挙げる事も出来るが、一度びそれが長期戦となると、自然生産物量が自然力によって増大せないならばドンナに人間力を使って変化させ様としても無い物は出来ないと云ふ事になって来るのである。自然条件と人力とが合致して初めて長期戦も堪へられるのである。人力のみを過信する事は大変な過りである。又自然力のみに頼ることも危険である。矢張り自然力と人力との平行こそ本道である。

満洲耕地面積	一四三〇万町歩		
可耕地	一六八〇万町歩		
人口	四三二〇万人		
高粱	三九〇〇万石	作付面積	二七〇万町歩
粟	三一八〇万石	〃	二四〇万町歩
大豆	四〇〇〇万石	〃	三五〇万町歩
玉蜀黍	一四〇〇万石	〃	一二五万町歩
陸稻	一六〇万石	〃	一一万町歩
黍	一五〇万石	〃	三〇万町歩
小豆	一〇〇万石	〃	一五万町歩
水稻	三百万石	〃	一二万町歩
大小麦外雑穀	三百万石	〃	一〇〇万町歩

満洲産穀類の産額は大豆を除いて約一億石である。此れは恐らくは実際よりも少いものであらうと私は思ふが、兎に角印刷物からの拾ひ上げである。四千万人壺億石、此外に四千万石の大豆がある。粉に造り味噌に醬油に色々地使用されるが、私は四千三百万人の満洲と二千万人の朝鮮と八千万人の日本を合せて壺億四千三百万人は日本の米七千万石と朝鮮の二千万石に満洲の穀物壺億万石を加へた丈けで已に余り得て居ると思ふ。然るに当局者は何故に足らん足らんと云ふのであらうか、何故に僅かに二合一勺で国民を痩せ細らせるのであらうか私には一向解らん。無い物はドウしても無いのである。同様に有る物は又ドウでもあるのである。有りながら無い生活をさせられると云ふ事は何故か。それは矢張り現実の確実な機構を理想と置き替へた処に一つの原因があると思ふと共に、輸送が出来ないと云ふ事も云へる。満洲へ喰ひに行かせたらよい。未耕地が一六八〇万町歩もあるから増産なんて満洲に限る。ナゼ山東移民の入満を止めて居るのか、物が必要なら造らせたらいではないか。又しても安く入る、それがイケナイのだ。物が沢山入れば高くなるのが当然であるのだ。安くなんて云ふ事が抑々の間違ひである。其処に大きな原因がある。

八月廿一日

新民印書館の迎への人が十時過ぎに來た。梨本君も來て呉れて一寸話して後刻再会を約して新民印書館に行く。洋車一台往復廿五元也との事であつた。ナカナカ遠い。阜城門外の昔の精〔成〕達中学校が今の新民印書館である。実に堂々たるかまへである。万寿山への街道にホコリの中に文化が生産されつゝあるのである。安藤君、山下君、百瀬君などと面会したり工場を見物したりして昼食に炸醬麵の御馳走になった。それから安藤君の案内でマテリオリッチの墓を見に行つた。天主堂の修道院がある。其裏に沢山の大理石の墓碑林がある中に一番奥の列にある大理石の碑がそれである（修道者の碑は全部大理石である）。修道者が色々の葡萄酒など醸造して其売上げによって經費を造つて居る。そして学校を経営したりして居る。墓から一直線到北京飯店に帰る。梨本氏が迎へに來て呉れたので行く。梨本君の

宅は旧北京市長の家屋であってナカナカ豪華版である。村上知行、小沢直元已に在り四人の雑談つくる時なし。紅茶出て番茶出て羊羹出てブドウ出てクリームケーキ出て抹茶出てと云ふ調子で、此れもつきる事がない。途中から坂井徳三郎氏も来てトウトウ七時過ぎ迄話した。六時からの座談会に出席した。十余人の会合であった。夜十時過ぎ帰宿した。

八月廿二日

朝八時過ぎ梨本氏の厚意で停車場迄自動車で送って頂き氏の面子で入場ヤット座席は得られた。九時廿五分発南下する。東安市場で偶然会った光子から昨夜電話があつて明日是非お見送りしたい云々と云ふ事であつたがよい加減に聞いて居った処、ホントに二人連で見送りに来て呉れた。先づ先づ無事に暮らす様に云ふてヤガテ発車した。車中無事。

八月廿三日

徐州迄に先づ式時間遅延〔が〕出たので南京の天馬はダメと解った。沿線に数ヶ処被害を見た。トウトウ午後六時の小火輪で南京へ渡る事が出来た。車中の朋友陶先生（南海飯店）と共に揚子ホテルに行つて見たが部屋がないので、小火輪で偶然会った佐々木君（旧小林洋行員）に頼んで首都飯店を取ることが出来た。佐々木君は現在田中鉄工廠なるものを経営して居るとの事であつて色々面白い話を聞いたが、特に現在鉄路従業員のサボタージュ傾向を聞かせて呉れた事はありがたかった。列車の遅延は大体サボつてゐるものらしい。一浴して田中君と話して寝た。

八月廿四日

上海南京間の列車が午後四時の天馬と夜行とがなくなつてタッター本朝の飛龍があるだけである。何となさけない状態ではないか。其為めに南京で一泊せねば動けないのである。廿一日北京発浦口行きは途中他列車事故の為メ蚌埠迄に十四時間も延着して廿三日午後一時にやっと浦口に到着したとの事である。私の乗つて居った列車の二時間半遅れなどは非常な幸福であると云はねばならぬ。

車中相場（津浦）

日本饅頭 一ヶ十元、サイダー 一本八十元、焼餅 十元に三個、油条 十元に三個、玉子 十五元に二個、焼鶏 三十元一隻、牛肉 十元に一切れ、下関から首都飯店迄（車）百元。以上は津浦線車中の販売

車中で知つた支那人の案内で揚子ホテルへ行つて見たがダメ、首都飯店へ百元の車賃を払つて行つた。一泊して翌朝田中氏の旧友古川某と偶然面会されたので、其縁によって自動車に便乗させて貰ふて都合よく汽車にも乗った。車中又偶然揚州領事橋丸先生と揚州警察署長塩沢氏とに面会して色々話しながら午後三時半に無事上海帰着、出光、長谷川両氏の出迎へを受けて宅へ帰った。今日の首都飯店の弁当は一人前百元である。此れで今度の大旅行往復七千五百キロを無事了つた事になる。（了）

八月三十日

上海もいよいよ戦場となつた。昨夜も数機の敵機が月明に乗じて上海地区に侵入して来たが、損害もなく撃退したと報道部が発表された。

電 三〇七九二 静安寺路一五二二弄の 70 名取方 小林

電 四二三八〇 沼静雄先生 連絡事項、中国の家庭入希望

電 七三二六九 中日文化協会 陶

中支派遣第一五五野戦郵便局気付 開第七九八三部隊渡辺隊 内山正雄

仁に就いて

仁と云ふ字は二人の横組みであって、仁本起夫婦と云ふ解釈もあって支那の九族と云ふものが何処が首めになるのかハッキリしない時に此の解釈は大変面白く、夫婦が首めであって上に四組下に四組で丁度九族になる事が解る。処でモ一つ考へられることは（斯先生の説）、仁は杏仁、米仁、桃仁等の仁であって、実は果穀の核心を指している点を参考とすべきである。従って二人は倆に通じて居る事を考ふべきである。

九月廿六日

○白米 一石 壺万四千元

拾月拾日

西南諸島の中、宮古、沖縄、奄美大島等へ延べ機四百を持って四次に渡る襲撃があったと伝えられて居ると。

◎次ぎには、十二日午前七時から台湾へ優勢なる敵機の襲来があって、夕五時尚交戦中と云ふ大本營の発表であって、十三時迄の戦果は撃墜百機とある。

◎十三日朝から再び台湾は米機の襲撃を受けて、十三時頃尚ほ激戦中。

インフレとデフレ

インフレとはお札の零をダンダンに多くすることである。デフレとは其零を多くしないことである。其結果として現はれる事は、零を多くしないと物がダンダンに無くなって来る。遂に市場には其影が見へなくなる。零をダンダン多くすると物がナカナカ無くならない。零が増へるに従ふてダンダンと物が出て来る。

一体戦争には無くなるのがよいのかそれとも多くなるのがよいのか。戦争の決定は人の数と物の量とであると考へる人々もあるが、又人の質と物の質とであると云ふ人もある。されば此の数と量と質と質とが両極になって初めて決定となるのではあるまいか。

十一月十一日

今日は平和の記念日でありみきの誕生日である。雲は低からねど一面に天を覆ふて居った。午前八時四十分店へ行くべく出て寶楽安路を曲ったトタンにドンドンと云ふ大きな音がしたので、見送って居った家内にブーが鳴るかも知れないよと云ふて居ったら、遠くの方でサイレンの音がブーブーブーと響いて来た。サア来たのだと家へ引返へした。自警団員の声は敵機襲来 B29 一機呉淞方面に現はるとか敵機上空総員待避とか云ふ声が四方から聞へて来る。ドンドンドンドンと高射砲の音もする。機関銃がタンタンタンタンタンと鳴る。パンパンパンパンと敵機の音だ。見れば上空にハッキリと四発の銀翼が東北から頭上を西南に向って悠々と堂々と飛んで居る。下からはドンドンタンタンタンタンパンパンパンパンパンと豆を煎る様である。

敵機上空敵機上空と云ふ声に指さゝれる上を見ると、遙かに高く音さへ聞へぬ高さで悠々と南の方へ飛んで行った。友軍機友軍機と云ふ声につれて見ると式機が猛然な速度で敵機を追ふて行く。然し近づけそうでナカナカ近〔づ〕けない。敵機が方向を西方にむけた。西へ西へと空中に船の様に浮いて居る。又一機が東北から上空に現はれて悠々と西南に飛んで行った。八時四十分飯田栈橋付近に爆撃〔弾〕落下、九時〇八分交戦中、只今迄に判明せる負傷者三十余名、中一名死亡、呉淞瀨西方面にも爆

弾を投下せる模様なるも判明せず、と云ふ自警団への報告があった。

みきの記念日で赤飯を造って二人で食べたが、自警団の人々へ握飯にして持って行く事を考へて二人で十個ばかり握って持って行った。案のじょう皆空腹の時喜んで食べて呉れた。宮脇さんからも蒸パンが来た。海軍武官府と教会の間の路上に二つ、北四川路学店前に一つ高射砲弾が落ちて学店のウインド硝子に孔があいて居る。二時過ぎに漸く警報が解除された。止って居った電車が北行して来た。北部市場前でパンと云ふ音がした。真管がレールの上に落ちて居ったのを電車がひいたのであった。四五時間悠々と上海上空を吾がもの顔に飛び廻って遂に何れにか見へなくなった。未曾有の記念日となった。二六〇四、十一、十一。

大本営発表 十五時二十分

十一月十一日午前十時頃在支米空軍 B29 は八十機内外を以って九州西部及済州島に対して雲上より無何〔差〕別盲爆をした。

十一月廿一日

午前七時半早くも空襲警報は発令されて遂に午后二時迄つゞいた。実に上海初めての長時間に渡ったのである。其間時々ヒヤリヒヤリとさせられたが特殊防空壕を造って出たりはいったりして過ごしたが、遂に電燈が切れた。ガスも出なくなった。電話も通じなくなった。電車も動かなくなった。人の噂では楊樹浦の電燈会社が破損したのだとの事である。日本へも南京へも行ったとの話だ。心配な噂がたって居る。上海航路船が未着との事である。

貧乏への路

親辛抱、子楽、孫飯討と云ふことが私の田舎の言葉である。「売家と唐様で書く三代目」と同じ言葉である。親は辛々苦々して長者になった。其葬式は実に立派であった。子は楽々とお大臣気取りで生活した。孫の代になって遂に「大廈の覆へる、よく一木が支ふる処にあらず」となって遂に乞食となると云ふのであるが。

儲備券に就いて

儲備券が二六〇〇年に始めて発行せられるや、表面は孫中山の写真版であり裏面の中山陵も亦た立派な写真版であった。五元、十元は且つての法幣と何んの劣りもなかったが、暫らくにして其印刷がインキの加減が悪くなって手に色がつく様になった。色の濃いのがあり淡いのがあった。仮票が出来た。仮票の方が印刷が鮮明であった。百元札が出た。色が手につく壱百元札が替った。

青年会に就いて

○権力と金力とに追従してはならん。
○出来ないことをしてはならん。
○南京の朝天医院は永久的のものとは考へられない。
○青年会同盟
○青年会理事会に島津総主事が出席しないで、反って同盟の末包氏が出席して居られるのはドウユウ理由か。

王先生の営業法

商品一千万円で商買〔売〕を初める〔時は〕、此持品は何日でも此れ丈けの量を必ず持って居るこ

と、そして毎日貳百萬元仕入れて百五十萬元売る事、此れが支那式の営業法である。

一九四四年十二月十八日現在

玉子 一個五十元、豆沙饅頭 五十元、大餅 貳十元、花生糖 貳十元、

白米 一担五萬元、皮靴 貳萬元、白糖 一斤千貳百元、大棗蜜餞 一斤六百五十元

此れは兩三日來の大飛躍である。原因はビルマ戦線の不良と比島方面の不良と云ふ電報が支那側に盛んであると共に、日本の静岡愛知三重の地震と津波について〔と B〕29 の空襲による東京の大火災と云ふ電報が影響して居り、上海の米の在存薄が最も影響して居る様である。

十二月廿三日

田舎饅頭 百元、玉子 五十五元、葱 一把百三十元、大根 一本百元、人參 二本四十元

物価表、1944 年 12 月現在

前			現	
米	10.00	担	\$ 50,000	5,000 倍
小麦	2.50	袋	\$ 10,000	4,000 倍
砂糖	0.06	斤	\$ 1,200	20,000 倍
塩	0.06	斤	\$ 120	2,000 倍
石炭	16.00	噸	\$ 200,000	12,500 倍
煤球	0.90	担	\$ 3,000	3,300 倍
火柴	.90	ヶ	\$ 5,000	5,500 倍
棉花	0.60	斤	\$ 1,000	1,600 倍
棉布（細布）	12 ポンド（36 吋, 40 ヤール）			
	10.00	反（疋）	\$ 40,000	4,000 倍
藍布	15.00	疋	\$ 60,000	4,000 倍
絹	1.00	尺	\$ 700	700 倍
20 棉糸	250	400 ポンド・梱	\$ 1,200,000	4,800 倍
毛皮（鼠背大衣）	450	1 套	\$ 450,000	1,000 倍
毛糸	1.30	ポンド	\$ 30,000	23,000 倍
銀貨	\$ 1	七匁貳分	\$ 600	600 倍
銅貨	3 厘（300）	1 個	\$ 15	5,000 倍
金塊	1,000	十両	\$ 800,000	800 倍
白金	1,000	十両	\$ 8,000,000	8,000 倍
毛織物	1	一尺	\$ 6,000	6,000 倍
硼酸	13 と 100 分の 4	200 ポンド入	\$ 200,000	15,000 倍
苛性曹達	60 と 100 分の 4	300 キロ入	\$ 600,000	10,000 倍
ワセリン	.20	ポンド	\$ 1,400	7,000 倍
木材（洋松）	.10	1 平方尺	\$ 1,000	10,000 倍
紅木	\$ 10.00	16 両 百斤	\$ 60,000	6,000 倍
紫檀	\$ 80.00	16 両 百斤	\$ 300,000	
白檀	\$ 300.00	16 両 百斤	\$ 200,000	
写奏	筆 0.144 金（?）	1 本	\$ 90	

漱金	墨	1.92	16両斤	\$ 1,400
毛壇〔氈〕		2.70	一枚(?)	\$ 4,160
九江螢茶杯		.08	1個	\$ 100

内山みき発病の経過

一九四四、十二、三十一、今日二六〇四年を送るに当ってみきが持病の再発、二六〇五年の一月元旦から病臥した。そして三ヶ日が過ぎて四日に私は一寸各店へ挨拶丈けに出た。実は自分も元旦の丑三時から喘息が起きて苦しんでは居るのだが、昼は楽な為メに出た。そして毎日九日迄は出たが、みきの病状面白からず、十日から休むことにした。今日は十二日であるが、みきの病状は依然として呼吸の困難が最も苦しめるものである。

藤巻婦が隔日位イに来て接手療法をして下さるのも大変病人によいらしい。然し今日は甚だ効能も卓越でないらしい。帰られると又初まった呼吸困難、私はスグに背をナゼてやったが困難な呼吸は少しも薄らがない。昨日私はいよいよ重態である事を知って、東京の村田、内山と芳井と小倉とへ、ヤマエアツシと打電して置いたのであるが、果して刻一刻と病勢は進んで行くのみである。午后芥子泥の湿布をかけたが少しも効能がない。

七日には七草の粥をして共に食べた。九日には結婚三十年記念の送金をした。

十一日には赤飯を煮て私の誕生祝をした。十二日には赤飯の残りで赤豆粥を造って十五日小正月の取越しをした。

十一日には豆腐汁をして昼食に共に久し振りに舌鼓を打って食べた。夕食は大根の味噌汁で又共に食べた。十二日朝の赤豆粥を最後として昼食も夕食も見た丈けで食べなかった。夜に入って呼吸困難はつづいた。須藤先生の注射も無効であった。

十三日〇時に自分は人事不省〔省〕に陥って其まゝ昇天すると云ふて居ったが、それが出来なかった。ジリジリと迫って来る死の為メに生命が戦ふ其戦ひこそは実に本人の最大の苦闘であつたのだ。流れ出る汗は額に於いては冷汗であり身体に於いては流汗である。心臓近くは丸でムロの様である。而も手も足も冷たくて何程私の手で握っても温か味は少しも出ない。十三日午前五時頃からの此生と死の闘争は私の手に脈打ったのである。私は初めて命と肉体の死とが戦ふ猛烈な戦ひを知った。午前九時、四時間すれば凡べては解消しますと云ふ一言を最後として呼べど答へず、次第に死の勝利は生の力を退けて遂に九時二十二分深かい呼吸を吐いて、私の手に額をあてたまゝ神の御許に還つたのである。スグに寝させて身つくろいをしてやった。

信仰と共に稼いで三十年、あゝゆきぬ吾妻は。其名はみき。若ふして数奇の生活をよぎなくされ、人生の苦海に重なり来る苦難と戦ふて不撓不屈。一度飜然として覚め来るや、やさしくも強き強き其信仰は恰も鉄石の如く、脱線せんとする私を助けて飽く事なく、追究者をして遂に同信の徒たらしめ、敢然として稼ぐや内山書店を創立して孤軍奮闘独力、今日に至らしむ。病の床に臥すや生命と肉体が迫る死との戦ひを私の手に脈打たせて、人生の秘儀を感じしめつゝ、昭和廿年一月十三日午前九時三十分静かに神に還りぬ。

あゝゆきぬ吾妻のみきは。

完造

廿年三月八日

今日は実に愉快な一日であつた。羽仁五郎先生の北京行きの飛行機が荒木さんの偶然からスグに決定した。羽仁先生は私に預けた五万円を無条件で内山支那研究に寄付すると云ふ。中山真多郎先生へ千元の大陸新報の原稿料を渡した。二つの時計を売り度い、それは主人を亡ふて引上げる家族の費用であるとの事。よろしいと引受けて八万五千元で決定した。みきの橋碑も決定して居る。帰る車が高取君の自

転車と偶然に同道する事になって、車上の話に湯浅君の資料書物の事を話した処が、よろしい私買って陸軍へ寄付しませう、二三日待って下さい、お金を持って行きますからと。何んと百萬元寄附がチャンと決定した。而も此話は一つの美談を生んだのである。湯浅君と赤星学生の関係、そして領事館からの左遷に大使館の薄給が遂に二十年の研究資料及び蔵書の売却となり、陸軍では欲しいが金がないと云ふてゐる時に、高取君がよろしいの善諾一言で陸軍の希望が副ひ、湯浅君が救はれ、高取君が名を為す。アー愉快であった。

三月十日

高取君と同道で陸軍部連絡部に米山中尉を訪ねて湯浅資料の寄附方手続き終了す。新斗六譲渡しと共に私の二大痛快事である。井野少佐、米山中尉、佐藤少佐、高取寿男、湯浅正一と私とが列席者である。

羽仁五郎先生の依頼によって魯迅書簡集に許女士の執筆をお願いしたら、

血沃中原肥頸草 寒凝大地發春華

英雄多故謀夫病 淚灑崇陵噪暮鴉

録自集外集拾遺 遵内山完造先生雅囑致呈

羽仁五郎先生

許広平

〔上海文化人番付表〕

全	張出横網	全	全	前頭	小結	関脇	大関	横綱	蒙御免上海中日文士番附	横綱	大関	関脇	小結	前頭	全	全	張出横網	全
草野心平	佐藤俊子			小泉	池田	朝島	小宮	内山		予且	雨生	丁諦	路易士				張資平	傅彦長
老朽				不写			年寄		勸進元		年寄		不写				老朽	
				影山巍	小竹文夫	島田俊	中田書記官	小林秀雄	陶晶孫	楊之華	周化人	鄭振鐸	夏丐尊					

宮崎君の遺言

- 一 静安寺墓地を先づ買置く事
- 一 手術万一の場合は、病院から直ちに静安寺墓地に移霊して阿部義宗牧師の司式で説教抜きで簡短に執行の事
- 一 広告に宮崎慎平の名で内山完造を総代として出す事、青木節を加へる事
- 一 蔵書は全部処分する事（内山に委す）
- 一 遺品は全部小包郵便に戦時保険を付して遺族へ送る事、宮崎久子宛
- 一 遺族在住地は東京目黒区自由ヶ丘一六七 宮崎久子宛の事
- 一 家具類は処分する事

- 一 銀行預金外遺産は日本銀行大久保氏に相談して宮崎久子宛に送る事
- 一 外に投資の収益も同前の事
- 一 廖家青（江藤豊二氏気付）に遺産処分の相談をする事
昭和二十年三月十三日 公済病院病室にて

偶感

日本人の最后を日本人が書いて居る間は実に立派であるが、他人が書く様になると必ずしもそうではなくなる。特に敵人の手で書かれるならば、位置は填〔顛〕倒することが往々にしてある。

偶感

赤裸々なる自伝を書く不能人は卑怯者である。お体裁屋であると同様に、真実を書く事を恐れる国家があるならば、それはお体裁国家であり、卑怯な国家である。

物が無いのではない。人の心に物が無いと云ふ杞憂があるからである。

◎物が無いのではない。人の心に物が無いのである。

物が無いのではない。

一番の馬鹿

形式の最高潮は、今度の事変では時計の時間を統一した事である。成程形式的には時計の上では出来たが、実際には時計の原則である正午と云ふものを何ともする事が出来て居らん。其処が最高潮であつて遂に形式の破綻であるのだ。

みきの読書

○箴言の最後に、女は何日の時代でも働らかねばならん、女が働らかなければ家は倒れると書いて居る。

○伝道の書、五回繰り返へして読んだと書いて居る。

立替

土屋文明 加藤秋邨渡し金貳千円也

長興善郎 洋五千元也

田中孝知 帰国の時 金参百円也

石川 務 帰国の時 金六百円也

×○高橋齒科より 預り 済んだ

東京内山から送金の筈 金五〇〇、

×○天香さん 講演料の残高預り金一、九五〇、

東京内山から送金の筈

○山本さんから丸林さんへの預り 四百円也

東京内山から振替の筈 三金□

○鎌田よし子 福岡帝国銀行支店へ振替 貳千円也

改造社紙型の件

吉田絃二郎選集 感想集外

林芙美子選集

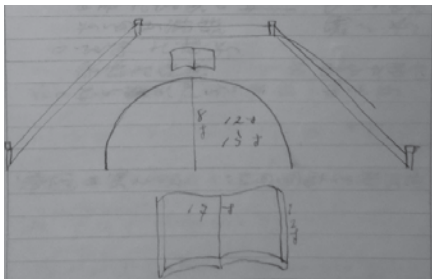
吉田絃二郎其後の著作
米内山〔庸夫〕支那風土記
米内山四川雲南〔雲南四川〕踏査記
大陸〔文学〕叢書 六種（辺城外）
山本氏著作集

岩波書店
紙型に因る大陸版
具体的条件

内山書店が中に立って岩波書店と聯合出版公司との再聯合を行ふ事。そして大陸に於ける日文中文の出版をやる。

内山書店と岩波書店と聯合出版との共同出資で、出版事業を經營すると共に販売もやる。

〔内山完造・みき墓地の見取り図〕



- 大坂の要件
 - 日配支店 新町南通
 - 日華大字典の件 内外出版物
 - 書道書籍類 駸々堂
- 京都大雅堂
 - 密教大辞典 内外出版物
- 神戸元町三 海文堂
- 福岡日配支店 渡辺通四丁目水沼様
- 東京要件
 - 駿河台営業所 内田範生
 - 九段営業所（銀座合併）
 - 本社 大橋専務
 - 岩本町 教科書（辞書類）
 - 軍用図書の件
- 帝国地方行政学会の引揚げ
- 巖松堂 同文書院との交渉の件
- 同仁会 医書の件
- 音楽書院 共益社 洋楽楽譜の件
- 南山堂外 医書の件

- 西ヶ原刊行会外 農業書の件
- 工業図書会社 共立社外工業書の件
- 海文堂出版物の件 海事大辞書の件
- 文求堂で古書の件（画集）
- 斯先生注文（古典類）
- 専門学校案内 宮脇さん
- 満洲新京特別市 西七馬路 満配本社 開原朝吉
- 大連大広場牧島町 満関貿聯大連支部 長永義正
- 満洲に於ける出版状況
- 〃 紙型に因る出版状況
特に其定価と国外輸出の状況
- 〃 紙の供給状況
- 〃 印刷力の状況
- 〃 組版の状況
- 最新醇正日本語読本 初級篇（発行の件）
影山魏（巍）編著 発音篇 全
入門篇 一 二 三（絵入り）
読本篇 一 二（絵入り）
会話篇 一 二 三 四
基礎日本語篇 全
日本事情篇 全
音楽篇 全 以上

最悪の平和も戦争に勝る

私は此言葉が非常な真理を語って居ることを信じて居るものであるが、此度びの大戦で愈々其間違ひのないことを知った。然し人間と云ふものは勝手な者で、爆弾におびえた頃にはドンナ悪条件でもよい、一日も早く平和になって貰ひ度ひものとは誰れでもが云ふた事であつた。そして八月十四日には其おそろしい爆弾の戦争が中止されたのである。吾れ人共にホット安心の胸をなで下ろしたのである。此れは内地の人々も同じことであつたらしい。ヤレヤレ此れで助かつたと思ふたのである。特に広島と長崎との原子爆弾の災難からのがれたことを吾れ人共に喜んだのである。処が其後ポツポツと敗戦国民としての現実が次ぎから次ぎと厳しさを加へて来る。

上海では虹口地区に集結せよと云ふ命令が第一次で、第二次が虹口の内、1, 2, 3, 4区と集結地区が決定せられた。此為めの移動は随分混雑した。現に今日其混乱中である。恐らくば、これから上海もダンダンに厳しさを加へて来るであらうことは間違ひないことである。然るに其今日に於いて、上海の日本人は已に又悲命〔鳴〕を挙げて死んだ方がましだと云ふ様なことを云ふて居る。然し上海は他の地方に比べて実に優待されて居るとの事である。広東の八千人は城外に退去を命じられて沼沢地に追ひ込まれ苦しんで居るとの事である。南京の一万人は城外に毎日壱千人位イづゝ送り出されて居る。獅子山の山麓の此れも沼沢地に追ひ込まれて居るとの事である。北京の人々も城外に退去を命じられて苦しんで居るとの事である。南京の一万人は多分十一月中には全部本国へ送還される様になるとの事である。そして誰れも皆な泣言ばかり云ふて居る。未だ未だ事態の真相が解つて居らん様である。吾々は最悪の平和も戦争に勝ると云ふ事がハッキリ解らねば、感謝も懺悔も恐らくば解らんであらうと思ふ。それが一日早ければ一日丈の幸福である。（一九四五年）二六〇五．十．二．（昭和二十年）

内山書店の最后

十月廿三日、中華民国特別工作班として有名なる（仮にゲーペーウーと云ふ）戴雨農の主弁する調査統計局から、第三方面軍の指令を以って内山書店の接収が来た。そして午後二時から北四川路一〇七一号の商品を二日がかりで全部持出して持って帰った。合計七億五千五百萬元を超えて居る。午後七時には第三方面軍繳字第貳百拾壹号から十四号迄の封紙が施高塔路十一号と十五号とに貼られた（旧内山本店）。二十四日の夕方に渉外委員会から内山書店の接収があります。呉と云ふ人と葉溯中と云ふ人が来ますと云ふ通知があつて、間もなく葉溯中先生が正中書局の王豊穀外数人の人々と共に来た。已に封印され又全部商品は持ち去られたことを通じたので其まゝ帰った。二十五日には更に中国々民党中央執行委員会の調査統計局から張さんと云ふ人が調らべに来た。内山学用品部は已に振華書局なる看板が貼ってある。近く旧内山書店は正中書局となるであらう。此れで三十三年の歴史ある内山書店の最后である。二十五日の午前許先生へ王先生を出して一寸お頼みした処が、二十六日の早朝に夏巧尊先生がやって来て呉れて徐蔚南先生を訪問して帮忙を頼んだが、已に全部はおしまいであることが解った。モウドウすることも出来ない。全く三十三年の夢破れて日本と共に亡んだことを以って感謝する。 二千六〇五年十月廿七日朝記す

○自主自治の人でなければ自由思想の持主ではあり得ない。

○日本人は自分の理想が自分の生活現象と同じであると無意識の間に認めて居る。此れが錯覚であるのだ。此錯覚が支那人の現象生活を見る時に理想であることを忘れて、恰も自分の生活は非常に高く支那人の生活が非常に低いものゝ様に見へるらしい。此に優越観が生れる。日本人の優越観は尚武偏重に育てられた。吾々が不知不識戦争に勝った時から勝手に決めた優越して居ると云ふ考へに外ならないのである。

○戦争には全面と部分とがある。勝敗にも全面と部分とがある。日本人は部分的戦争と部分的勝利のみを見て、恰も全面的戦争に全面的勝利を得て居るが如くに考へた。此れも亦た日本人の錯覚であつたのだ。

○敗戦して無条件降伏を受諾した吾々日本人が、其勝利国である中国に於いて未だ何か経済的權益でも持つことが出来るかの様な錯覚を持って居る人がある。

○日本が敗戦した今日の姿を戦勝国は落伍と見るであらう。日本人中にも同様に考へる者がある。然し又一面から見ると、日本はもう負ける事のない、勝利への路より外にない非常にイヤ絶対に強い立場に立たされたのである。

漫談の復活

一九四五年十一月八日の夜千愛里会の第一会〔回〕漫談会があつて、私が第一のお話をした。九日拾日の午後は同盟通信社の住宅に話しに行った。午後二時半から四時半迄話して、同興紡織で午後七時から十時迄話して、石川君の宅に一泊して、十一日の朝は上海紡織平涼路住宅で話した。

○塚本君の南京路観 一九四五年十一月中旬

吾々が特別区域に集中生活をする様になってからの南京路の変化は、南京路はガソリン自動車の専門道路になった。赤十字の急救車がラヂオをつけて往復して居る。木炭車は一切に改造が命じられた。

○突然として上海引上げ第一船が来るとの事で居留民の乗船が百人許される。船名は北鮮丸十七日到着の予定。

○再び突然として（十三日）第二船北光丸が十五日に入港して十六日に出帆するとの事、此度は居留民式千名が乗船出来るとの事であった。一人当りの携帯品は五十キロで、衣類、寝具、食器、食料等であるが、特に洋服は三着、靴は三足、下駄一足、草履一足は男女とも一人が携帯し得るもの、其他衣類等であった。式千名の乗船者は先づ生活困難者を先きにして選定せられた。第九国民学校ヘンドン集って荷物の検査及び身体検査があった。果して甚だしい悲喜劇があった。そして十六日になって北光丸と云ふ船は来ない、矢張り北鮮丸であると云ふて居ると、イヤ北鮮丸は未だ佐世保を出て居ない、博多を十七日頃に出帆する「めいゆう丸」と云ふ船が二十日頃入港する其船に乗船せしめる、此船は八千噸級であるから四千名乗船させると云ふのが正確らしく、集合した式千名は一先づ商業学校（旧）第二国民学校及上紡社宅等に一時分宿させる事になった。大変な悲喜劇であった。此為メ自治会では瞬時に一億円の救済を支出する。

○瑞康里の日曜学校の童話を皮切りに 又も私の漫談が始まって千愛里でも同盟通信社でも同興紡でも上紡でもと云ふ事で泊りがけで話に行った。公平路の尾国氏宅での日曜学校でもあったので出かけたが、此日（十一月十七日）自治会では名士非常招集があつて（九十八名）、一名が五億元あたりの寄附金募集が仰せつかったらしい。丁度童話の帰りに西川秋次氏と出遭ふたら、立話しに非常に泣言を云ふて居ったがばかばかしい、未だ財産に執着して居るのがよく見へる。

○五百円の電車賃が三千元に上った。重慶から中国政府が来たら中国の幣制は法幣に統一される。そして物価は下ると予期したことがマンマとはづれて下る処か物価はいやが上にも上って来たのである。而も重慶から来た人々と上海に居座って居った人々とは、上海人对重慶人と云ふ対立になって来た。度々新聞の上にも其対立についての文章が出た。法幣と儲備券の交換が十一月一日から始まったのはよいが、一元の法幣が儲備券式百元と云ふと、上海はそれでも交換するが地方の人々はそんなら儲備券で呉れと云ふので、ナカナカ法幣が田舎へ通用しないとか云ふて居る。そこで最近又儲備券の処理法が便法を講じられるらしい。噂によれば交換率は百元より安くはダメだと云ふ話である。何だか知らんが頻りに不平の声が高い。接収にしても同じである。失敗した日本の跡を踏んで居るものらしい。

○日僑自治会先導課では、学校教員の恩恵の訂正を志して教育研究会と云ふのが開られて、十一月十九日第一区南部のお話を皮きりに私は五日間各区を廻ることになった。西本願寺で話したが質問は少しも出なかった。廿日第二区、廿一日（王子紙製）、廿三日第三区、廿五日第四区で終り。

○中共問題はダンダン落ついて来る様だ。衝突が尖鋭になって来れば必ず米ソの方から中〔仲〕裁が出て来ると云ふ夏衍の見方は当って居る様だ。先づ米軍の方から一寸容嘴があった。

○日僑間に新生活運動が出来る。

禁酒、禁煙、禁賭、清潔、時間の励行、歩きながら物を食べな〔い〕。

一週一回各保で講演会座談会を開らけ。

一週一回各保で子供の会を開け。音楽、童話、紙芝居。

以上の様な点から。

○日僑の財産保管の必要（個人的に）。

嘆願書 内山書店主 内山完造

私は謹んで嘆願いたします。中華民國二年三月私は初めて来滬渡しました時は、丁度中国革命の元勳の一人である宋教仁先生が上海站到いて兇刃に非業の最後をとげられた時でありました。私は大学目録の駐滬員として以来数年長江を中心として十一省に渡って旅行致しました。其間聊か考へる処がありまして、妻美喜子をして当時の住宅を其まゝ北四川路魏盛里の中に内山書店を開設せしめました。専ら日本出版書籍の販売を致しました。其目的は中日文化の交流を以て極東文化の発展に寄与せんとの念止み難く、自ら信ずる耶蘇の教へを其まゝに人を信じて経営せんものと、中日両国の来客に対して初見のお客様でも代金の月末払ひを実行致しました。幸ひに私の考へである良書のみを取扱ふと云ふ方針と共に、中日両方面の読書子の御支援を得まして営業成績は日と共に発達致しました。此間多くの中日両方面の方々との交遊も得ました。今日中国最高の五院の椅子に居られる方もあり、又文化界の長老もあり、文学の最高導師と仰がれる人もありました。仮へば故人としては蔡元培先生、胡展堂、李守常先生、汪精衛先生、陳独秀先生、魯迅先生等を初めとして、今人としては戴伝賢先生、王雲五先生、陳方之博士、夏丐尊先生、故弘一法師、朱応鵬先生、郭沫若先生、鄭心南先生、范寿康先生、豐子愷先生、馮乃超先生、田漢先生、歐陽予倩先生等は、悉く内山書店の支持者であつたのであります。

内山書店十五年に際して東京に中国図書専門の内山書店を開設して、此に愈々中日文化交流の併進を企て、上海にては専ら日本書籍を東京では専ら中国の出版書籍を販売して居ります。然るに中日の国交は予期に反して年一年と險惡の徴を呈して来ました結果、長年に渡る排日貨運動となつて日本商品は悉く不買のうき目を見たのでありますが、其時に於いても内山書店は特別の取扱ひを受けまして、文化に国境なし学問は世界の学問なりとの見解によって平常の通り営業を継続し得たことは中国文化の為め実に敬服に堪へなかつた事でありまして、今日も尚ほ私の尊敬する処であります。

此間に在つて魯迅先生の唱導に参加して中国に於ける木刻運動には、最初の一八芸術社の講習会に講師として小弟嘉吉を立たしめ数回の木刻展覽会を開催して此が紹介をなし、一個日本人の中国観は此頃の著作であります。而も事態は年一年と陰雲に覆けるに至り、一度は上海事變となつて現はれ、再びは満洲に端を発して遂に今次の大戦となりて此に八年、私としては誠に残念と慚愧の思ひに堪へなかつたのであります。仮へ針の先き程でもと志し、無学なる私としては殆ど不可能と思はれる中日の了解、特に日本人をして中国を、中国と民性を了解せしめんものと、口と筆とによって日本の六大都市を初め各都市に於いて講演に無線の放送に東奔西走する一方、上海漫語、上海夜話、上海風語、上海霖語、上海汗語等の〔に〕、中央公論、改造、朝日新聞、毎日新聞、文藝春秋等の新聞雑誌に、中日實際生活の比較研究を発表して相互の了解に努力致しました。上記の書物は此等の集積であります。

一方将来の必然的要求に供へんものと、日本出版界の王座に在る岩波書店と共同して将来文化の為メ上海に於いて優良国書の出版を為〔し〕愈々中日文化の交流提携に貢献せんものと已に決定、今年中には実現せしめんと努力して居りましたが、日本政府の圧迫によりて岩波書店の解産〔散〕となつて一先づ此計画は空しくなつたのであります。然しながら私は尚ほ初志を棄てる事が出来ませんので、法によって統合的経営を命ぜられて上海図書有限会社と改名しつゝも其本来の使命に向つて努力して居りましたが、終戦と共に其学用品部の一切は軍事委員会調査統計局の接収によって一物も残さざる迄に持ち帰られ書籍部は封鎖されて、目下引渡し整理中にあります。

乍然私は尚ほ初志を棄てる事が出来ません。即ち上海文化服務社なる一機関を設けて、幸ひに残存して居ります東京内山書店を利用して中国紹介をつゞけるつもりで居り、また現に中国の文学を特に最近十年間の文学作品の優良著作の翻訳を企て、居ります。此くて許されるならば、過去三十年の活動を基礎として最後の努力をするつもりで居ります。

時適々中央文化運動委员会主任委員張道藩先生及中央宣導部副主任許孝炎先生が来滬されて文化界の奮起が促されて居る事を新聞紙上で拝見しました。其記事中に張道藩先生が文化の面に於いては上海人

とか重慶人とか云ふ様な区別はないと云ふて居られるお言葉を見て私は非常に勇気づけられました。此れやがて文化の世界は共通である、中国人とか日本人とか云ふ区別はないと云ふ事に迄発展するものであることを考へましたので、出来るならば目下接收中に在る施高塔路十一号及十五号の二つの店の中の一つを私にお還し頂いて、店名の如きは貴命にまかせますが、其實質に於いて私の三十年の経験と私の最後の念願とを働らせて頂き度いと思ふのであります。特に極東の将来を思ふ時に、私は私の生命を打ち込むのは今日であると思へて居るものであります。

尚ほ詳しくは、若し張道藩先生、許孝炎先生に三十分間の御面談をお許し下さるならば、光栄此れに過ぎるものはないのであります。希くば賢明なる王光漢先生、鄒任之先生、王念忱先生の御力によって私の此嘆願を御採用下さる様御尽力に預り度く伏て懇願いたします。一九四五、十二、一、

◎日本の敗戦に際して、第一に自殺したのが阿南陸軍大将で次ぎが海軍の航空本部長大西中将、それから東條大将が自殺のやりぞこないをして本城大将が自殺して、今度は近衛公が服毒自殺した。責任を負うて自殺したのは此中最初の阿南、大西両将丈けで、後は悉く自分の名誉とか不名誉とか云ふ事であつて決して国家の責任を負ふたものではないと思ふ。(一九四五、十二、十七。)

私の疑義

○各国は敗戦日本を帝国主義、軍国主義から解放してやる、そして民主主義国家を造ってやると云ふて頻りに指導して呉れる。それは誠にありがたいことである。マッカーサー元帥は日本憲法の改正を命じ日本土地法の改正を命じ日本皇室財産の凍結も実行した。又、今国家が管理して居る神社を民間の管理に移すことも、亦た神道主義及び此等の学校の閉鎖も悉く已に命令して居る。何にも彼も民主に変更せられたことは実にありがたい事であるが、本質的に見れば如何にも民主主義らしい此等の事柄に尚ほ一つのものを欠いて居るのである。それは此等の一切を命令して居るマッカーサー元帥が軍人であると云ふ事である。それは矛盾ではあるまいか。民主主義が平和主義であるならば軍人によって民主主義の招来はドンナものであらうか。平和は決して軍国主義によつては来ないものであることは今度日本が軍国主義の戦争に破れて軍備を撤廃され武装を解除されて赤裸にされて初めてハッキリと解ったことが、何によりの証拠である。軍国主義が精算されなければ平和は来ない、真の民主主義と云ふことは行はれないのではあるまいか。若しも平和主義と民主主義と違ふと云ふなら私は口をつぐむ丈けである。少くも軍国主義を精算しなければ平和は来ないと云ふのである。民主主義には軍備も武装も必要であると云ふなら、甚だお気の毒だが、戦勝各国は日本の軍国主義を破つて自ら又軍国主義に進んで居るものであることを私は指摘する。そして、日本は各国に一步を先んじているものであることを私は無遠慮に叫ぶものである。されば各戦勝国は、日本を教へる前に日本から敗戦によつてのみ理想の平和には到達し得るものであることを学ぶべきであると思ふ。各戦勝国は今日私の此言を容るゝの雅量を以て居らんであらうと思ふが、やがて何れの国かが又日本と同じ様に敗戦した時に始めて其嘘でなかったことを知るであらうと思ふ。一九四五、十二、十七。

正雄の帰宅

昭和十九年一月廿一日に応召した正雄は、丁度二年振りの廿年十二月廿一日の夜無事に帰って来た。東台から大別山を越へて漢口に出て更らに湖南省益陽に駐屯して終戦に及び、召集解除になって漢口に出て三ヶ月間特別の生活を續けて、遂に十二月十四日に漢口を出帆する興亜丸(疾病兵式千六百名乗船)に便乗が許されて石炭艙の中に約三百人が乗り込んで、廿日午后四時に無事上海に着いたのである。然し此れで先づ先づ安心である。十二月廿二日記す(二十年)

十二月廿五日

今日の新聞は佐世保から出帆した栄豊丸が廿四日夕方パールブイに到着したと報じて居る。然したゞそれ丈でなく私共を最も朗らかにして呉れる吉報があった。それは内地からの郵便物が九十六梱託送されて居るとの事である。此れは上海日僑の心を十二分に明るくして呉れるものである。

第二船江島丸

日僑引揚げの第二船江島丸が四千人余を乗せて十二月廿六日鹿児島に向けて出帆した。第三船（軍人ばかりを乗せる）栄豊丸が今日午前中に到着する筈である。此外に廿三日に呉を出帆した軍艦宗谷が近く到着してすぐに出帆するとの事である。以後上海鹿児島間を定期的に航海するとの事である。

嘆願書

先きに嘆願書を差出しまして未だ完全なる御決定も頂かないのに、重ねて此嘆願を致します事は少し話が違って居る様にも思ふのでありますが、事は早く御願ひして置かないと六菖十菊の恨事となる怖れがありますので、敢へて此に嘆願を致します。

目下正中書局によって接收手続中の日本書籍（名義は上海図書有限公司となって居ります。施高塔路十一号、十五号及び呉淞路海寧路角の三個处在庫）其一部は接收者に置いて参考として必要とせられる物もあると存じますが、一部分は全く不要の物もあり、又相当数は且って日本が軍国主義時代の反平和的の物もありますので、此等の書籍は接收者に置かれても其処分に困られる者があると存じます。此等の物は一括して新らしく出発する仮名文化書局へ残こして置いて頂き度く存じます。新書局では出版用の紙が不足勝ちと思ひますので、此等不必要なる書籍を廃紙として再製するならば多少共白紙の補給にもなると思ひます。のみならず、実は私は内山書店が一部中美公司に接收され（日本政府より買取りの命令があつて南京路の店及び印刷部、それは小さい工場ではありましたが、を併せて已に現金を支払って買ひ取ったものでありましたが）北四川路余慶坊口の支店は商品店舗共全部軍事委員会調整統計局に接收され、前記三個処及び最近火災にかゝつた呉淞路天潼路口の上海図書有限公司名義の書籍其他の物は正中書局に接收されて全くの赤裸になつて居ります。

現在の私は旧内山書店の店員が行商露店によって各自が生活して居ります。其一部を各自が私の為めに割愛して養つて呉れて居るのであります。万一此嘆願の御聞入れが願へますなら、誠に私人的の事ながら私の生活費ともなる事であります。已に不可能に属するものであれば止むを得ませんが、出来る事なら何とか特別の御考慮を頂き度く此に重ねて嘆願する次第であります。尚ほ前々に御願ひ致しました店舗の件もどうか出来る丈け速かに御決定頂き度く此れ又重ねて御願ひ致します。 民国三十四年十二月廿九日

羅克典閣下

一九四六年を迎ふ（昭和二十一年）

いよいよ元旦だ。味噌汁の雑煮だ。黒豆に数の子、田作が正月らしく卓子に並んで。私は新らしい棉入れを着せて貰ふた。山岸女士も塚本夫人も美しい支那服だ。皆んな揃ふてお目出度い（店の人々がドヤドヤと年賀に来た。清岡、小谷、竹下達も来た）。宮脇さんが早くから斯さんが来るからと云ふて来て待つて居る。十時半も過ぎた。十一時に斯先生が呉某と云ふアメリカ戻りの空軍将校をつれて来た。従弟ということだ。川村吞兵衛が一足前に来て居った。私は川村と話して居る。斯先生は宮脇さんと話して居る。宮脇さんが帰った。川村吞兵衛も帰った。斯さん達と話して居ると張操先生がやって来た。斯先生二人が帰った。張資平と三上と云ふ人とがやって来た。両張相識の間柄である。ヤーヤーヤーで話がはづんだ。一寸使ひを頼むと云ふので雄ちゃんが勤める。老酒二本に腐乳と豆板醬とを持って

帰って来た。エライ酒宴が開られた。張操独り上機嫌である。張資平と三上とが帰った。富岡君と張操と二人で呑んで居る。二時間半ばかりでトウトウ一本空けた。張操君先づ帰った。富岡君と座談会の事など話して居る処へ王念忱先生が山岸女士の見舞に来て、色々話して夕暮れ近く帰って行った。原稿を渡した。富岡君は暮れてから帰った。

昼食がパンであったが其時一寸咽頭部が痛かったので妙だなと思ふて居ったが、それは数の子の子の中毒であることが解った。夕食は少々苦しかった。早く寝たが二時前に起きた（二日だ）。元旦から書きかけた漫談第一を全く書き直した。突然として誠に突然として近く時々ピストルの音が数回聞へた。今年南瓜の当り年とでも云ふのかパンパンパンパンと久しぶりに聞いた。一度軽機を続け打ちした音もした。

矛盾

敗戦の日本に対して戦勝せる聯合國は頻りに平和を強要して居る。イヤ強行せしめつゝあることは事実である。此事を否定する者はない。軍国主義を解消して民主々義に活〔き〕よ、民主々義こそは平和の基礎である〔と〕云はんばかりに、イヤ公言しつゝあるのである。然るに其民主々義を日本に強行にしつゝある聯合國側の総帥は軍人である。民主々義の権化平和の第一人者の如く口号しつゝある。連合国の各国は今や軍事的に第三次世界大戦の前夜を思はせる様な動きをして居る。日本が且って強行して遂に大失敗をしたと指摘せられてある其軍国主義が頻りに平和平和と云ふ口号の下に抬頭しつゝあることが見へる。日本人に民主々義と平和を教へる聯合國の一環である。中国中央宣伝部対日文化工作委員会が見せた映画は軍国主義の整頓を誇るものであったのである。吾が糞は臭くないと云ふ諺がある。又易者吾身の上を知らずと云ふ事もある。矛盾も甚しいものと思ふ。一九四六、一、三。

故里の便り来る

十一月貳十二日頃からの芳井からの便りが四五枚来た。十一月九日付けの羽犬塚の岡田勇吉先生の便りも来た。モウ駄目と思ふて居った長崎の高指喜代志先生から十月卅日附けで二枚の便りが来た。夫人きわ子さんが九月三十日に第三回目の爆撃症状を呈して食塩注射で取り返したと書いてあったのは、お気の毒には思ふが然し大いに安心した。

集中生活中の結婚

小林敏次と眞崎はや子が結婚したいと云ふので、今日塚本夫妻を小林の親代りとなって貰ひ泉田と云ふ眞崎の伯父を親代りになって貰ふて目出度く挙式した。式は私が司会した。一九四六、一、十。

◎一九四六年一月十二日の物価

玉子 一個七千元
猪肉 百目八万元
牛肉 百目五万元
寧波炒面 一盆四万元
パン 一ポンド貳万

大餅 貳千元 二月十日參千元
油条 貳千元 二月十日參千元
麻球 參千元

落花生 百目四万元

栄太楼羊羹 一本參拾万元 二月二日四十万元

栄太楼生菓子 一ケ參万元 二月二日四万元

砂糖 百目十万元

醬油 一升五万元（中味）

油 一升十七万五千元

味噌 百目三万元

生煎饅頭 貳千元

野菜（大根、人參、ターク菜、トウ菜、菠菜等）

百目參千元

餅（小判形、のし餅）一本壹万元

車賃 千愛里から日本クラブ迄片路四万元

電車賃（一路終点迄）一万四千元片路
ハガキ 日本行四千元
信書 日本行八千元
改造日報 一枚（卅元）六千元 一ヶ月配達料共
念万元
大公報 一枚（卅元）六千元 一ヶ月拾八万元
晒 一反八万元
キヤラコ 一ヤール八万元
タオル 一本五万元
女皮靴 一足百八十万
毛糸 BB 一ポンド四百万元
新聞ザラ 一連四百万元
塩
木炭 十キロ念五万元
石炭 百斤 CNC 七千五十元 百四十一万元
導報雑誌 一冊壹万元
改造週報 一冊参万元
半紙 一枚壹千貳百元
パイロット白ペン万年筆 五十五万元

同金ペン万年筆 貳百万元
同インク小瓶 四万元
ミカン、ボンカン、ミカン、サンキスト 百目十
万元
カリント 百目参万元
葱 一束（七八本）五千元
白菜、キャベツ 百目五千元
抛独楽 一個参万五千元（大）八万元
同ヒモ 一本壹万元
マッチ 一個参千元 一袋（10 入り）参万元
メリヤス靴下 六万元
ビイ玉 四個壹万元
風呂銭 一人
臭豆腐塊 一個貳千元
油揚げ 一枚参千元 大一枚六千元
豆腐 一丁八千元
焼豆腐 一ケ（白豆腐の半丁分）六千元
以上

治水と治民

黄河、淮水、長江、珠江の氾濫が治水の根本である。氾濫する水を七花八裂に引き割いて水力を弱めて、それを無水の水路によって引きづりまわしていよいよ弱めて海口に流すのである。其方法として百瀆三十六浦とか三十六塿とか云ふものが造られるのである。然し此時に太陽熱による水の蒸発作用と云ふ大きな自然の治水力のある事を十分認識する必要がある。天災地変に際して流民を天下に流出する此方法は、流民が西に東に流れて居る間に人為的な作用と自然的な（太陽による蒸発作用〔用〕と同様の）作用によって流民は遂に消滅するのである。於此治水と治民の同一なる理由が判然となったのである。一九四六、一、一七。（発見）

マーシャル大使

米国は駐華大使をマーシャル大将に任命した。此れは果して何を蔵して居るかと思ふことは各自の判断にまかされて居ったが、大使は重慶赴任と共に直ちに国共の間に立って調停を開始した。恐らくば重慶側の依頼が先決的に存在した事と思ふ。此調停は見事に成功した。内戦の停止令が出たので第一段階の具体的結果を見た。協商会議の開催が第二段である。此協商に入るに先だって蔣主席の約諾四項の実施が無党派委員から提議されて、いよいよ十日以内に（十五日）実行されると云ふことになった。つまり身体、信仰、言論、集会、結社の自由を得させると云ふ原則に対する訂正修正と云ふことである。又張学良、楊虎城の釈放と云ふことも請求されて居る。そして何れも十日以内に実行されると大公報は報じている。（一月十七日）

ズースミルヒの神の秩序

現在人類の総数を十億とすると、其中には出生から五歳までが一億八百万人、五才から十才迄が六千五百万人、十才から十五才迄が六千二百万人、十五才から廿才迄が六千万人等と、此の比例によって生

きて居るのであるが、全人数としては常に娘廿人に息子二十一人の比率で出生するのである。

死亡の面は年々一人の死亡者がいるとして、一才の者では三乃至四人の中一人、三才の者では二十五人の中一人、七才の者では五十六人の中一人、十才の者では百人の中一人、十二才及十三才では百三十二人の中一人の比例で死ぬるのであるが、死亡は女兒よりも男子がや、多い、十五才から廿才で両者の完全なる均衡が得られる。於此両性各々が結婚の相手が得られる様になる。

一才から十四才までの間の死亡者が四人に一人の割合から百三十二人に一人の割合に迄上るが、十五才から二十才の間には再び百三十二人から下って百人の中一人が死亡することになる。此減退が同じ速度で死亡すれば大体に於いて人間の平均生存期間は三十年乃至三十五年となる。以上の長命者は少いのであるが実際は非常に緩慢である。

即ち二十五才では九十四人の中の一人が、三十才では八十九人の中の一人が、三十五才では七十人の中の一人が、四十才では五十五人の中で一人、四十五才では五十人の中の一人が、五十才では三十九人の中の一人が、五十五才では三十人の中の一人が、六十才では二十五人の中の一人が、六十五才では十八人の中で一人、七十才では十三人の中の一人が死亡するが、八十才では八人乃至七人の中一人が死亡する割合になる。此迄来るとその後はダンダンと死亡する者は一人も残っては居なくなるのである。ドウして計算したか知らんが、此平均が従来科学者によって統計計算される数字と甚だしく接近したものであると云ふ事である。

◎上海邦人引揚船江島丸沈没す

一九四六年一月廿二日、第四回邦人引揚船江島丸は北緯百貳十貳度東經三十一度ばかりの点に於いて觸電した。幸ひにしてブリュウパアド号が直ちに救助に当って呉れたので、乗船者合計四千三百人が救助されたとの事である。此れは誠に大変な事である。帰国者一人は大人三十キロと十日分の食料及寝具丈けより持っては居らん。子供は十五才以下は荷物は十五キロで食料寝具は同様である。此外携帯金は日本金で一人千円を限ると云ふ。全部が平均された状態で帰国しつゝあるのであるが、第一回は明優丸、第二回は永豊丸、第三回は辰日丸、第四回が此江島丸であって、本船には南京からの引揚邦人九百貳十人が途中からの割込みで上海からの乗船者を延期させて迄乗船して居るのである。何れも此の携帯荷物は全部沈没した様であるから一度上海に引揚げて来るが、廿三日出帆予定のシンユウ丸に其まゝ乗船せしめて送還すると云ふベラボーな扱ひをしないとの事であったが、それでは困ると云ふので一先づ各区の保甲で引取って、食料は自治会で荷物は保甲で調べて（各供出によって）改めて乗船帰国せしめる事になった。一九四六、一、二二、夜緊急常会にて

一九四六、一、二二、(火)

上海日本人基督教会は本年初めての、そして恐らくば上海日本人間の伝道としては最後の伝道説教会を開会した。私は其第一声を承って「人間最後の據所」と云ふ話をした。

昭和二十年十二月廿六日朝日新聞記事

栄養失調に新剤、大坂刑務所の研究に凱歌

ゼラチン療法

大坂刑務所では、最近収容者二千六百名のうち栄養失調症と疥癬患者が合せて六七百名に達し、死亡者は一日平均三人に及んで居る。

赴任間もない同所医務課長西田建美博士、同課池上孟雄博士らは、医師として又キリスト教信者として捨て、置けぬと、坂大木下良順博士や福島内科教室の協力を得て栄養失調症に浮腫、萎縮、移行の三型のあることをつきとめ、三型共主食増配(カロリー) ビタミンの補給のみでは防げぬことを確かめ、

一歩進んで薬理的研究の結果、支那の飢饉、ロシヤ、フランス革命などにニカワを食つてゐた史的事実に徴してゼラチン療法（一日二十グラムのゼラチン錠剤をゼリーにして投与）を五十名の重症患者に試みた処、短かい者は一週間、長期に渡る者でも三ヶ月の治療で、死亡一歩手前のものが仮設住宅の建築、干拓事業に出勤し得る丈けの体力を回復し、中には赤血球白血球も増加一週間に三キロも体重が増へ、血圧の順調化などこの療法の効果は目にみえて上昇、五十名中死亡者は僅に二名に止り、今月中旬東大で開られた日本學術研究会で木下、西田両博士から発表された。

なほ椎名同刑務所長も感激、新春早々から所内でゼラチン製造工場を経営、資材の整備を急いで居る。ゼラチン錠は牛、馬、鶏、兎などの骨髓を粉碎して化学的处理を行った粉末錠剤で、家庭でも出来る。

西田博士談、栄養失調は動物性蛋白の不足が原因で同蛋白の補給を行ふことにした。刑務所では多い者は一日六合の主食が配給されてゐるが、これだけでは栄養失調は防げぬことも確認した。栄養が足らぬからと云ふてビタミン剤を摂つてゐる人があるが効能は少ない。向寒の折柄一日も早く製薬を急ぎ度い。

此新聞記事を見て私は非常に愉快を感じた。それは已に私は十年来衰弱症の人々に一種の処方を書いて上げて居たのである（時には実際に薬を買つて来てもやる）。それは何日か婦人公論誌上に漢薬漫談と云ふのを書いた時にも処方を公開したのであるが、

◎驢皮膠 此れは一名を阿膠と云ふ、山東省を本場として凡く中国に販売されて居る膠剤である、

◎水獺肝 此れはカワウソの肝臓であつて、中国には沢山あるが四川省が有名だ、

◎白木耳（銀耳） 此れは四川省の特産物であつて、植物性の膠質を多分に含んで居るものである、

の三種を回轉させて服用するのである。最も今一つ蛤蜊膠と云ふものもあるので時には人々にも勤〔勉〕めて上げて居るが、何れも効能卓越であるものであるが、比して私は日本人の食物として最〔も〕少ない物はゼラチンであると云ふことから、此処方を書き始めたのであるがそれは見事に的中して居るのである。

今日日本學術研究会で其実力が公認せられたらしい事は、私としては仮へ他人が科学研究に成功した事であっても実に愉快である。私は前きにアミーバ赤痢に対して胡麻油の有効を発表して、それがトウトウ陸軍々医団によって其有効が確認され、又倉敷の中央病院が赤痢患者に油脂薬のみで非常な全快率を発表せられた事があつた。其時も愉快を覚へた事であるが、此に再びゼラチン剤の有効が確認されて一層の愉快を覚へるものである。昭和二十一年二月二日（旧正月元旦）

日本の憲法草案

いよいよ日本の改正憲法草案が発〔表〕された。先づ驚かされることは其条項が甚だ多いことである。私は憲法の条文なんかは極めて短かい大きい巾を持ったものであればよいと思つて居た処が、此れは又実に沢山の条項であつて微に入り細を穿つた体のものである。

第一 天皇、第二 戦争の抛棄、第三 国民の権利と義務、第四 国会、第五 内閣、第六 等に大別されて居るが、最も特色を見るものは第二の戦争の永久抛棄である。如此事が明記された憲法は恐らく世界にあるまいと思ふ外、全体の文章がドウもおかしい。仮へば、天皇は日本国民至高の総意に基き日本国及び其国民統合の象徴たるべきこと、何んのことはない丸で翻訳文の様な気がするものである。

次に、マ司令官が此憲法草案に満足したと発表された文章の冒頭の一語である。余は天皇及び政府が余の全面的承認を得て新たな且つ進歩した憲法を日本人民に発表するに決定、余は今日この旨を発表し得ることを衷心より満足とする次第である、云々と云ふ言葉である。日本の従来憲法は欽定憲法であつたことは云ふ迄もないが、今度の憲法はマ元帥の矢張り憲法の様な気がせんでもないのである。兎に角日本が民主国となる最初の憲法である。又時々訂正したらよいと思ふ。

一九四六年三月卅一日

今日限りで CRB の流通が禁止になった。然しモウ今月の初頃から五百元札も千元札も市上では通用しては居らない。交換率は法幣一元が儲備券二百元である。

一九四六年五月十日頃の物価

大餅 五十元 CMC 二百元

油条 五十元 CMC 二百元

臭豆腐 五十元 CMC 百元

パン 一ポンド三百元 CMC

バタ 一ポンド千二百元 CMC

玉子 一個百元 CMC 二百元,

新聞 一ヶ月六千元 CMC 四千五百元

牛肉 一ポンド千元 CMC 二十元,

豚肉 一ポンド千五百元 CMC

靴 一足五万元 CMC

偶感

男の夢に浮かぶものは女であり、女の幻に見るものは男である。比して男と女とは離す可からず、離る可からざるものである。

偶感

人間の長所は短所であると云ふ。然れば短所は又長所でもあるのだ。芸術の作品に見へる長所が其人の芸術なら短所も亦た其人の芸術である。神の芸術は完全なる自然美である。人間の芸術は欠点のある人工美である。即ち人間の芸術は欠点の芸術であると云ふてもよいのではないか。

○善いか悪いかは各々の判断にまかせるが、国家と云ふものが如何に嘘と偽りとの塊であるかと云ふことが今度の敗戦ではっきりと見へた。

五月十六日

今日から又朝の散歩を始めた。寿美の主唱である。毅さんもついて来るのでパブリックガーデンへ往復する。日本人としてはたゞ三人きりである。黄浦江上を圧して居るものは米英の大軍艦である。更らに頗る多くの各種船舶の輻輳は実に隔世の観がある。中国人から見れば米日の実力の比較なんて問題ではない。これ程違ふのに彼れの実力が解らなんだと云ふて果して云ひわけになるであろうか。兎に角確くたる美国の立派さから見て日本の軍や政治家の貧弱さは問題の外である

一九四六. 四. 一八. の思ひ出

一瀉千里に決定された寿美ちゃんと西林毅との結婚式をする日である。中沢牧師の司式で塚本夫妻の媒酌と云ふことで、私は無論寿美子の養父である。残留の関係で西林は当分内山毅となったのである。二人の上に神の守り豊かたらん事を祈るのみであった。〔以下省略〕

○フローベールは其弟子モウパッサンに教へて曰く、世の中には全然同一の砂は二粒はない。全然同一の蠅、二本の手、二つの鼻は決して無いと云ふた。然し私は、数へ切れない違った砂がどれ丈け違って居っても、矢張り砂だ、何万何十万の違った蠅であっても矢張り蠅は蠅だ、どれ丈け沢山違った手を集めて来ても矢張り手は手だ、無数の異った鼻を列べて見ても矢張り鼻は鼻だといふ。そして此れは実は裏と表である、虚と実とであるのだ。

亡友を記す

一九四五年一月十三日に私の家内が昇天した。
一九四四年には王独清が上海で永眠、
一九四五年七月には陳抱一が仁済病院で永眠、
一九四五年十二月には陸露沙医生が永眠、
一九四五年 月か、貴州で謝六逸が永眠、
一九四 年か、郁達夫は新加坡から胡愈之と共に或る小島に逃れたが、其小島から行衛不明になった。
母は富陽で日兵の為に殺され、兄は新生事件の裁判長として反対派に殺され、王映霞には逃げられ、
自分は南洋の孤島に殺された。妻離子散家破人亡である、
一九四六年五月開明書店の夏丐尊永眠、
一九四六年五月王芄生上海に逝く。

ウキリアム・モリス（ユートピア）の「無何有郷見聞記」は、其中心が

○労働に於ける快樂は芸術と満足との心随である

○地上に於ける肉体の喜びは人間の自然的状態である

此二つにあることを骨子としての夢物語である。私の坐骨神経痛夢物語りは、日本が平和主義に出発して日本を東亜の樂園に造り上る夢である。九州ドライブ、四国、本州、北海道と各々ドライブウエーを造ること、重要都市にホテル、競馬場、オートバイ競争場、野球競技場、フットボール、テニス、水泳、モーターボート競争場、日本一周、上海—長崎、長崎—大連間の大型ヨット競争、其他あらゆる競技に世界選手権獲得競技をさせる事が中心である。

敗戦は乞食を造る

上海が日本の手中に入るや、西洋人にして食へない人間がたくさん出来た。市中に西洋人の乞食が実に沢山になった。今度日本が敗戦して上海が中国の手中に還元した時は日本人の乞食が沢山出来る筈であるが、それは甚だ少いものである。現に今日解って居るのは十数人であって而もそれは悉くモヒ患者であるのだ。それは自治会が帰国順位を決定するに当って生活困難者を優先的に帰国せしめたに因るのであって、此点は上海自治会の功勞である。一九四六、六、一七。

郁達夫

ロマンチストにして情熱家である。創造社員。彼れの神経は甚だ繊細な〔で〕弱い。彼れは一種の頹廢派（デカタン）的印象を人に与へるが、然し實際は流石に経済学を東大で学んだだけにデカタンになるには余りに聡明であつた。中国文学最初の「私小説」の作家であつた彼れは、其性格の弱さからやゝもすれば頹廢の道を辿らうとし又好んで自己暴露的な偽悪者たらしとするのである。彼の出世作「沈淪」は実に民国十年の作である。八高在学当時愛に飢へた焦燥と異邦人の哀愁を赤裸々にさらけ出している。その大膽な性欲描写は当時の文壇を驚ろかし囂々たる世論の十字火を浴びたものである。彼れは心中のもやもやしたものを洗ひざらひにぶちまけた様な作品が多い。従つて尻されとんぼの作品も少くないが、「銀灰色の死」、「南遷」、「茫々夜」、「蔦蘿行」等は成功した作品である。又歴史小説の形式を借りて自分のウップンを洩らした「采石磯」は成功したものである。彼れが経済学的敏感は社会問題を取扱ふた作品も忒篇がある。然し矢張り私小説であるに變りはない。「春風沈酔の夜」と「薄奠」〔は〕代表作である。

彼れが初期の傑作は「過去」である。南方の港町でそれは甚だ物寂びた町であつた。ゆくりなくも邂逅した旧知の男女が遅すぎた恋を哀しく諦めて別れて行くゆううつな人生を描いた渾然たる名品である。彼の円熟した手法が見られる。「迷羊」、「彼女は弱い女だ」の二篇と「日記九種」等がある。「日記

九種」は王映霞との偽らぬ恋愛の記録である。彼れは浙江省富陽の人。

王独清

西安の人で詩人、創造社初期の詩人である。日本留学から帰ってフランスに留学しユーゴーやバイロン風の豪放な詩を作った。帰国後二期創造社の幹部であった。詩集には「聖母の前」,「死前」,「ヴェニス埃及人」があり、表現主義的な歴史劇「楊貴妃」,「貂蟬」がある。白薇の妹と上海に生活して居った彼れは、トロツキー派となって上海で事変中に死んだ。

六月二日付けの手紙が来た（六月十八日）

鹿地君が五月十六日に入京した。そして東京の店に二三泊して板橋区志村舟渡町二六〇三 村山民〔武〕世方へ引越したとの事、然し矢張り連絡所としては店を使つて居るとの事である。

〔以下には、上記6月2日付弟嘉吉さんからの手紙を参考までに載せる〕

鹿地亘氏は十六日御入京、十九日板橋区志村舟渡町二六〇三村上武世（七高時代の御学友）氏の許へ一先づ移られました。私の宅では居てもらっても差し支へないのですが、有名になると「今迄引込んでゐた友達がいろいろ出て来ます」と同氏の言葉通りらしい様です。沢村幸夫氏と鹿地氏御二人が前記の家に移られ、目下家をさがして居られます。

拙宅も居てもらってもよいとはいふものの、隣は全然住めない倉庫の状態なので、先生もそこを遠慮せられての事と思ひます。兄さんの御気持も解ります。私としても出来るだけのことをしたいと思ひましたが、前記学友の方が「鹿地が帰つて来たら僕の家より外には行く処はない筈だ」と入京以前から言つて居られた関係もあり、十九日前述の通り越してゆかれました。

しかし非常に不便な処なので、ずっと私の家を連絡場所にして居られます。私の部屋を片づけてそこにテーブルを置きいつでも上つて原稿書きでも会見でも出来るふうにしてあります。

毎日忙しい御様子。しかし何より意外な気がしたのは非常に静かな優しい方であるといふ点でした。伝へ聞く運動からは何か遅しい人といふ印象を描いてゐましたので。静かな山上湖の澄明さにたとへればよいでせうか。

鹿地氏外の引揚の旁々の言葉で、兄さんも元気で働いて居られることを聞きよろこんでゐます。塚本さんご夫婦とも一緒にいふことも安心出来ます。御二人にもよろしく御伝え下さい。中村、正雄、小谷、田中協平、山中、小林年、同泰治君達も出て来ました。とに角現状では各々郷里や居住地で働くことになりました、小林泰君は日配か東京堂に入る予定のやうです。〔以下、数行削除〕

出版協会への入会手続きを昨六月一日完了しました。今すぐ始めるには相当困難がありますが、御帰りを待つてにしませうか。梓氏の訳はもらっていますが他の方はまだです。梓氏の方は早い方がよいとも思ひますので、都合ではどこかへたのんで出してもらふことにでもしたらとも考へてゐます。如何でせうか。御指示を仰ぎたいものです。

岩波茂雄氏の長逝は先にも一寸御たよりしましたが、兄さんにとつても大きな寂しさだらうと思ひます。こんなとき居てくれたらと思ひます。鹿地氏の入来は私たちににとってはほんとに大きな儲けものでした。先づ博多入港の第一報と共に私の店に落ちつくといふ記事によって読売が私の店を宣伝してくれる。御来宅以来毎日毎日の来訪客は方々で拙宅をきく関係から、何にも知らない人は何か特別なものの宣伝でもして居るのですかといふ位。また個人的には僅かの時間ではありますが、氏の御ひまな時、待合せの御時間などにちょいちょい御話を伺ひまして、とても沢山な収穫を得させてもらふことが出来ましたし、また、非常に啓蒙されました、よい人をほんとによく御よこし下さいましたと御礼申し上げます。また同氏もよくいらして下さった一御学友が沢山御有りなのに多分わき目もふらず私共の方へ一す

ぢに一ことを感謝して居ります。〔2行分削除〕

六月二日

嘉吉

完造兄上

平野義太郎氏等の中国研究所でも原本が入手できれば訳して出したひと言ふています。何等か進駐軍などの方を通じてでも原本を送ってもらふ方法はとれませんか。

一九四六年第九十回帝国議会六月廿日開院

天皇の勅語あり。

本日帝国議会開院の式を行ひ、貴族院及び衆議院の各員に告げる。今回の帝国議会には帝国憲法の改正を其議に付し、なほ國務大臣に命じて緊要な予算案及び法律案を提出せしむ。各員心を合せ協賛の任を尽くすことを望む。

衆議院の奉答文

陛下親しく第九十回帝国議会開院の盛式を行はせられ、優渥なる勅語を賜り議員一同誠に感激の至りにたへません。我等は重大なる帝国憲法改正案其他の議案につき心を合せて慎重審議し協賛の任を全うして陛下の信任にこたへ、国民の委託に副はんことを期して居ります。此に衆議院議長樋貝詮三、謹んで奉答申し上げます。以上

初めての口語体で誠に下手な文である。之れで帝国議会たるものが如何に低級であるかと云ふ事が解る。

田漢茅盾を見る 一九四六、六、二一、

午後五時突然として鄒任之戦俘管理处長の自治会解消（多分本月末）の送別会が導報クラブ第2食堂（弘弘？）であるとの事で、塚本と二人で行く。五時の案内七時になっても主人姿を見せず、呉伯翔君代理として来り漸く食事に入る。来会する者、高島、船津、小川、入江、植田、西川、堤、の老人組を初めとして、堀内、岡本、塚本等の中老組以下、自治会職員と各保長等約六十人に近く実に大宴会であった。

未だ食事に入らざるに私に面会人あり、第一食堂（花月）の□山君なり。只今台湾文化運動座談会あり、田漢先生が是非お会ひしたいからお出で〔下〕さいとの事後刻を約して、宴半ば丁度鄒先生来場せしにより挨拶して中座する。花月にては此処も五十人ばかりで丁度一人の講演最中であった。座談会とは云ふが一人一人が講演するので、吾々の座談会とは一寸勝手違ひである。

短髪肥満の田漢君の案内で着席したが、隣りに旧知の林煥平君あり、塚本の隣りには高百筆？、麒麟童の両優あり。向ひ側には茅盾夫人（初めどうしても思ひ出せなかった）、其隣りに〔2、3字分空き〕女士（それも田漢夫人ではなかったかと思ふた）あり、王念忱先生は私の隣りで、向ひが田漢、後に茅盾来場、私の後ろに謝君葉女士あり、静安寺墓地に自分の子供を葬って居るので墓参した時、偶然家内の墓を見て驚いたとの事であった。挨拶されて其面ざしに記憶はある。

田漢君の司会らしく次ぎ次ぎと講演あり、台湾人の方面はファッション文化とか帝国主義文化とか云ひはするが、内心では現在では自分等の方が高い文化を持って居ると云ふことがあるので、ナカナカ表現は謙遜してもピッタリしないものがある。林煥平であったと思ふが、台湾に驚いたことは大学あり専門学校あり非常に多くの中学校小学校のあることを云ふて居った。それだけで兎に角文化の平均水準は中国よりも高いことは事実である。兎に角上海人の方は少しも台湾を知らないでシャベるので甚だしい誤差がある。講演はナカナカ尽きないが十時になったので里門の閉鎖を云ふて此処も亦た中座して帰る。田茅に再会を約した。

日僑集中生活に入ってから宴会の重複は今日が初めてであった。サインブックが廻ったがトウトウ私

に迄廻って来て二三を書いた。語るにあらず看他であった。一九四六、六、二二朝記す

○生物の中人間と動物とは、大体に於いて二つの目、二つの耳、二つの鼻孔と一つの口を持って居る。金属には七つの種類（金、銀、銅、鉄、鉛、 ）を数へると同じく、天には七曜がある（日、月、火、水、木、金、土星）と云ふのがガリレイ時代迄の基督教に於ける天文学と人間との関係の説明であった。コペルニクスの地動説は、ガリレイの太陽黒点か太陽面上を移動することによる太陽自転を確めたこと及び木星の衛星が木星を廻転すること、金星、水星の盈虧を発見してコペルニクス説の真を確めたが、ケプラーの惑星軌道の法則第一第二（一六〇九年発表）第三（一六一九年発表）の発表によって、完全にコペルニクス説が実証せられたのである。

パストール

彼れは実に偉大なる学者である。西洋に於ける酵母の発見をして、フランスの大宗土産であるブドウ酒の腐敗の原因を除去した。更らにフランスの大宗土産である蚕病の研究が完成して二大国家事業を安全ならしめた。パストールは医学界に志して器械器具の消毒を遂に医者の手指にも行ふ様にならしめて外科手術の安全を成功した。彼れは更らに進んで予防医学に於いて狂犬病の予防に成功した。彼れは一八九二年九月二十七日疲れきった様で床の中で牛乳を吞んで、「もう駄目だ」と云ふてくづ折れる様に眠り込んで終った。そして彼れは人生への偉大なる貢献を後にして昇天した。彼れが築いた高峰は今日も尚ほ微動だにしないのである。

朝日新聞によれば

日本の古本がインフレになって来た。岩波文庫星一つ二十銭本が十円から二十円、三木清の五十銭本の哲学入門が弍十五円、河合栄次郎の学生生活が五十円、世界文学全集が三十円から四十円、日本資本主義発達史講座七冊が千円である。（一九四六、六、一。）

二十八宿

蒼龍 角 乙女座、亢 乙女座、氏 天秤座、房 蠍座、心 蠍座、尾 蠍座、箕 射手座、望遠鏡座
玄武 斗 射手座、牛 山羊座、女 水瓶座、靈 水瓶座・駒座、危 水瓶座、室 ペガサス座、壁 アンドロメダ座・ペガサス座
白虎 奎 アンドロメダ・魚座、婁 牡羊座、胃 牡羊座、昂 牡牛座・プレアデス、畢 牡牛座、觜 オリオン座、参 オリオン座、
朱雀 井 双子座、鬼 蟹座、柳 海蛇座、星 海蛇座、張 海蛇座、翼 コップ座、軫 海蛇座・烏座

日月及び五つの星（水金火木土）の運動を研究する為メ黄道部の星二十八個を星宿に分けたもの、新月から新月までを一日一宿として月の盈虚の全程を星宿を以って計ったものである。

○四季

春夏秋冬の称、三種の分〔け〕方がある。春分、夏至、秋分、冬至を各季の起点となすものは天文学的分〔け〕方である。三月、六月、九月、十二月の初めを起点とするのならば気象学的四季である（統計用）。立春、立夏、立秋、立冬、即ち正月、四月、七月、十月の初めを起点とするものは日本及中国の農暦である。

○節分

毎年立春の前日を云ふ。陽暦二月二、三、四日の中に当る。

○二十四節気

中国、日本の農暦に於いて 一定の季節を示すために定められた二十四個の標準時期、二十四気とも云ふ。太陽年を二十四等分したもの（平気、又は恒気と云ふ）と、又黄道を二十四等分したものがあって（定気と云ふ）、其名称は、冬至、小寒、大寒、立春、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨、立夏、小満、芒種、夏至、小暑、大暑、立秋、震暑、白露、秋分、寒露、霜降、立冬、小雪、大雪。以上

米国軍需食糧品

アメリカからの罐詰め類が沢山上海に来て居る。牛肉が五ポンドから六ポンド入り一罐が三千元から三千五百元だ。中味は牛肉とジャガ芋と玉葱などのこま切りを塩味をつけてあるので、パンに挟んでサンドウ井ッチにしてもよしオムレツの中味にしてもよし、或は更らにメリケン粉で一塊一塊にして一寸ビフテキにもなる。肉ウドンにしてもよい。ナカナカ調法なものである。豚肉が弐千元、牛肉が千五百元もして居る今日安い食糧である。バターの六ポンド入りが一万弐千元である。此れは夏も溶けないと云ふので買って見たら丁度チーズの様である。ゴム質で従来のバターの観念では一寸使用が困る。ドウしてもチーズと云ふ観念に切り替へなければならんと云ふので、今朝はパンを薄く切って二枚の間に挟んで食べた。ナカナカ甘い。此バターは冷蔵庫の要なしと云ふのであるが、何れの品物も悉く軍用食糧なるが故に平常の観念を切り替へることが必要である。一九四六、六、二七。

輪船進出口

投降後約一年の今日に於ける、上海港の汽船の出進口の概況である。

〔ここに新聞記事の切り抜き「輪船開行日期表」が添付されているが割愛する〕

暁の黄浦江

午前五時半だ。外白渡橋を渡る人には今日の劳工に行く人々がモウボツボツ出て居るが、魚市場へ行く三輪車（オート三輪）やトラックが勢〔い〕よく走って居る。橋の下にはまだ明やらぬ苦の中に深々と眠って居る小舟（多くは漁船である）が数十隻も泊って居る。此れは蘇州河の入口であるのだ。荷物を一パイに積んだ民船も数十隻泊って居る。朝の引き潮に乗って出て行く舟が次ぎから次ぎと下って来る。

未だ公園には人影がない。昨今日に立って汚くなった外灘、それは一つには掃除が行き届かない為メである。公園に沿ふた舗道は実に残屑が沢山ちらばってゐる。橋を渡ると流石の上海の中心も未だ眠ってゐる。公園の垣に沿ふて朝食の攤子が並んで居る。一食五百元の御茶とパンの店が二軒になった。隣には煮飯店が三軒になった。麵店も二軒はある。香煙店も三軒は出てゐる。未だ少し早いのでお客はマバラだ。公園へはいる。今門はあいたばかりだ。此公園が又掃除が行き届かない為メに早朝の穢さと云ったらない。残屑で一パイである。

黄浦江は今朝は引き潮で水は甚だ低イ。ベンチに陣取って十二分に朝の空気を満悦する。アメリカの軍艦も商船も中流に右岸に左岸に実に沢山である。工場地帯の浦東も未だ操業が出来ないらしくどの烟突も煙は出て居ない。空には一点のクモもないが江上は何んとなく煙ってゐる。軍艦の電燈は尚ほ数個キラキラと光って居る。上陸用舟艇が一パイ勢〔い〕するどく走って来る。アメリカ軍が上陸する時には本船から上陸地点目がけて何百艘丸でイナゴの様に飛ぶそうだ。それはきっと壮観であらうと思ふ。

東の空はダンダンと朝焼けが濃くなって来る。海関の大時計がガンガンと鳴り出した。紅い燃へる様

な太陽が静かに押上げられる様に上って来た。軍艦であらう起床ラッパがトテトテトテトと鳴って居る。「達豊」と云ふ汽船が荷客を満載して碼頭を離れた。黒い煙を吐きつゝ、下江する。公園のボブを寝床にして居る何万或は何十万羽の小雀がチユンチユクチユンチユク啼いて居るが、パッとたって浦東指して飛んで出る。それは壮観である。昼中は浦東で稼いで夕方には黄浦公園に来て眠る。朝になって又飛出して浦東へ行くのだ。まっすぐに浦東へ行く群れと江上の途中から引返して来る群れもある。真一文字に渡江する群れもある。公園の人もダンダン増へて来る。走る人がある。太極拳、武松拳、花和尚拳等あらゆる拳の型を一人で、数人で、中には色々の道具まで持込んで来て此処でも彼処でも実に盛んである。何でも教授もあるらしく、イヤハヤ盛んなものである。大時計はまさに六時十五分だ。私の腰は自然に上った。太陽は高くなるにつれて小さく色もダンダン黄色くなって来る。沢山の人が左から右から歩く頃に、私は再び外白渡橋を渡って帰って来た。一九四六、七、十一。

吾人上海に残留者の規則

警局開弁外僑戸政

十五起核発外僑居留証並弁人事登記一月完成

第六条 有左列情事之一者、概不發給居留証或撤鎖之並呈准内政部限令出境。其有反抗限令者強制執行

- (一) 無合法護照、或冒頂及偽造者
- (二) 未往許可擅自入境者
- (三) 因為出境処分者
- (四) 貧無以為生者
- (五) 違犯中国法律或妨害公共秩序及善良風俗者
- (六) 对中国法律有違反之宣傳者

第八条在本弁公佈前居留本市之無国籍人或無約国人如不能按照第七条第二項提供合法證件時應提供受雇之、官署、学校、公司、廠店、或該僑民協會、或在中国可靠親友或關係人二人担保

○保証下列兩点

- (一) 申請人無政治的行動及犯法行為
- (二) 声人在中国有固定職業足？以自給
倘失業或不能自給保証人□担負其生活費用

以上 一九四六、七、十一。(大公報)

此れで大体吾々の残留規則が發佈されたのである。特に日僑と指定して居らん処が甚だ含蓄がある。これからボツボツと商売でも始めることにする。

何を学んだか

日本は今度の戦争で色々の事を学んだが、其中でも数量の問題については非常に深刻な勉強をしたのである。アッツ島の玉砕と称する零敗は全くアメリカの量に敗れたと云ふことを大本営も発表した。ガナルカナルもサイパン島も硫黄島も琉球も悉く量に於いて敗れたとは大本営の発表である。日本は何日でも必勝の信念が勝利するのだとか、日本精神が勝利するのだと主張して来たのである。そして遂に、日本が一度も主張しなかった数量に於いて彼れは吾れよりも優勢であった為メに敗れたと発表せざるを得なかったのである。一体科学と云ふものは、其現象に於いてそれが仮へどんな現象であっても必ず一面は質で一面は量であるのだと私は思ふ。然るに何日でも日本の主張は精神精神と主張して一度も量と云ふことを言うた事がない。私は不思議でならなんだ。なぜなら量を見捨てて科学は成立しないなどと思ふが故にである。そしてトウトウ量に負けたと発表したのである。

実は敗因ははっきりと始めから解って居るのである。そこで質に於いて可能な事でも量に於いて或は

質の可能を不可能ならしめることであると云ふことがあるのに、日本の軍閥は此事を全く無視して居ったのである。其れ故に日本は科学を以〔持〕つてゐなかつた、又は科学日本はなかつたと云ふことさへも出来るのである。処が最近日本人が一寸自家撞着に陥つてゐることがある。

最近日本のローマ字化と云ふ事が盛んに唱へられて居る。ローマ字化は日本文化の当然の路であると云ふ風に云ふて居る。然して日本の場合に於いてさへも此仕事はナカナカ容易ではないのである。処が最近又中国のローマ字化運動を援助して居る様であるが、已に昨年末にも此運動は叫ばれかけたのであるが、ナカナカ此れは大変である。ナゼなら中国の文字は中国文化の根源を為して居るものであつて、何千年間漸を追ふて發達して來ているものである。此文字は實に目からの文字であり、従つて中国文化は現象からの文化である。それを一口に云へば、西洋の文字は音標文字であるからそれは耳からの文字である。此点中国文字とは全く別のものであつて、此起源が遂に今日の東洋文化と西洋文化とを引き放して居るものである。つまり東洋文化は現象から出發して居つて、目に見る、耳に聞く、舌に味ふ、鼻で匂ふ、手で触る其のまゝの文化である。西洋文化は質の文化であつて分析を其特徴として居るものである。従つて人為文化である。中国側の自然文化（と云ふことは出来ないかも知らんが）と西洋は人為文化である。此に考へが違ふて來るのである。文化の發生を異にして居るものが中国文字をローマ字に書き替へるなんかは先づ日本人の夢としか考へられないことである。

中国の貨幣を金本位にすると云ふ話がある。世界の各国が金本位なら中国は銀本位でよいのである。それ位イの事は中国人は十分に承知して居る人間である。文字は多少の不便があつたにしても決して間に合はないのではないのだから此れも決してどうにもならんものである。たゞ日本の様に個〔固〕有文化の根源を持つて居らない国に於いては或程度迄の変更は可能である。アメリカ人にしても日本人にしても英國人にしても最も注意しなければならん事は、四億人の量の人間を政治した経験のないことである。科学は質と量とである。其量を無視することは不可能を來す。

一九四六年七月十三日

朝早く南京路外灘から二号電車で愚園路下東廟弄を抜けて墓参りをした。毅さんと寿美ちゃんも行った。秋海棠二鉢を買つて持つて行く。プラタナスの大樹〔が〕うっそうとして天を覆ふて居る。フト思ひ出したのは宮崎儀平の墓である。家内に丈け供へるでもあるまいと一鉢を供へた。大変好い心地にやつた。暫らく墓畔に休んで電車で帰つた。私は墓を守つて上海に終るべきであると思ふた。

一九四六、七、十四。

今朝の黄浦江の暁の雲のスバラシサ、何んとも口にも筆にもつくせない

- アッ火事だ、ヤ東天紅だ、スバラシイ
- 糞くらへ、勝つた負けたもなんのその、オースバラシイ今朝の曙
- 黎明だ、朝焼雲だ、暁だ、オースバラシイ今朝の曙
- 黎明だ、瑞雲燃ゆる曙だ、東天紅だ、スバラシイ

孔夫子伝を読んで

或若者が大暴風雨の夜隣の若い美しい未亡人が家が破壊されて居る処が無いから助けて呉れと云ふ。所謂救助を頼んだ時に、其若い者は色々考へつゝ遂に此婦人を救助しなかつたと云ふことである。

孔子、此独子者が人情にほだされて誤りやすい道に踏みいらうとしなかつたことを悉く賞めました（金子薫園）

と書いてある。然し此れは間違ひである。成程玉金春の劇などでも御碑亭に雨宿りした（男の居る処へ一人で女が）事が原因になつての芝居であるが、然しそれは甚だまれなことであつて芝居にならん、つ

まり救助は救助で何事も起こらない、つまり平凡のことが平凡に終わった事は数かずあるのだ。中にたまたま起った珍しい事であるので、劇になって居るのである。開けて入れたら問題が起るかも知れない、特に自分が誘惑されるかも知れないと云ふ考へで遂に救助をしなかったと云ふことは、終夜単座して居たと云ふ事とは無関係であり、此れを賞めては愛の人とは云ふことは出来ない。

又実際それは利己主義である。而も現実と未知の事柄と混同して居るかも知れないと云ふ事で、現実を無視するならば人間須らく生きる要なしである。一時間後には死ぬるかも知れない〔の〕である。此一つの物語りは甚だ卑怯なことを記して居る。弟子の顔回が死んだときに哭いたとか慟哭したとか云ふ事で、限りなき愛の人と云ふのは自家撞着になる（前の若者が違って居るからそんな事になったのだとは思ふが）。

又旅から旅の話の中に、孔子は高い理想を実現したいと考へたらしい。然し王者？にしても侯公にしても、其理想を聞いて見ても明らかにそれは青い鳥であるから、現実の政治にすぐに使ふ事は不可能であるのだ。

仮へ殿様御自分には話を聞いて改革せうとされてもやらない家来の数が多いのでそれ等の人々の為メに妨げられる、と書いてあるそうだ。此数が多いと云ふ事と現在の政治による人民の生活を十分に考へなければならん。此れは現実に誰れでもが知ってることである。数が多い、此れ丈けを十二分に考へるべきである。

文王の伝？を引いて、孔子自らが匡の国の何か出来事の時に自若として居たことの理由の説明にして居る。

此れなど丸で詭弁である。天が文王を必要とする間決して文王は死な〔な〕いと云ふのである。其通りである。然しそれは文王自らの行ひが天の意志に合致して居ると云ふ一つの条件によってのみ言ひ得る言葉である。

平和記念塔

上海の旧英租界と仏租界の外灘に前きの欧州大戦の平和記念塔があった。それは平和の女神が燈をかゝげて立って居られる銅像であって、高い台石には銅製の月桂冠や記念文を彫った銅板が嵌め込んであった。毎年十一月十一日の朝まだき世界中の上海駐在文武官が列席して、英か仏かの軍隊の喇叭手によって休戦喇叭が吹奏され、代表によって記念の辞が語られ、各々が持参した花環花籠が沢山に供へられるのである。私は初めての記念日に列席したが、仏蘭西海軍の喇叭によって休戦喇叭が吹奏された。私と家内とは泣いた。此喇叭を聞いた時の戦線の兵士達の心中を思ひ、其子を其夫を其兄を其弟を戦場に送って居る家族たちの心中を推察して、如何に嬉しかったであらうかと思ふ時に、涙は自然に流れ出たのであった。列席せる人々も泣いて居た。以来毎年出来る丈け列席したのであるが、満洲事変の起った年であったと思ふ、日本人側の代表は誰れも出席して居らなかったと思ふ。其後は毎年日本側は領事さへも出て居らん、無論花環も来て居ない。

日本は好戦国であると烙印されて居る。然し日本は其言葉を承認はしない。何時でも日本は平和を愛好する国であると主張して居る。私は思ふ。仮へ戦争はして居っても平和を愛好する国である以上、前きの大戦の記念日である当時聯合の一国として平和が来て喜んだに違ひないではないか。今日でも一日も早く平和の来らん事は希ふ処であるとしたら、チャンと此記念日には当然出席すべきではあるまいか。「イヤ自ら戦争しながら平和記念日になんか列席出来ない」と云ふ考へからの遠慮であったと思ふが、それは考へ違ひである。戦争が好きでやって居るのでない以上特に平和を愛する国であるならば、止むを得ざる戦争が一刻も早く平和になることは当然希ふ処である。況や已に過去の喜ばしかった記念日である。自らが戦争して居りながら平和記念日に列席出来ないとは甚だ通じない考へではないか。喜びの記念は嬉しかった記念日であるのだ。列席すべきである。此考へがダメなのだ。況や戦ひつゝ、も一

刻も早く平和を希望して居るのである。列席しなくなる事によって好戦を承認したことになる。私は其語られる？考へを何日か一寸書ひたと思ふが無効であつた。

同じ様なことが云へるのは、国際聯盟へ出席して戦争になる事件を戦争にならせないで済ませるのなら見上げた行動であると云へるが、自分の主張が通らないからと云ふて脱退して戦争するとは頭から問題にならん行動ではあるまいか。無条件投降と云ふ冷水を被ぶせられた今日だからモウそれでも叩られる事もあるまいが、外交としてなつて居ないのだ。其行動が国際聯盟から脱退して戦争する。余りにも馬鹿馬鹿しい行動である。其行動、已に戦争をせんが為メの脱退である。国際聯盟に加入して居つてよいのだ。そして、あらゆる機会に戦争を止めるべく努力する事だ。而も尚ほ戦はねばならん、それでこそ止むに止まれぬ戦争と云ふものであるのだ。日本の政治が今日迄真に戦争を回避して来たのか。日本は平和を愛する国であつたのか。日本は戦争を好んだのではなかったか。口に平和を愛好すると云ひつゝ、戦争によって富国強兵たらんとしたのではなかったか。残念ながら私でも日本は平和を愛好し戦争を防止せんと努力した国とは云へないのである。

日本の外交と云ふものは、此して一平和紀年日にさへも恥かしくて出席し得なかつたと云ふ判決が下されることになる。心に戦争を欲して居るが故に聯盟に加入して居ることが恥しくて脱退したとしか思はれないではないか。吾等は飽く迄戦争を回避せなくてはならん。吾等は飽く迄平和を愛好せなければならん。一九四六、七、一六、

黄浦の朝

朝家を出て呉淞路を南に向かふとたんに、吾等のクラブの家〔屋〕根の上に大きな金盤が高くかゝつて居る。ア一朝の月見だ。公園に入ってプラタナスの表す影に見へる月は銀盤である。あー美しい金盤と銀盤。

中国の舌切雀

お家の屋根から雀が一羽コロコロコロとコロげ落ちました。あんまり屋根が暑いのでやけどしたのでせう。坊ちゃんはビックリして雀を拾ふて見ました。そしてスグにお薬を塗つてやりました。籠の中に入れて水をやつたりお米をやつたりしました。二、三日で雀は丈夫になりました。坊ちゃんは籠から出してやりました。雀は謝々謝々謝々と云ふて飛んで行きました。坊ちゃんが庭で遊んで居りますと大きな桃の種がポツンと落ちて来ました。アラツと思ふて上を見ると昨日の雀が居りました。坊ちゃんは桃の種を植へました。大きな桃の木が出来ておいしい甘い桃が沢山になりました。お隣の坊やがそれを見て、或る日雀を一羽つかまへて羽を折つて薬をつけて治してやりました。雀が桃の種を持って来た。坊ちゃんは植へた。大きくなった。大きな桃が沢山に出来ました。坊ちゃんは喜んで桃を取つて見たら中には皆んな虫が一パイはいつて居りました。以上

読后感

徳川吉宗が二人の小姓に銘じて暗夜に湯殿に置き忘れた剃刀を取りにやつた話で、一人は暗がりに眼の馴れるを待つてと静かに待つことにせうと云ふた。一人は板敷を踏みならせば所在は解ると云ふて、板敷を踏み鳴らして剃刀のはねかへる音によって取り上げて差出した。其の行為についての評に、此れはナカナカ奇才のある頓知の働らく小姓であるが、此れは軽挙を敢へてしたのである。静に眼を闇に馴れさせてからにせんとした者は鈍才の様ではあるが事を過〔ま〕たぬ者は此れであると比評した話は、実に面白い話である。正宗が後継者を定むるに當つて、切れ味の余りにも鋭い村正を退けて温和なる貞宗に定めた有名な左正宗の物語を生んだ話と共にナカナカ味のある話である。実際大事を為すには機知や頓知や才能丈けではダメである。此等のものが揃ふた上に最後の問題は土〔度〕胸である。

日本軍閥が今次の大敗戦の一つの原因は此にも見へるのである。初めから奇才、頓知ばかりで戦争は勝てると思ふて居たらしい。旅順口の攻撃は幾重も失敗した。そして遂にマドロシクサイ正攻法によって成功したのである。大事は正々堂々の戦法でなくては成功しないものである。(了)

白色テロ

前きには重慶に於いて民主同盟の郭沫若其他の白昼襲撃あり、近く上海人民代表が内戦停止請願に南京に行くや、下関駅前に於いて所謂江北飢民によって襲撃せられ、昆明に於いては救国七聖人の一人である李公樸が刺殺せられて、其噂さの未だ消へもせざるに再び昆明に於いて聯合大学教授聞一多先生が刺殺せられた。誠に白中〔昼〕公然のテロリズムである。実は重慶に於〔て〕延安代表の一人である王若飛が暗殺された時に国民党の手だナと思ふたのであるが、以来の色々のテロ行為は悉く之れ此白色テロに相違ないことを思はせるに十分である。

且つての革命前の状態が今は中国に興って居る。然し其当時は国を革命せんと考へてあつたが、今日では各々が自分の位置を保たうとか、自分が利益せうとか云ふ様な考へからの状態であることが違ふて居ると云ふ話がある。兎に角国民党の此テロ行為だけは何んとか取締る必要がある。ソ聯のゲバウを習つてのことか知らんが、白色テロには明らかに非常な卑怯である。飽く迄正々堂々の行動をしなくてはダメだ。テロ行為によって勝利せんとする行為は封建的である。断じて民主的ではない。日本も多いがアメリカも大統領は度々テロられて居る。中国は特に多い。今日の民主同盟へのテロは憤飯すべきものがある。

上海に見る

日本も今次事変中命令の統一を欠いて軍の横暴が最も甚しかった。それを其まゝ、昨年八月十五日以後中国の各機関と軍隊との上に見て居る。特に軍隊の横暴は全く論外である。中国では何処でも道理有無で話は通じるのであるが、軍隊だけはそれが通じない。自分の方は権力が強いのだからと云ふ一点張りである。仮へば家屋の問題など行政院家屋分配委員会が最高権力を持って居る筈であるのに、軍隊はそんなことも問題にしない。行政院の方よりは己れの方が強いのだと云ふて無理から押切って侵入する。実際行政院の人に来て貰ふてもドウにもならん、強引に侵入する。此れなどから見ると中国はいよいよ新軍閥が出現するに相違ない。モ一つは軍隊を整理すると云ふことであるが、其後は必ず小賊、大賊、匪賊が増えて全国的に治安が乱れるに相違ないと思ふ。以上二つの事は特に私には目立って見えて居ることである。私が中国漫談に軍隊政治と僧侶の事には触れないと云ふ所以である。

「唐詩乃唐詩人」の中に

王維の詩に

息夫人

莫 _レ 以 _レ 今時 _二 寵	今時の寵を以って
能 _レ ク忘 _レ 旧日 _二 恩 _一	能く旧日の恩を忘るゝ莫れ
看 _レ 花満眼涙	花を看る満眼の涙
不共楚王言	楚王と共に言はず

と云ふのがある。此れは寧王が餅屋の妻女を金力と権力とで召し上げた。そして第一の寵妃となつたが、心中果してどうであらうかと一年目に餅屋を呼んで対面させた。処が其妻注視双涙顔に乗る。寧王其時座中の文士達に此情景を詩にさせた。貴人の残忍許しがたきものがある。然し当時としては悪徳とも思はなかつたらしい。則ち王維が第一番に此詩を奉った処が流石の寧王も感慨無量であつたと見へて、スグに沢山の金銀を与へて夫の許へ帰らせたといふのだ。それによって此詩は一入有名であるのだ。

楊炎の詩

流崖無鬼門関作

一去一万里　　一去一万里

千知千不_レ還　　千知千かへらず

崖州何处在　　崖州何処にかある

生度鬼門関　　生きてわたる鬼門関

此詩の説明に、崖州は広東省瓊山県の付近、鬼門関は両石相對して立つ形鬼の如きから名〔付〕けたらしいとあるが、此れは中国の鬼が解らん処からの誤りと思ふ。つまり亡者の国への門関を云ふたのであらうと思ふ。両石が鬼の形をして居るとは日本的の解釈であつて、再び帰ることのない黄泉への門と云ふことであらうと思ふ。辞源によれば鬼門関は容州、今の広西省の北流県とある。そして、俗に鬼門関と云ふそれは一度流された人で帰った人がないからだと云ふことであると書いてある。「唐詩乃唐詩人」の広東省瓊山県付近は誤りの様だ。俗に云ふ鬼門関であるから、矢張再び帰ることもない黄泉への門と云ふ意味である。

ズューズミルヒの概略

全世界の人口が十億同時に生存するとすれば、出生から五歳までの小児の第一隊は一億八百万人(強)、五才から十才までが六千五百万人、十才から十五才までが六千二百万人、十五才から二十才までが六千万人等の比率である。生存者の全数が多くても少なくても　常に比率には変化なく、小児体列が何日でも最大の隊列として居る。死亡者の方を見ると次ぎの様な山を描いて来るのである。

早起きの人

尾崎学堂は、一日に半時間づゝ儲ける(毎朝、年中五時から六時起床)。

新渡戸博士は、毎朝未明に起きて電燈の下で一時間読書する。

安田善次郎、毎朝未明に起きて店の掃除をして釜の下を焚きつけてから小僧を起こした。

大川平三郎、一時間早〔く〕出勤して機械の勉強をした。

今井慶松、琴曲界の名人となった彼れは矢張り早起党であつた。特に寒稽古は四時から五時迄であつた。

荻野元太郎(古河の大御所)、一日の中四時間眠つた(銀山の夜番)。続けることだ、途中で止めてはダメだ。

若尾逸平、努力の継続。

島に就いて

私の知ってる範囲に於いて島の説明は、島、「四面水で囲まれた陸地」となつて居る。然し此説明ではどうしても島の説明としては不足である。此の説明では、島は水中に孤立した陸地とか処とかとより思はれない。私は島の説明が日本では足りないと考えて居た。チエホフの書いた物の中に愛らしい女のことが書いてある。其文中に島は四方水に囲れた陸地の一片でありますと書いてある。私は見るなり、そうだ此うした説明でなくてはならん、日本の字引きの説明には「の一片であります」と云ふ八字が抜けて居るのである。

キューリー夫人に就いて

服部長七と云ふ男は、身は土木業であつてコンクリートの造り方を日本で一番初めに知った人である。専売特許を友人知己に勧められた。又それはスグとれたのであるが、彼れの任侠と云ふか多くの人が使つてこそ値打があるのだ、一人で独占して儲けるなんてそんな卑劣なことはせんと云ふて方法

を公知公開にして終った。蓮月尼は知恩院の境内で念仏三昧に入って居った時に蓮月の韻のかゝれた湯呑みを造って売った。ナカナカよく売れた。処が本職の方で此れを偽造して売り出した。一時は四十余軒もあったとの事、処が偽物となると売れないので蓮月は湯呑の形はお前さん達で造れ、韻は私が書いてあげると此に蓮月焼の合作が成立した（それは実に甘い宣伝であったのだ）。

キューリー夫人は其ラジウムが発見に際して夫君が専売特許を得て置こうとした時に、此んなものを独占すると云ふことは其行為自体が非科学的である、天下に公開してこそ科学の真意であると云ふて全く製造法を公開したのである。而も其最初に公開されたのはアメリカの人へであったとの事である。其アメリカは原子爆弾の製法を公開するとかせんと云ふて騒いで居るのだが、面白いことである。原子爆弾の製法を公開しないと云ふことは甚だ封建的である。自ら不平等を世界に強要するものである。其真意は自分丈けが世界の優位を保存せんとするからである。其公開こそ世界平等の路である。今後こうした発見が何日でも公開されて行くなれば世界の平和は期し得られるが、公開せられないならば再び世界は戦争をするものと云ふことになる。実際一女性とは云へキューリー夫人が、ラジウムの製造法を公開しないと云ふことは非科学的で、科学の価値は公開する処にあるのだ、公開することが科学の本質であると云ふたのは、実に今日の全米国に一人の科学者なしと云ふ結論にもなるのである。一九四六、七、一九。

似た様なこと

フランスの碩学パールが赤貧に襲はれた時に其蔵書を売却せんとした。其事が新聞に出た時に、詩人ポアローが訪問して値段はどの位で売るかとたづねた。七千ルーブルで売ると云ふた。ポアローはそれは安過ぎる、五割増しで私が買うと云ふてお金を渡した。パールは理解ある詩人ポアローの行為に感激して何日引取って呉れるかと云ふと、ポアローは微笑しながら貴方が天国へ御旅行になってから受取ります。それ迄こゝにお預けして置きますと云ふたとの話は、私をして無上に面白がらせるものである。なぜなら知らずにはあるが、先年京都で牧野夫人が内山さん貴方此本を買ってやって下さいませんかと云はれたのは、アメリカの学生用のエンサイクロペヂヤ壱部（十二冊？）であった。ワケを聞いたなら、二世の兄弟三人とかで同志社に留学して居るのが日美〔米〕が戦争になって学資が来なくなったので、売りに出したが買った人がない、あっても安いことを云ふので困ってると云ふことであった。私はそれを聞いて二つ返事で買ひませう、そして私は旅行中で持って歩くことは出来ませんから図書館へ寄付して置ませうと云ふて買ったところが、それを非常に美しいことだと賞められたが、私としては実はそんなに賞められる行為とも思ふて居なかつたのであるが、今日ポアローの事を読んで思ひ出して、似た様な小さいことをしたのだナアと面白く思ふた。

真備と囲碁

と云ふ話がある。之れは芝居にしたものであら〔う〕と思ふが、真備が唐に使ひして、帰国に際して玄宗が碁を打って見よと云はれて支那切つての名人と碁を打った話である。玄東と真備とでは丸で大人と子供、玄東が黒を打ち真備が白を打ったと云ふことである。玄東は天眼を打ったのである。すると真備は其黒の石の上に白を打った。すると玄東が怒って言語同断石を重ねる法はないと云ふた。すると真備が違法はお互ひである。天眼を打つ法はない 察する処唐の天子が世界を支配せられると云ふことであらう。それでは吾が天子の居給ふところがない、止むを得ず重ねたのだと云ふた処、玄宗が大変賞めて四方に使ひして君命を辱しめずと云はれたと書いてある。実に馬鹿馬鹿しい事である。こんな出駄羅目話は全部取消すべしである。囲碁に天眼打ちは決して違法でも何んでもない。違法だとか何んとか云ふ理屈は日本人の間にだけ通ることであつて、中国人に通る理屈ではない。此〔く〕ある下らぬ話が中日の間を誤らせるものであるのだ。

伊呂波丸沈没

坂本龍馬は海援隊長として伊呂波丸に乗って航行中他の汽船と衝突して沈没した。其時に坂本龍馬は相手の船に乗り移って燈火を消して知らん顔して居って、イザ談判となるや夜中航海に燈火無しとは怪しからんと責任を相手に転化したと云ふ話である。此の話も抹殺すべきである。コンナインチキを奨励しては困る。戦争中の事ならイザ知らず（私は戦争を悪と思ふが故に）、人間としての生活に如此虚偽によって相手を苦しめ罪に陥れる様なことは、不道德極まることである。故に抹殺すべし。

三大懺悔録に学ぶ

世界の三大懺悔録は、アウガスチン懺悔録とルッソーの懺悔録とトルストイの懺悔録の三つであると云ふことだ。そして東洋人には一向懺悔録と云ふものがない様だ。世界的とまでは行かないまでも自分の懺悔があるがまゝに書けないものであらうか。飾らず偽らず書くことは絶対に必要であると思ふ。一体東洋人は偽らず飾らない文章と云ふものが書けない人間なのであらうか。私にはどうも同じ人間であって、同じく善悪正邪曲直虚偽残虐の世界に生活して居りながら、自らが意識して又無意識的に犯かして来た生活の色々を其まゝにドウして書けないのであらうか。書けないことはないが書けば自分の位地を無くするとか、書いて書けないことは無論ないが人々に迷惑をかけるからとか、信者仲間の信用を無くするからなのか、何んとか彼とか口実をつけて要するに卑怯なのだ、書けないのだと私は思ふ。私は一つ此難事業を今日から企てる。私は過去の全体を考へ出して偽らず飾らざる懺悔録的自叙伝的のものを一つ書いて見る。それは決して名文ではあり得ないであらう。或は最も劣悪なるものとなるかも知らん。然し私は必ず意識的には脱漏することない懺悔をして見様と思ふ。どんなものが書けるか書きあげて見よう。今日は最早他人事を書いてる時ではあり得ない。自分の実録を書いたのこすべき時である。私の最後は最早遠くはないのだ。此自覚によって私は私を彫刻することにしたのだ。一九四六、七、二〇。

愛について

キリストは吾れ今新らしき誠を与ふ、汝等互ひに相愛せよと云はれた。此言葉は吾等が十分考へねばならぬ言葉である。特に此の互ひにと云ふことに注意しなければならぬのである。愛すると云ふことが一方であるのは、人間の間に於いては親子の間に於いてのみタゞ愛するのである。タゞ愛されるのである。それは神と人間の関係と全く同じである。吾等は神から一方的に愛されて居るだけであって、吾れ神を愛すると云ふことは言ふことは出来ても実際は何んにも出来ないことである。何んとなれば、神は目にも耳にも鼻にも口にも触れないものであるのである。吾等人間の間に於いてはお互ひに相愛するのである。此れは相対的であります。親子の愛は絶対的であります。此の差を考へねばならぬのである。

兄弟姉妹も夫婦も友人も親籍も知己も悉く其愛は相互にである。此お互ひに愛するには先づ吾々は男なるが故に女に優って居る者であるとか、主人なるが故に妻よりも勝れたものであるとか云ふ様な考へを少しでも持つことなく全く平等に考へる。其れがお互ひの愛の根底であることを意識せねばならぬ。具体的に云ふと、日々のする仕事でも此れは女のする仕事であるとか此れは目下の者のすることであるとか云ふ様な考へを捨て、男でも主人でも手がすいて居るなら気がついた者がすればよいのだ。吾々は実に封建的な考へを持って居る為メにやゝもすると男女とか貴賤とか云ふことを混合し易いのであるが、吾等キリストの徒に於いては最早男女とか貴賤とか地位の高下とか云ふ差別はあり得ないのである。タゞ兄弟である姉妹であるのだ。夫婦であり男女であるのだ。優劣が量の上にあっても人間としては少しの差別もありはせんのだ。此觀念がはっきりして初めて互ひに相愛することが可能になるのである。注意せよ、男よ主人よ良人よ。一九四六、七、二一。

要是正

日曜学校の額の中に、「ラクダガトオル、カボカボ」と云ふのがある。ラクダの脚と馬の脚とを間違へてはならん。馬が歩く時にはカボカボと音がする。それはカポカポと云ふ音が一番近いが、ラクダの脚がカボカボとはどうも受取れない。ラクダの脚がカポカポではなくてポットポットだ。形容詞だから出来る丈け似た音で形容する必要があると思ふ。此れと同じことは日本の漢字の説明にある。仮へば昨日の土曜会で英国人の見た日本の敗戦と戦後の日本経営についてのパンフレットは実によく見て居るので、中学生などには是非聞かして置き度いものであると云ふ希望があった。それ文句なしである。然し一番六ツか敷ことは中学生にハッキリと烙印するのは、第一国民とは何か、人民とは庶民とは臣民とはと云ふ様に一つ一つの熟字について適切な説明が必要であるのだ。日本の説明は実に抽象的なのである。君主とか民主とか云ふ事でも真一文字に避けずに説明することが是非必要である。此カポカポに私が反対すると、ピカピカに対する対句であるように云ふが、それならラクダでなく馬にすればよい筈だ。

陽七月

茄子、サヤ豆、ニラ、冬瓜、サ、ギ、南瓜、トマト、トウモロコシ、
チモウ菜、キャベツ、黄真瓜、黄瓜、青棘菰、西瓜

ナイロン製品に就いて

上海の今日の市場は全く美化して居る。アメリカ商品で一パイである。そして其中で最も目に立つ商品はナイロン製品である。

ヅボンツリ、帯皮、櫛、眼鏡、歯ブラシ、洋服ブラシ、雨衣、靴下

等実に沢山ある。今日の土曜会で林（華中蚕糸）君の話にもナイロンの靴下が出来て生糸を圧倒して来たとか云ふことであるが、私は人絹が生糸にとって替ることが出来なかった様に、ナイロンも亦だ生糸にとって替ることは出来ないと思ふ。一時は何んでも流行するものであるが、暫らくすると欠点が解つて来るのだ。そうすると又生糸の長所の再認識となるのだ。

私の考へでは、仮へ如何に立派な人工品が出来ても頭から夫れは人工品であるのだ。而も絶対的の人工品と云ふものはあり得ないのであるから、人工によって変化された迄のものであるから頭から真物ではないのだ。真物とは自然の物の事である。仮へどんなに巧妙に出来ても、生糸に対しては代用品であり仮貨であるのだ。されば真物の通りでないことは云ふ迄もないのだ。真物には何処迄も真物としての長所がある。其長所の無くならん限り代用品によって圧倒されると云ふことは断じてあり得ないものである。少しも心配はいらない、生糸は生糸としていよいよ其真価を発揮する様にすれば、それでよい筈である。如何に油絵が巧妙に描けても自然の風景が不要になったことはあり得ない。如何に立派に馬が描かれても亦た彫刻されても、木馬は木馬であり画は画である。馬は何処迄も馬である。人間の代用は猿では出来ないのだ。馬は馬としての用があり、驢馬は驢馬として騾子は騾子として各々の用がある。何れが何れを圧倒すると云ふ様なことは断じてあり得ないものである。只だ一時的流行は当然ある。それは珍らしいと云ふことが第一条件であって、流行児の心を満足せしめる丈けのものである。それによって老牌が消へると云ふ事はあり得ない迄と同時に、他の根本的原因が発生すれば別である。一九四六、七、二八。（八月中旬の上海市場のナイロン製品は約半値に下落した）

懺悔録の下書きに就いて

西洋の三大懺悔録を向に廻はす様な大それたことは無論しないが、東洋には古来自叙伝でも懺悔文でもドウも赤裸々の少しの偽らざるものが描かれてないと思ふ処から、一つ全く偽らざる赤裸々の記が描いて見たいと筆を採ては見たが、どうもナカナカ思ふ様に書けない。やゝもすると飾ったり歪めたりす

る。それは全く知らず知らずにではあるがナカナカ書けないものである。幾度が書き改めたのであるが、昨日出た下書きがドウヤラ近いものになった様である。ヤレヤレと実はホットしたのである。そして此れ丈け書けたら凡そ大丈夫だ。モウ一、二回も書き改めれば大丈夫、偽らざる飾らざる赤裸々の記になること保証付きだと云ふ自信がついて来た。ヤレ嬉しやと非常に歓喜して居る次第である。と云ふても普通一般の事は別に書きにくいことはないが、性生活の一面丈けが書きにくひのである。此点さへ赤裸々に書けさへすれば後は何んでもないとは私の考へである。其性生活の面をや、赤裸々に書き得る自信が出来たのである。先づ之れで半ば成功したと思ふ。 一九四六、七、二七。

生れて初めての記

塚本君と二人で郷先生の宅を訪問した。もう出かけたと云ふことで丁度居られた寥少将と話をして居ると、咽喉の処が何か一寸ヒッカ、ツた様な工合がするので一つ二つ咳をして見たが一向何にも出ない。そして唾をのみ込んで見るが一向飲み込めないで何かヒッカ、ツてる様であるので、一度立って外に出てウント咳して見たがダメであったので、又椅子にかけたがドウもおかしいので、モウ一度立って外へ出て思ひ切って指を差し込んで見たら何かヒッカ、ツたので引出した処が、之れはしたり、大きなかい虫が一匹出て来た。地べたへ落したらウネウネウネウネとして居る。猫がスグ近所に居ったが気がつかないらしく我関せずとして居った。此れは私としては初めての事である。よくかい虫が胃にはいったとか吐き出したとか云ふことは聞いたが、自分で口から引出したのは此れが生れて初めてであった。帰宅してスグセメンエンを飲んだ処、二三口目に三匹便所へ出た。皆んな相当大きい奴である。未だまだ居らしいのでモウ一度虫下しを飲むつもりであるが、子供の頃に一度かい虫をはかしたことがあったが以来此れが初めてである。

実は先般来何処へ行っても居眠るし又何を考へても少しもハッキリしない、纏りがつかない、いよいよもうダメになったのかと少しばかり悲観して居ったのであるが、病源が解ったので之れで安心である。之れさへ駆除すれば大丈夫である。未だまだと云ふ自信がついて来た。何にはとまれ、生れて六十二才になって初めて虫を口から引出したのである。珍事の一つとして記録する次第。 一九四六、七、二七。

祭政一致に就いて

日本は祭政一致の国である。此れはどんな事があっても分離してはなら〔ん〕ものである。此の政体が最も進歩したものであるとは小川説であるが、私の考へでは昔に於いて祭祀と政治とか一緒に行はれて居ったことがあったのであり、又此認識は世界でも甚だ古いものであって決して日本の発明ではないのである。昔は天子は祭が其仕事であったのだ。ダンダン世が進むに従ふて政治と云ふことが出来て来て、天子は祭祀と政治とをする様になって祭政一致と云ふものが出来たのである。然し又進むにつれて、政治は政事〔治〕家に祭は神官へと分掌するようになったのである。何もそれが立派な国体であるなんかドウカして居ると思ふのである。

一人丈け欲しい人

ダウ井ンは生存競争、適者生存を説き、ファールは個性の存在を、クロボトキンは相互扶助を説いて居る。何れも決して嘘ではない。そして何れの一つでもない此等の色々の説明が必ず悉く生物の中にはあるに相違ない。そしてそのいずれの一つでも全部の説明にはならんと私は思ふのであるが、而も何れも私の思ふことは一人でよいから此ふした学者が日本人の中から生れることを希望して止まないものである。日本の学者の様に已に人が説明したり発見したものを借りて来ての説明では、私には無意味ではない迄も真に価値あるものとは考へられないのである。 一九四六、七、二九。

現実とは反する

人間同志の間の愛は相互的であるとは前に書いたことであるが、然し世の中の実際について見るのに往々にして一方的である事がナカナカ少くないのである。一方は一向何んとも思ふて居ないのに、一方は無暗と愛したがるのがあるかと思ふと、一方は愛して貰ひ度い考へを持って居るのに一方は少しも愛し様と云ふ気持が少しもないと云ふ様な場合があるのである。此れ等は何れも昔から云ふあわびの貝の片思ひと云はれるものである。特に此うした現象は同じ愛の中でも恋に於いて多いのである。恋愛こそ真に相互的でなければならぬのである。然るに実際に於いてはそれが一方的であることが多いのである。一方が愛し、又一方も愛する。此して汝等互ひに相愛せよの言葉を其まゝであるのだ。然るに一方が死力を尽くして愛そうとするのに一方は全く反対に他の人を愛そうとすると云ふ様なことが世には沢山あるのだ。甲の女が乙の男に愛して欲しいので懸命に乙の愛を要求するのに、乙なる男は丙なる女を愛せんとする。こんな事は沢山あるのだ。其処に悲劇の種があるのだ。此の不調和を人間は如何にしたらよいのであろうか。解決は極めて簡短な様で実際的にはナカナカ困難な問題であるのだ。一九四六. 七. 三〇.

愛するが故に

イプセンは「海の夫人」に於いて、自分を離れて他の男に行かんとする妻に対して、愛するが故に妻を自由にしてやらねばならんと云ふ結論に達して、遂に其旨を妻に云ひ渡したと云ふことである。私は鯛の刺身は好きである。豆腐肉も好きである。然しながら毎日毎日鯛の刺身を出されたら必ず飽くに決って居る。豆腐肉も亦た同様である。上手な独唱を聞くことは好きである。然し毎日ノベツに聞かされたら必ずイヤになるに決って居る。而も老手でもない様な独唱をのべつに聞かされては実はウルサイ。現在私は実際に其現実に直面して困って居るのであるが、然し考へて見ると、私はドレ丈けイヤであっても嫌らいであっても、彼れ等は此上なく好きであるのだ。夢中になって居るのだ。それは彼れの自由である。此時私はドウしたらよいのであろうか。私は其人を愛さねばならぬのである。然れば、私は彼れを愛するが故に彼れの為すにまかせるが当然であると云ふ結論に到達するのである。一九四六. 七. 三〇.

天才か

四年生の男生でウエルズの世界文化史大系を読んで居る子供がある。「終戦以後」と云ふ綴方を書かした処が度はずれに偉い文を書いて居る。民主主義とか天皇制とか云ふ様な文字迄使つて居るので、一度折があつたら民主主義とはどんなことかと云ふことを質問して見度く思ふて居た。今日偶然宅へ来て居ったので文化史体系を読むのに字引を使ふかとたづねたら、使はない、お母さんに教へて貰ふてると云ふたから、民主主義とはどんなことかと聞いて見たら、政治を人民がする、と答へたから、人民がどうしてするのかと重ねて聞いたら答が出来なかったので、此天才的文章の本尊の頭はお母さんの頭より出ない早熟児であることが解った。「私の弟」と云ふ綴方を見ても此子の文章は丸で大人の文章であるが、其文章の意味が果して自分に解つて居るのかどうかと云ふことを考へて居た私には実によく解った。私が英語の単語を使つてのと同じである。タゞ文字を教へて貰ふたのを比較的よく暗記して居る丈けのことである。此んな子を天才児扱ひすると必ず後で失敗する。此んな子供には文字の意味を十分教へて記憶させねばならぬと思ふ。一九四六. 七. 三〇.

疑義あり（道路の舗装）

日本の医学は最近まで長足の進歩をして来て居って、遂に其原理は社会衛生に迄応用せられて大なる貢献を為して居ると当事者は云ふて居る。而も最も顕著なるものは伝染病に対する予防を上げて居る。

吾国の指定して居る十種伝染病、コレラ、赤痢、傷〔腸〕チブス、パラチブス、発疹チブス、猩紅熱、デフテリヤ、ペスト、流行性脳膜炎、痘瘡は、伝染力強烈である為メ罹病者は多く死亡するに至るものである。特に腸チブスの如きは我国全伝染病による死亡者の約五割を占めて居ると云ふことである。尚ほ、此外には流行性感冒、嗜眠性脳炎、肺炎、マラリヤ、筋肉レウマチス、狂犬病其他、恐るべき伝染病がある。

特に注意するのは伝染力の非常に緩慢な為メに注意を怠り勝ちな結核及花柳病、特に黴毒がある。結核の如きは年々全死亡者の約五分の一占めて居るほど恐るべきものである。黴毒の伝染は唯一つ不潔交接による觸接伝染であるから、最も其予防は容易であるにも拘らず、而も伝染病者は文明国程多いと云ふのは甚だ遺憾であるとして書いて居る。私は此等のことを読んで見て、伝染病の予防の如きは人知が發展するならば極めて容易に目的を達し得るものであることは今日日本の一般知識の程度に於いてや、其目的が達しられて居る様であるが、黴毒（全花柳病も）が文明と反比例的に多くなって来ると云ふのは、つまりタゞ今日の所謂文明とか文化とか云ふ考へでは撲滅することが不可能な点があるのではあるまいか。此病気の根源は或は医学のみでは発見することが不可能なもの、様である。

已に病原菌は発見せられ其伝染経路も唯一つ不潔交接による接觸伝染であると判明して居るとすれば、人間の知識の發達は其恐るべきものであることを知ると共に、当然予防は各個人が注意すべき筈のもの、様に思はれる。そうすることによって必ず其統計的数字は必ず降下する筈であると思はれるに拘らず、反ってそれが反対になるとは対予防方法及び対症療法上に錯誤がある様に思はれるのである。

また結核については、世界の文明国が年々其数字が小さくなりつゝ、あると云ふのに吾が国丈けが反対に多くなるのはドウしたワケであらうか。此れも其対症療法上に又予防方法に錯誤がある様に思はれるのである。而も此結核については当局自身も甚だ不徹底な取締りをやって居る様に思ふ。仮へば十種伝染病は隔離病舎等の設備によって伝染を予防して居るのであるが、結核に至っては全く放任してあるのは、伝染する結核菌が空气中に弥漫している為メに菌の撲滅よりも各個人の抵抗力の増進が最も大きな問題であると云ふて居るが、私として云はしむれば、世界の文明国が仮へ少しづつ、でも減少の傾向にあるのに日本丈けが反対になって居ると云ふには、何か各国の文明と日本の文明との間に大きな差が見られる様なことはないか、此れが一つ研究の対象になると思ふ。而も其菌が空气中に弥漫し居ると云ふならば、其空气中に弥漫する原因は何処にあるかと云ふことを考へねばならん。結核菌と雖もいへども天から降って来ることはあり得ない。之れは必ず地上に發生して空气中に混濁するものに違ひないと思ふ。地上の發生を考へるならば、文明の地上施設の中で各国と日本とで何が最も違つて居るかと云ふことを考へればよい。

私は各国を見て来たワケでないから正確を期することは出来ないが、世界各国の地上施設と日本の地上施設の中で大きな差の認められるのは道路であると思ふ。日本の道路は非常に原始的であるに反して各国の道路は非常に文化して居る。道路の舗装と云ふことは地上に於ける空氣の混濁に対して非衛生的であるなら云ふことはできないが、若しも舗装は空氣の混濁を防ぎ得るとするならば（私はそれこそ立派に其差が見られると思ふ）、第一に道路の舗装と云ふことを日本はやるべきであると思ふ。日本の文明は發生でなくて借用ある為メに往々にして其施設が逆になることがある。仮へば舗装道路が自動車の發明の一つの原動力であるのに、日本では自動車は借用したが舗装道路の借用の方は全くしなかつた点、極めて一小部分に限ったりして居るなどは、正に其順序を誤つて居るものである。

仮へば、道路は昔のまゝで時に少しばかり道巾を上げただけでトラック乗合等の自動車を往復させて居るなどは誠に立派な証拠である。舗装道路の自動車による空氣の混濁と無舗装道路の自動車による空氣の混濁とを比較して見れば、極めて容易に空中に弥漫する病菌の多少が発見出来ると思ふのである。私はやって見たことはないが、必ず無舗装道路上の自動車による空氣の混濁と云ふことは舗装道路上の混濁とは非常に大きな差があるに違ひないと思ふ。之れさへ解れば伝染力の大小は道路の舗装があるか

ないかに原因することが解るではないかと思ふ。空中に弥漫する結核菌は無舗装道路が其原因を為すと云ふことがワカれば、問題は道路の舗装と云ふことが先づ行はれなければならないのである。此の点について日本は忘れて居る様である。市街地の道路を郊外何里までは必ず舗装することさへ実行すれば、市街の空氣の混濁は非常に違って来る筈である。一方市の道路の清掃を実行すべしである。

且つて共同租界（上海の）が外国人によって経営せられて居た当時は、道路の清掃と云ふことが実行されて居た（不完全ながら）。処が上海市政府で経営する様になると共に先づ道路が汚くなって来た。道路の掃除が目立って来た。道路の穢なさと云ふたらない。私は毎朝パブリックガーデンへ散歩に行くのであるが、途中の道路と公園の中の芥塵とは真に言語道斷である。且つてこんな汚ないことは見たことがない。恐らくば日本人が其衝に當って以来こんなに汚くなったのであらうと思ふが、中国が結核患者が非常に多い原因の一つが矢張り此にあると思ふのである。一九四六、七、三〇。

「好」と云ふ字は、女子と云ふ二字の横組である。すき、このむ、よし、何れにしても此字は男子が造った文字である。

「男」と云ふ字は田、力と云ふ二字をくんである。之れは田で力のあるのはおとこなるがゆえに、田力が男となったのである。其男のすきなのは女子である。男のこのむものは女子である。それ故、女子と云ふ字を横に組んで好となったのである。

「局」と云ふ字は、上海では局票の局である。此字を局票とつけたのはどんな理〔わ〕けか、日本でつばねと云ふのは局票と云ふ熟字でどんな関係にあるのか、調べて見るべし。

易の家族主義

易は、大にしては宇宙は一つであり両儀を生じて之れ陰陽にして万物の根源なり。陰陽は四象となりて春、夏、秋、冬であり、八卦となりて天、沢、火、雷、風、水、山、地となる。如此易は一は二を生じ二は万物を生ずと云ふ言葉の通りに都べてを見るのであつて、家族主義を容認して一家族男女二人の夫婦二卦、六卦は六子となりて、父母則ち万物生ずと同じ考へ方である。易に於いて一夫一婦をはっきりと唱へて居るのに、何故に現在乱れて居るのか、如何にして乱れたのか、或は昔から乱れて居たので此んな考へが出来たのか、何れであるか一寸解らんが、此れはナカナカ面白い。

ヘッケル宇宙之謎

馬は馬にあらず、鳥は鳥にあらずと云ふのは、其名と実とを指して居るのである。宇宙は一元である。而も其現象は二元である。今日のエレクトロン一元は問題ないが、而も自体さへも陰陽の配列なければ現象とはならないのである。遂に宇宙の謎も、物質の法則、宇宙之法則、実質の法則なるものの存在を認めて居る。

回顧録を読む

此一編はベラムーの作であつて夢を描いたものであるが、百三十年後の米国ボストンを夢見て居るのであつてナカナカ面白い。現在の資本主義社会のボストンを描いて居る。巨大なる車の周囲に人間群が繋がれて峻しい坂道を曳き上げられてゐる状に彷彿している。車の上には、別に多くの乗客が乗つてゐる。如何に急坂に差しかゝつても乗客は一人も下り様とはしない。乗客席には涼しい微風が訪れて一切が甚だ快適であつた。風景を賞したり車の遅速について語つたりして居る。だから此地位は車を曳いてる人々の獲得せんと希望するもので、其為には実に酷烈なる競争が行はれる。

此車上の地位は甚だ安楽のやうではあるが、又一面甚だ危険である。車の動揺する毎に其席から沁り落ちる乗客も絶へずあるのである。落ちたら最後其人はスグに曳子になって前とは全く変つた苦しい役

割を勤めなければならぬから、車上人とても常に不安の念が絶へないのである。車が特に急坂の悪路へかゝった時には流石車上の乗客も曳子に向って多少の同情を寄せる。曳子も飢と疲労とでヘトヘトになって泣き叫びながら苦悶し、時に泥濘の中に気絶する者も出て来る様は実に悲愴である。此んな場合車上の乗客も美しい同情心を刺激されざるを得ない。此んな時には乗客達は、或は忍耐の徳を説いて之れを激励した。或は未来の福音を説いて之れを慰安する。或は負傷者の為メに膏藥の一枚を買ひ与へる。殊に陰悪なる場所を通過し得た時には車上の客も一様にほっとする。一と安心の吐息を洩らす。但し其安心は必ずしも曳子の為メを意味せず、車全体が顛覆を免れ得た事を祝ふのである。此曳子連の悲愴なる境遇を見ては、車上の乗客は愈々益々自己の地位の尊き有り難きを痛感して必死となって其地位に嚙りつく様に決心する。若し乗客たちが決して其座席から迂り落ることがないとしたら彼らは唯「ただ」時に応じて一枚の膏藥を買ってやるばかりで、それ以外は決して曳子の事などを考へないことは勿論である。と実に巧妙に現在の世の中を描いて居る。

私は之れを読んでアメリカのボストンでさへ現在は此くの如しとすれば、日本の現在は一体何に譬へたらよいであらうか。三峡の險を上る船にも譬へたならよいかと思ふ。一隻の船の帆柱から何十本、時に百本以上の竹縄が陸に向って引っぱられて居る。其一本一本には一人宛の人間がくゝりつけられて居る。つまり人間の群れが一双〔艘〕の舟を曳いて三峡の險の灘を溯行して居るのである。無論舟には別の少数の人々が多くの荷物を持って乗って居るのである。船を曳く苦力が飢と疲労でヘトヘトになって居ることは其死者〔死に物〕ぐるいの声を出して引いて居ることによって知ることが出来る。殊に灘を越す時の危険つたらない。十双〔艘〕の中一双〔艘〕は遭難する程の危険率の高い此峡の灘である。曳子は馬や牛と悪路に出遇ふた時に竹や棒でシバキあげられる様に追ひ立てられるのである。時に足を迂らして激流に落ち込むこともある。再び此世の風にはあたることは出来ないのである。万一にも曳綱にして切れんか、舟は其まゝ激流にはんろうされながら流れて難破するのである。だから舟の上の客も荷物もナカナカ心配であるのだ。曳子等の苦悶は人の目を覆はしめるものがあるのである。仮へ江中に落ちて死んだ処で最高が棺材一個で事は済むのである。乗客達は天下の絶景を賞しつゝ微酔して居る位イのものである。無論乗客は舟から水に落ちたが最後であるので其心配はあるにはあるが、一度灘を乗り切った時にはホット安心するが、それは曳子に対して丈けでは無くて全体に対しての安心である。特に自分と其荷物の安全に対しての喜びであるのだ。そこで此乗客の地位は水夫も曳子も羨望する処である。其競争はナカナカ猛烈である。乗客の方は其地位の尊貴を知るが故に全力を挙げて嚙りつくのである。此舟の顛覆は絶対にないとなると乗客も荷物も極めて安全であるから、曳子の事など全く眼中にないのである。此れは夢ではなく現実の話である。此れは実に現実の人生の縮図である。特に資本主義社会の縮図である。今日では三峡の險も汽船が上下する様になって甚だ危険なる民船の交通は少なくなったが、同時に多くの苦力の群が失業して居るであらうと思ふ。一九四六、八、二。

「吾等の鏡」

ゲオルグ・カイゼルの書いた「カレーの市民」と云ふ作物は吾等日本人の鏡の様である。タゞ日本では、英軍の要求である六人の犠牲者を送るなら、全市の破壊と港湾の隠没を助けると云ふ要求がなかったのと係って其犠牲者の出なかったのが違ってゐるが、日本はかくの如き不名誉な条件を忍ぼうよりもいっそ潔く戦死せうと云ふ、タゞ軍人だけが特に職業軍人丈けが考へる空なる不名誉と云ふ一点で、国内が引きづられて最後のドン底である無条件降伏まで落ち込んだのである。七人の犠牲者がふる世の中にならねばならん。特に一人のウスターシュを生む日本でなければならん。形式や空名で喜んで居ってはならん。 終り

『スイス』に就いて

スイスの人口は四百万人である（上海と同数である）。面積四万一千二百九十五方軒，山岳多く，耕地少く，水力多く，原料乏しき此国は農業を以って立つ能はず。故に工業中の精密工業を選んで立国したのである。多き水力を利用して可及的少き原料を使って，最も精巧な物を造ることを考へたのである。時計，楽器，其他の精密機械を造る。絹，毛，棉織物の精巧なるものを造る。又一方には世界が楽園として世界の人々を招来する方法を講じた。又思想的には，色々の国と隣接して居る関係上統一が不可能である処などもあって全く自由にしてある。教育に於いても他の国にない国際学校を経営して，現に二十六ヶ国の学生が勉強して居る。其目的は世界各国の国民に国際的精神を鼓吹し相互扶助，世界平和の確保を以って理想としてゐる。

一八一五年十一月廿日，列国はスウイス聯邦を永久局外中立国として定めた。（日本が低賃金を利用して大量製産を企てたのとは全く反対であった。而も日本も原料に乏しく水力多く，山岳多くして，耕地少き国でありながら）一九二九年の輸出柱時計は貳千三百十八万個であつて，懐中時計と合せて三億七千三百四十万フランの多額に上つて居る。一九三〇年の総輸出額は一七，七億フラン，輸入は全額二六，六億フランである。而も此商品は食料品と絹，毛，棉，鉄等の原料品であつた。国内鉄道の延長は五四一九軒に達して居る。将来日本はどうしても此スウイスを手本にして東洋の楽園を造るべく努力すべきである（大百科辞典による）。一九四六，八，三。

土曜会 神代君の話

今度の敗戦以後，吾々日本人は一体どうしたら好いのか一寸戸迷ひしたのであるが，私は前にも書いた様に，スイス的な方針を採用するにあらざれば日本は再生困難と考へて居るのである。無論それは私の平生の主張である平和主義，自由主義でなければならんと云ふ考へが多分に働いて居るのである。

今日土曜会で神代君のお話を聞いて，非常に考へさせられるものがあつた。戦犯裁判と云ふことは，今度が初めてであること。それはアメリカから一九四二年に日本政府に俘虜の取扱いについてジュネーブ会議の決議に據つて貰ひ度いとの申込みについて，日本は完全な義務はないが大体に於いて実行すると云ふ事を回答して置きながら，其事を政府は発表しなかつたと云ふことは大きな誤りであつたと云ふことを始めて聞いた。兎に角，捕虜の虐待とか死刑とか云ふことが重罪犯になると云ふことは日本人が初めて知る処であるから，此れは今後の日本思想に相当の影響を与へるであらうとは早く已に私の云ふて居る処である。今度の軍法会議に被告に弁護士がつけられること，又被告の請求する弁護人が日本からでも米国からでも呼び寄せられること，及び其弁護人が個人の人格的立場からナカナカ敵とか味方とか云ふこと以上に公平な主張をすると云ふことには，実に尊敬に値ひするものがある。兎に角捕虜に対する考へ方を吾々は考へなほさねばならんことになって來たと同時に，日本の軍事裁判なんかに對するもっともっと真面目な態度でなければならんと云ふ事を教へられた好参考であつた。一九四六，八，三。

教養に就いて

吾々は日本は世界の一等国と云ふことを平気で云ふて，而も自分が又其ま、一等国民でもあるかの様な氣位イばかり高くとまつて居つたのであるが，此れは何んと云ふても井底の痴蛙の考へであつたことが今度の敗戦によって暴露した。私は南京の大虐殺について当時頻りに聞いた。直接私に宣教師からも質問された。其時私は「あつたでせう。あるのがホントウだと思います。虐殺と戦争はつきものである。強姦と戦争，之れもつきものである。此等の不道德，非道德なことが平然として行はれるが故に，戦争は最大の罪惡であると云はれるのである。それ故に此等一々の罪惡を否定する者は先づ其根本原因である戦争其ものを否定すべきである」と私は答へたのである。其考へは今日も尚ほ私は変わらないのであるが，然し彼の大虐殺を，實際にあつたことを丸で何事もなかつたが如き顔をして国民を偽つて居

ったことは不都合である。

日本人は表面を飾って事実を隠ぺイする癖がある。特に文章の上にそれが甚しいことは何んと云ふても恥づべきことである。それは嘘であるからである。戦犯の弁護の為メ日本から来た弁護人が二月から七月迄は発覚しなかったが、七月になって云ふてゐる事が嘘であることが発覚して、軍法裁判官の心証を甚だしく害した事は非常に恥かしい事であつたと云ふ話によつても解る。判決が三十年とか四十年とか云ふ長年月の徒刑になつたことについては彼の虚偽の弁護が禍ひしたのではないと思ふ点もあると云ふことである。兎に角何事によらず一寸目先の都合とか他人の迷惑とか自分の不利とか云ふことから嘘を云ふことは、平気で云ふ様になつては全体日本人の教養の問題である。現に日本の宣伝は徹頭徹尾日本国民を欺いて居つたのである。あらゆる事が嘘であつたのでは全く日本国民としての教養の問題である。之れでは一等国民とは云ふことは出来ないと思ふ。一九四六、八、三。

「死の勝利を読んで」

ジヨルジュとイツポリタとの夫婦ならざる二人が、恋に酔ふてお互ひに楽しい生活に浸つて居る中にダンダンと死に近づいて行く。遂に二人は巖頭から海中に抱き合ふてイヤがるイツポリタと無理心中をするのである。処が面白いのは伊太利人はイカやタコを喰う人間である。マカロニと云ふうどんなも喰う人間である。日本人はうどんが好きだ。イカもタコも好きである。よく似た点がある。そして此心中が大変日本では多いのである。独乙にもフランスにもロシヤにもアメリカにも英吉利にもスエーデンにも丁抹にもない。此れは心中物語である。非常に珍しいものである。遂に此れ程似て居る国民は外にはないと思ふ。伊太利も亡んだが、日本も亦た遂に同じ運命になつたのである。なさない次第である。イカやタコを喰ふ人間の悲劇だ。一九四六、八、三。

「切支丹殉教への讃辞」

内田魯庵は読売紙上に「切支丹の迫害は外国人同志の排擠的讒構や仏教側の異宗門誹謗やらで宗門伝道を侵略手段と誤解した為メであつたが、夫にしても人間として能く思ひ切つてあんな残酷な所為が出来たと思ふほど身の毛のよだつ惨刑に処して九族までも絶やして了つたのは日本歴史の最大罪惡であつた。ロマノフ朝の滅亡がユダヤ人殺戮の天罰であるなら、徳川政府の没落は切支丹宗門の迫害の祟だとも云はれる。」「何百年も昔の古証文を持ち出して先祖の無道復讐をするのではないが、其昔遙々渡来した聖者を惨たらしく火に焚き水に漬け、耳を切り鼻を切り、膾の様に切りさいなんだ虐殺者の血が亦我々の体内に流れて居ることを深く顧みて恥ぢ且つ恐れなければならない」「が日本人の殺伐な残酷性を説明するのが切支丹の迫害なら、日本人の熱烈敬虔な殉教精神を発揮したのも切支丹の迫害だ。恐らく日本歴史中、切支丹迫害の犠牲となつた殉教者ほど日本人の偉大さと美しさを発揮したものはなからう。而もこの偉大さと美しさとは日本の史籍に載つてないのだ。楠正成よりも大石内蔵助（良雄）よりも、私は無知なる切支丹宗徒の火にも焚けず水にも溺れず、肉を寸断され、骨をひしがれても毅然として屈しなかつた殉教者精神を偉大なりと信ずること」「宗教のある処、必〔ず〕迫害があるが、古今の歴史を尋ねて日本の切支丹宗徒ぐらゐ極端な迫害を加へられたものがあるか。日本の仏教史にも迫害はあるが、然し仏教徒は大抵迫害に対して勇敢に戦つてゐる。之れに反して、切支丹宗門は無抵抗の教義を奉じて柔順に迫害の運命に服してゐる。夫レ丈け愈々悲惨であること。同時にいよいよ壮烈であること」（猊の舌）。徳富蘇峰は其昔「国民日本史」の中の徳川幕府鎖国篇一四三に「一切の乗除をなしても看過すべからざるは此殉教者だ。当時日本人が流した血は海の如く、川の如く、渚の如く、池の如くあつたにせよ、其中で比較的純潔なる血は此殉教者の血だ。耶蘇教徒の迫害は決して日本歴史の誇りではない。而も此迫害に屈せず流した日本人の血は日本歴史の光りである。日本国民の誉れである。大和民族の誇りである。彼等は必ずしも日本上下古今の歴史を通じてとは云はぬ。然も其時代に於ける日本国

民の精神的最高潮は彼等によりて標識せられたのである。別言すれば、彼等の為メに日本国民の精神界は荒寥落莫を免れ得た。彼等は実に日本精神界に異彩を放った。」

日本殉教者表

一	聖ヨハネバプチスタ以下二十六人	一五九七年二、五、	長崎
二	福者ヨハネバプチスタマチャド及其侶	一六一七、五、廿二、	大村
三	〃 アルフォンゾ及び其侶	〃 六、一、	高島
四	〃 レオナルド木村及其侶	一六一九、十一、十八、	長崎
五	〃 ズスカ及び其侶	一六二二、八、十九、	〃
六	〃 カロ、スピーラ及其侶（五十五人であった）	〃 九、十、	〃
七	〃 アボリナリス其他三十九名	〃 九、十二、	大村
八	〃 カシロ コンスタンシオ及其侶	〃 九、十六、	平戸
九	〃 パウロ ナハロ及其侶	〃 十一、一、	島原
十	〃 エロニモデアンゼリス及其侶	一六二三、一二、四、	江戸
十一	〃 ゼダゴカルワリオ及其侶	一六二四、二、二三、	大村
十二	〃 ミカエルカルワリオ及其侶	〃 八、二六、	仙台
十三	〃 フランシスコバセヨ及び其侶	一六二七、九、七、	長崎
十四	〃 アントニオ石田及び其侶	一六三二、九、三、	〃

因に六月一日には福者ナワレットと共にドミニコ会の宣教師十名、同じく第三会員並びにロザリオ会員百余名の殉教者と併せ記念し、八月十九日はオウグスチス会宣教師七名、第三会員四名が殉教した記念だ。九月十二日に記念するのは、フランシスコ会宣教師十二名、教弟六名、第三会員二十二名都合四十名である。その他は全部イエズス会の宣教師教弟及平信徒である。一九四六、八、三。

「科学と宗教に就いて」

天国の光りは人の顔容なり、天国の喜樂は人の現在なり、天国の音楽は人の聖名なり、天国の問題は人の事業なり、天国の事務は人の奉事なり、天国の円満は人の心身なり、天国の時間人は人の永遠なり、と誰れか云ふた人がある。実に甘いことを云ふて居る。イヤたゞに此等の言葉だけではない。天国とか神とか人に就いての色々な言葉は一つとして私の胸を打たないものはない。日々の力一冊にしても三百六十五日分の金言が書いてあるのだから、名句が集めてあるのだから、実に説明を抜いてもそれは殆ど無限と云ふてもよい程あるのだ。処が此沢山ある言葉に対しての返事と云ふものは未だ一つもないのであると云ふなら、イヤ返事はある、それこそ数限りもなくあったと云ふ人が出て来る。然しそれは今私が返事が未だ一つも無いと云ふのに対してあった、あると主張する人がある様に、或る人には返事であったかも知らんが、或る人々には返事とは思えないことなのである。つまり信じて居る人々にだけ返事である、信じて居らん人々には返事でも何んでもないとなるのである。それ故に宗教の領域は片だよりであるのだ。宗教の完成は信ずる外には無いのである。何故なら返事がないからである。片だよりであるのである。宗教に返事がある、あったと云ふ事はどうもそう云ふことが云へるかどうかが已に問題であると思ふ。片だよりが当然なのである。処が科学となると必ず返事があるのである。返事がなければ科学は成功しなかったのである。

科学的完成は人間から手紙を出して返事があったものが成功であるのだ。科学的成功は分析の後に再組織が出来て始めて成功したのである。科学は普通妥当性と云ふことを云ふが、科学に於いては分析しただけでなくて必ず分析されたものを再び総合して分析前の物にならねば成功したのではない。だから信じるとか信じないとかではなくて、誰れが見ても一目して肯定することが出来る。片だよりではない

のだ。チャンと返事が来てるのだ。信ずる人にだけ返事であって信じない人には返事とは見へないと云ふのではない。誰れにでも、いつでも読むことが出来る返事であるのだ。だから分析の後の再組織が出来ない領域に対しては科学は不成功であるのだ。それは人間を始めとして生物の肉とか血とか生命とか云ふものについては決して成功しては居らんのである。

然し血については成功して居る点迄の□□がある。食塩水がそれである。出血甚しくもう駄目と思はれてる人でも、或る点までの出血なら食塩水を注射すれば見る見る回復して来るのである。然し絶対的ではない。タゞ或る点までと云ふ現実があるのだ。肉に至っては一分の肉も、イヤ一点黒子の肉と雖ども分析の後の再組織は不可能であるのみならず、血に対する食塩水だけの成功もないのである。生命に至っては、科学は分析さへもすることは出来ないのである。潜水艦も飛行機も飛行船も悉く色々の分析の再組織が完全に出来たから成功したのである。宗教が片だよりであるに対して科学には返事が来るのである。其処に普遍性があるのである。妥当性が見られるのである。宗教が一籌を譲るのは此点である。然し其科学も未だ絶対的でない処に完全は見られないのである。完全を云ふものは片だよりである。返事のあるものは完全ではない。吾等は今其過渡期に生活して居るものである。一九四六、八、四。

「小さい事」

「星が光るピカピカ、ラクダが通るカポカポ」と云ふ言葉のはいった日曜学校のサンビ歌がある。私は此のピカピカには文句はないが、ラクダの足音のカポカポには文句がある。すべて星の光りはピカピカ光って居るからピカピカでよいのだが、ラクダは決してカポカポとは云はない。カポカポは馬の足音であると云ふた処が、若い人々は言葉の調子だからカポカポでよい、ハトポッポハトポッポでもポッポとは云はないと云ふた。なる程ポッポポッポと云ふのはどんな事を現はす為メにポッポポッポと云ふたのであらうかと考へて見ると、之れは鳴声ではなくて羽ばたきの形容である。パタパタパタと云ふ、バタバタバタバタと云ふアノ羽音をポッポポッポと云ふたものゝ様である。パツパツパツパツパツパツパツとかパタパタパタパタとかをポッポポッポと云ふたには多少の無理は認めるが、然し大体に於いて同音原をたどって使って居るので、ボットボットボットボットと歩く駆走を不得手とするラクダの足音とカポカポカポカポと云ふ馬の足音を其まゝあてはめてるのは不賛成である。

ナゼなら言葉に表現する音は實際音に最も近い音で表現すべきであると思ふ。又それが原則でなければならん。然るに全く同音原にも属さない表現をすることは、此歌を作った人の頭にギ音は最も近い音で表現しなければならんと云ふ原則を全く知らん人で、タゞ調子だけより考へない人であると思ふ。然も調子だからそれでよいのだと云ふ人々の説にはどうしても賛成できないのである。日本人は多く之れだから遂に徹底と云ふことが出来ないのであると思ふ。レコードの中にドナウの流れや海の波を吹き込んだのがあった。大小、強弱、濃淡、固散、色々の波の音を如何にも一々聞き分けて吹き込んで居るのに驚ろいた。そして一枚買って来た事があった。又吉田晴風の春の海でも浪の音がよく出て居るのが評判であるのも此等の点を考へる一つの材料である。若い人々の不徹底と思ふものである。

「春の海 日ねもすのたりのたりかな」と云ふ句は如何にも、其海水の動く状を見て唄ってある。實際吾々がのたりのたりと言ふ言葉をそのまゝに動く春の海の水の動きである、此く云ふと理屈に陥って居ると云ふかも知らんが、言葉は実の表現であることを考へねばならん。私は出来るだけ其ことを考へる。此背景なくして表現する表現には賛成出来ないものである。一九四六、八、四。

吾等日本人は文化を生み出して居らん。それ故に文化に根がない。此れが日本の最も好い点であると共に、又好くない点でもある。如何にアメリカが日本を民主化せんとすれば容易に民主化する国である。又人間も左様になる人間である。日本人位イ自己のない人間は無い。丸で日本人は奴隷であるの

だ。然し日本人は自分等の生活こそ奴隷生活であると意識してる人は甚だ少いのである。況や自分の生活が奴隷生活であるなんてことは少しも御存じないのである。それで日本は一等国になったと云はれると、それでうちやう天になって喜ぶ。而も実は僅かに外見だけが一等国化したので、其内容に至っては頭から成ってないのである。

最近中国に対して且つての日本と同様に頻りに一等国一等国とおだて、居ると云ふ人がある。或はそんなことをいふて居る中国人も無いことは無いが、然し此自ら一種の文化を生み出して居る此国の人々はナカナカ日本と同様にはなると私は思ふ。それは一部の人々はスグそれにおだて上げられるに違ひないが、已に自ら文化を生んで持って居る。而もそれは欧米とは原流の違った文化であるが故に、必ず其間に反対の人々が出て来て必ず破壊するに違ひない。思ふに中国の文化と欧米文化とは本質的に違ったものがあるので、此二つの文化は私は自然順応文化と自然征服文化である、将来必ず此二つの文化を批判する人が出て来るに違ひないと思ふ。中国文化が欧米文化に後れて居ると見られ、それ故に問題にせられない一つは不潔と云ふことを許して居る点にある。又モ一つは自由と云ふことが一部の底〔低〕級分子によって誤まれて、甚だ利己主義な行動が露骨に見へるので、実際よりもよりそれが広範囲に行き渡って居るが如くに云はれて居る点である。此二つの点について中国は今後非常に注意する必要がある。此れさへ除去し得たならば、恐らくは欧米人は今日にもアツ気がついて中国文化の研究が欧米文化と併行的に行はれる様になるであらうと思ふ。何れの国の文化にしても完全はない。欠点があるのだが、中国文化上の欠陥である此二つは欧米文化から見る時に非常に目立って見へるのが損な点である。一九四六、八、四。

「中学生のワラワラから」

子供を持たねば子供のことは解らんと云ふことは実によく言はれる言葉であつて、又実際そうしたことはホントウである。然しながら、それは自分の子供と云ふことに於いて解ることであり知ることであつて、全体の子供に対して知るとか解るとか云ふことゝは違ふのである。つまり一を知り解りはするが、十を知り解ると云ふことゝは別である。誰れでもだが此点についてよく心得違ひをするものである。そこで公平とか全体とか云ふ点から云ふなら、反って自分の子供のない人の方がよく解る筈である。知ることも亦たそうであるのだ。此点で塚本氏は甚だ狭い自分丈けの一を知り解ったと云ふ事で、全体に対することを考へ違ひして居る様である。

現に子供に対して民主的の意味で子供が男女の区別を云々した点を非常に非民主的と云ふて叱って居ったが、スグ其口の下から、お前等は徒党を組んでと云ふたのは「蛙は口から」であつた。又理屈を話してやれば解るのに頭から叱り飛ばしたのは何んと云ふても封建的である。又コンナ奴放出して終へと云ふ事も亦た間違ひである。日本人の恥さらしであると云ふが、此れも間違ひである。此ふした改革期には行き過ぎて後退して中庸になるのが常道であつて、革命を革命に迄行かせないで丁度好い中庸を得んとするならば、それは遂に後退である。家庭が悪るいとか社会が悪るいとか云ふならば、それは自分の家庭を加へた社会である筈だ。そうすると人を叱ることは出来ないのだ。であるのに無暗と人を叱りたがるのは此人の欠陥である。余程注意せんと独りよがりになる。イヤ已に独りよがりになって居る。現に子供に期待して残留してると云ふが、それはホントウではない人も多々ある。自分の財産に執着してるのだ。子供に期待しての残留なら子供の立場をもっともっと考へてやらねばならんのではあるまいか。子供でも一人二人ではそうでもないが、数人以上集まると、其処には群集心理と云ふものが働らくことを考へねばならん。タゞ党を組んで云々は其頭が未だ切替への出来て居らん頭であるのだ。他人事ではない。吾等自らに注意せなければならん事である。一九四六、八、四。

子供を持たねば子供の教育の事は解らないと云ふ議論をする人があるが、此れは非常に大きな間違ひ

を考へて居る様である。私は何度も云ふ。私は子供を育てる資格がないから神様は私には子供を下さらなかったのであると。然しそれは私が云ふて居る。イヤ自分のアキラメを云ふてるだけであって全体に通用することではないらしい。と云ふのは子供を持たない人間は子供の教育は解らないと云ふ事になると、子供のある人は悉く子供を教育する資格のある人々と云ふことになる。そして子供のない人は云はれる通りに子供の教育については解らないと云ふことになるのであるが、そんなら子供を持つて居る人々の子供がやくざ者や放蕩息子が出来るのはどうしたわけかと云ふことも云へないことはないと思ふ。そんなことはよいとしても、子供のある人必ず子供の教育が解る人であつて、子供の無い人には子供教育が解らんと云ふことはない。子供のある人で子供教育の解らん人もあるが、子供はなくても子供教育の解る人もあると云ふことは十分云へると思ふ。若しも子供のない人は子供の教育は解らんと云ふなら、独身者及び子供を持たない人は教師になる資格はないと云ふことになると思ふ。此ふした議論するのは、私へのあてこすりの議論の間はよいが、他人がはいつての議論としては成立しないことであると思ふ。井底の痴蛙的議論と云はれる恐れがある。 一九四六、八、四、

「敗戦一週年」(八月十五日?)

モウ一年が来る敗戦後の其間、私達は何をしたか。吾が敗れた祖国は一体どんなになつて居るのであらうか。戦争犯罪者としてアメリカ駐屯軍司令官マッカーサーから指令〔名〕された沢山の将星が、海軍陸軍のそして幾度も変つた内閣の大臣方が、又軍国主義の援助者が其手先きが、其の沢山の人が巢鴨の刑務所入りをした。それこそ開闢以来の出来事である。近衛公がよ迷ひ言の様な遺書を書いて自決した。東條総理大臣が自殺しそこなつてアメリカの病院で助けて貰ふた。イヤ、之れ等の人は戦犯容疑者と云ふて捕縛に來られてアハテテ自決したり自決しぞこなつたりしたのだ。ホントに戦争に責任を採つたり感じたりしての自決者は陸軍では時の大臣阿南大将があつた。海軍には大西中将があつただけだ。其外の人々は近衛、東條の兄弟分であつた。何んと常識さへ足らん人々である。而も此等の人の云ふ処は一口同音である。軍閥が責任者と云ふて自らも亦た軍閥の一人であることは知らぬ顔の半兵衛である。

男女普選の総選挙があつた。一躍婦人代議士が四十人近く出た。自由党が、進歩党が、社会党が、協同党が、無所属が、共産党が吾れこそはとベラボーな候補者を挙げて決選した。共産党はタツタ五人だけ当選して居る。社会党と云ふのは其紙幣を見たことがない位であるから何んと云ふてもダメだ。いよいよ議會が開會された。勅語が平易〔な〕文章になつた、衆議院の奉答文は口語体になつた位イの処が目に見える変化で、憲法の改正も一向馬馬虎虎であるが、一つ日本の軍人や其他の人々を驚ろかして居るのは捕虜の取扱ひが虐待だと戦犯の判決は死刑であると云ふこと、此れには驚いて居る事と思ふ。人の生命と云ふものは大将だから兵卒だからと云ふ事はない。平等に尊いのであると云ふ事をハッキリと知るがよい。食料不足が重大問題であるが、必ずアメリカが工夫して飢えさせはせん事必常である。何にしても此一ヶ年で日本がダンダンとフ井リッピン化しつゝある事は私にはノーと〔云ふ〕勇氣がない。困つた事である。上海では集中生活になつて自治会が出来て代表委員会が出来て、日僑の送還船江の島丸が沈没して四千五百人がヴリバアド号〔アメリカ海軍の輸送船「ブルーバード号」〕の危険なる救助のはなれわざが成功して殆〔ど〕全部が救助された一事があつて、更らに破産状態にあつた自治会が大口資金の募集で切り抜けられた。七月十日出帆の日僑送還船が最後に、日僑管理处も日俘管理处もなくなった。今度は戦犯管理处となつて鄒処長と蔣文鶴法務官少将とで担当してやるとの事である。自治会も解散したので、残留者の互助会を作つて七月一日から発足して居る。

互助会の事務所は義豊里 21 号であつて、此家については色々面動〔倒〕があつたが、トウトウ行政院の確認と日僑管理处の許可とが勝利して、吾々の村役場になつた。二階を文化委員会によって運営する事になり、水曜会なるものを設けて、八月七日堀内干城氏が第一回の講演をしられる事になつた。私

が文化委員長と云ふ事である。一九四六. 八. 七.

堀内先生「在華一年生のやり直し」

「新生活講座 開会の辞」

本日を第一回と致しまして互助会の文化委員会は新生活講座を毎週水曜日に開らかして頂きます。ドウゾご家族が皆んなで御聴講下さる様願ひします。敗戦の一週年在り参りました。此一ヶ年の間、お互ひに何を為したでありますか。此千載一遇の時に當って特に吾々一人の生活が此位イ大転換をさせられたことは私は初めてであります。私自ら考へて見ますと、ヤット其根底丈けを見つけることが出来た様に思ひます。或は間違つて居るかも知れませんが、私の生と死とは私以外の人に代理して貰ふことは断然出来ないであります。此に個人が存在すると思ひます。此個人の日々夜々出遇ふ処の私の喜〔び〕、私の哀しみ、私の楽〔しみ〕、私の苦悶、之れも決して人様に替つてして頂くことの出来ないものであります。此れが個人個人の人格を造り上げる根底であると思ひます。

此根底に立つて初めて自主自治の人間が出来上るのだと思ひます。此くの如き自主自治の人が国民となつて初めて自由の国が出来るのであると思ひます。自由の国に自由の国民、此くて初めて眞の民主国が出来上るのであると思ふものである。極めて簡単ではありますが、吾々日本人の今日の立場は此に在ると思ふて居ります。お互ひに中国に残留して居ります以上、世界の人々から後指さ、れる人間になり度くない。お互ひに扶け合ふて何によりも先きに一人一人が人間として各国に伍してそんな色のない人間になる様に勤めたく思ふものであります。其一助と必ずなる様にと希ひつゝ、今日第一回を開会した次第であります。御利用を切に祈ります。一九四六. 八. 七.

正しいとは国家の命令に服従することとなつて居る。正しいとは天皇の勅命を十分守ること。正しいとはまことである。まこととはいつはりのないこと。いつはり〔のない〕とは自分の良心をいつはらないことである。五百人の教会は教育と云ふ公然の面では失敗して居らんが、私の生活で失敗して居る（賭博、賄賂、泥酔、女淫）。

「新日本人」

一人一人の生と死も其人以外の人が代理して貰ふことはドンナに考へても出来ないことであり、又ドンナに科学が進歩しても先づ不可能である（インポッシブル 不可能）。同じ様に私の喜びは何んとしても、矢張り私の喜びである。私の哀しみも矢張り私の哀しみである。私の苦悶も私の楽しみも亦た同じく私がするのであつて、人様に替つて喜んで貰ふたり哀しんで貰ふたり苦悶して貰ふたり楽しんで貰ふて、私はしたと同じ結果を得ることは出来ません。断じて私がするより外ないのである。此に個人があるのである。此の個人的自覚に立つて始めて自らに自ら主人たり、又自ら自らを治める、即ち自主自治の人が出来上るのである。自主自治の人間にして始めて自由人たり得るのである。自由人を国民として始めて自由国家が出来上るのである。自由人と自由国家にして始めて眞の民主国たり得るのである。眞の民主国家にして始めて平和主義を実行し得るものである。吾々の生活の根底は此に築き上げなければならぬのである。一九四六. 八. 七.

「詩集の中から」

プウシキンのオネーギンの中に「タチヤーナの告白」と云ふ詩がある。実に甘いものだ。此タチヤーナの告白は実に傑作である。タチヤーナの心中を私は推察する。そしてオネーギンの立場も解る。人間のコウした苦悶は他人が代理して呉れることは出来ないのだ。其当事者が全部を引つ被るより外に方法はないのだ。それは実につらい苦しみである。イライラさせられる。興奮することもある。夜中も寝ら

れないで、頭はジンジンとする。狂ほしくなつて来る。それに堪へなければならん。其苦悶、誰れにも云ふことは出来ない。云ふべき人は一人ある。然し云へば其人が苦しむことになる。其人が苦しんで私の苦しみが減じるならよいが、少〔し〕も減じない。そして其人と共に不幸が重つて来るかも知れない。だから私の苦悶は私一人が苦悶するより外ないのだ。オネーギンもタチヤーナも西洋の様に自由な社会に於いてさへ尚ほ此れであるとしたら、日本の様に甚だ不自由な取締り一点張りの道德律よりない社会ではドウする事も出来ない。然し私は何日かは赤裸々な発表をするつもりである。其時こそ私の苦悶も審かれる日だ。一九四六、八、七。

「ジャンクリストフを読んで」

ジャンクリストフは瑞西に於いて其恩人の妻と姦通した。そして彼れは、人は愛するが故に愛すると云ふ相対性の愛を認めたのである。倫不倫を問ふに先きだつて、神と人間との愛にあらざる人間と人間との愛は相対的であることと共に此人は愛するが故に愛すると云ふ中に実に恐ろしい情欲の破壊力の含まれて居るを感じたと、ロマンローランはハッキリと愛は相対的であることを書いて居る。而もクリストフは愛と憎しみとの絶間ない矛盾と相剋の中に彼れの心は破産したのである。彼れは勇気を失ふた。彼れの戦闘力はなくなった。彼れは遂に人目を避けてジュラ山中に身を匿くした。深林の奥深き処に、大海の如き静寂の中に彼れは自らの衷に神の声を聞いたのである。そして新らしい勇気を以て生命の無限の戦ひの道程に上つたのである。そして再度生きる為メにその戦場で死んだ。実に面白いクリストフの生涯である。私は神と人間との愛は絶対的に神に愛せられる一方的の愛である、人間の間に於いて親と子との愛は又一方的の愛であるが、それ以外の人間の間に於ける愛は相対的であると断じて居るのである。何故ならばイエスは汝等互に相愛せよと云ふて居られる。此れによって人間の愛は相対的であると私は云ふのである。一九四六、八、八。

「人と生物」

人間は高等の動物であると自ら以て任じて居る。人間以外の生物は悉く其生活は与へられた本能の生活一点張りであつて、少しも自らの判断力によって自分以外の生物の社会から其長を採り容れると云ふことをしないのである。人間のみあらゆる生物界の生活様式を考へ〔る〕のみならず如何なる社会の生活様式からでもあらゆる其様式を採り入れるに吝かならないのである。人間は生物中の最高であると自任して居るだけに非常な叡智を持つて居ることは事実である。然しながら其人間も実は本能を持つて居る。此本能の一つに性欲がある。此性欲の本能の力の強さたるや実に強力であつて、時に如何なる叡智も賢明も脳力も道德観念も倫理観念も踏みにじつて終ふことがある。泰西の小説の中には其事が遠慮なく描き出されて居る。ジャンクリストフの中にもそれがある。彼れ程の人間である。道德不道德、倫理非倫理位イの事は百も承知であると私は思ふ。処が彼れが其若き妻オリヴィエの不貞から遂に死すると共に、彼れは大きな悲哀に陥つたのである。彼れは身も世もあらぬ淋しき苦しい思ひをしたのである。彼れは遂に其性的本能の囚となつたのである。仮へ人は愛するが故に愛する者であっても、倫不倫の解らん人間ではない。道德不道德の解らん人間でも無論ない。彼れは其恩人の妻と不義の姦通をしたのである。つまり此に見るクリストフは鉄石ならぬ温かい血の通ふて居る人間であることが書かれてあるのだ。其人間は如何に人知は拓け科学は進んでも、本能の強さには遂に敢へて不倫も犯すものであると云ふことである。本能の絶対的強力が主張されて居るのである。自ら私は恥かしさに冷汗三斗である。一九四六、八、八。

考へるべきだ

日本には沢山の大臣大將級の人々が戦犯として投獄されるらしいのであるが、其人々の中には真正面

から自分が此戦争を肯定したのはコウした考へからであるとか、自分は戦争に対してコウした哲学に立脚して居る、それ故に此戦争は起こされたのであるとか、兎に角一人のコウした人がない。悉く私は反対であった、私は反対であったと云ふて居る。つまり日本人の代表者達は社会的位置こそ高いが、全部が奴隷根性の人間であったことを暴露して居る。コンナ人々によってよく戦争をしたものだと思へるが、国民全部が又モ一つ輪をかけた奴隷根性の持ち主と来て居るので丁度よかった。奴隷根性の大臣大将の指導によって奴隷（国民）が戦争したのである。遂に一敗地にマミレたのであるとは云へ、よくも国民がアレ丈けの奴隷根性になったものである。一人の自主自治の人間が居らなんだのだから驚いたものだ。イヤ無いことはない、あったと云ふ人がある。アッタのは解って居るが、日本の代表者の悉くがアノ奴隷根性である以上、アッタのは彼等代表者の根性の何処かにチョッピリ良心があるのと同じであって、少しも實際的に活動して居らんのである。

学校の先生に対する不平を云ふ人間がある。そうすると学校の方では先生が自分等のやる事が気に入らねば止めることにせうと云ふことになる。これは日本人の通弊である。又従来はそれでよかったのである。然し今日からはそれでは駄目なのだ。不平を云ひ流言を放ち飛語を飛ばす人がある場合には、それはつきつめる事が必要になって来たのである。そして流言飛語の出処をつき止めるのだ。又不平なら不平のよって来る処をつき止めるのだ。そして其窮極に至って出来る丈け多くの人々の目と耳と良心を借りて判断を求めることだ。此くて流言飛語を先づ圧迫することだ。泣寝りや没法子で語ってはいけないのだ。それは封建的な物の考へ方であるのだ。民主的なやり方では出来る丈け明瞭ならしめることが一つの条件である。誰れにでもチョッピリと良心はあるものだ。其良心に呼びかけることが民主の第一段階であるのだ。飽く迄自主自治の人でなければならん。一九四六、八、九。

「遂に来るべきものが来たらしいアー」

と昨年の今日の日々の力に書きつけて居る。而も「父の我れに賜ひし杯を我飲まざらんや」と云ふのが今日の題である（ヨハネ十八の十一）。明治維新は日本の革命であった。此革命は未開の封建制度に三百年の鎖国の夢まどらかであった日本の戸が開られたのであった。少数〔の〕西洋科学の力に目を見はって居った進歩分子によって此革命は見事に成功したのである。然し此成功を日本人は何んと見たか。重点は富国强兵に置かれたのである。尚武を国是としたと云はれて居る。然しながら必ずしもそうとは限らなかったのである。教育勅語が日本教育の中心となり、又日本国民の集団内〔の〕中心には何時も此教育勅語があった。日本のネライは誤りなかった。日本の努力はグングン其効果を發露して来た。国内的に白虎隊の事あり、五稜郭の事あり、萩の乱あり、城山の事はあったが、着々として日本は強くなって来て、そして明治二十七、八年の戦役に勝利した。三十三年、北清事変には聯合軍の中堅となって世界の軍隊に其強力を示した。三十七、八年の役で万歳を唱へると共に、遂に鮮満に特殊権力を握ったのであるが、此時、日本建国は軍備でなければならんと〔の〕考へが全日本を覆ふた様である。日本は一等国となった。日本が一等国となったのは日本の陸海軍が強かったからだと云ふ極めて簡単な考へで国民が喜んだのである。以来日本は尚武一点張りに拡大したのである。

欧州大戦に参加してよいよ日本の富国强兵政策は的中せるものとなった。然し此頃から社会主義思想が日本にも抬頭して来た。此の思想は日本のインテリ階級をして先づ目覚めしめたのである。それ故に其目覚めが維新の時は武士の間に其先駆があったのと一寸其趣きを異にして居った。今度の目覚めは神経質な人々が其先駆をし其中心であった。而も社会主義の実質はブルジョア〔ジ〕ーに属するインテリのもではなくて、実は其日暮しのプロレタリアのものであったのである。然し日本のプロレタリアは尚ほ甚だ知識の程度が非常に低くだったので日本の社会主義はインテリの理論が先駆したのである。プロレタリアの体験に基くのではなかった。社会主義理論が出来る前にプロレタリアの苦難の生活と云ふ現実がなかったのである。借物主義の日本としては何事も悉く此れである。私は日本の文化は借物文

化である、日本には日本が生んだ文化と云ふものがないと云ふて居るのだが、此れも其一つである。

然し此思想はヤガテ実力派の弾圧によって地下に圧縮されて終った。そして社会主義者の云ふた通りに日本は軍閥と金権閥とが不知不知提携して噴火山上の大舞踏会を開らいたのである。陸軍海軍空軍と三拍子揃へての軍備の拡大は平和の為メであると、日清日露両役に於ける彼等の復仇が恐ろしいのだと云ふ恐怖が根本であることは言はないで、判断力を未だ持たない国民をまんまと其掌中に入れて終ったのである。出世するのは軍人になるに限ると云ふことになった。軍人になりさへすれば軍人としての出世と政治家としての出世と出世に二タ路があると云ふことになって、吾れも吾れもと軍人を志望するに至った。日本を上げて軍人をおうかする時になった。五・一五事件、二・二六事件を見れば如何に軍人が跋扈して居ったかと云ふことが解る。其次ぎは満洲事変である。中日事変である。此くて事変は膠着状態となった。此時日本軍閥の考へは、中国の屈伏せざるは後方に英米があるからだと云ふ見解をとって、此の後援者さへ除けばと云ふ様な浅薄な考へが遂に所謂大東亜戦を発生せしめたのである。処が其結果は対中国の無智と対世界の無智と云ふことを全く露骨に暴露したのである。そして今次の敗戦となったのである。

世界の各国は世界を如何に導くかと云ふことを考へて居る処へ、東亜を如何にするかと云ふ考へ丈けより持たない先生がチャンチャンバラバラとやり出したのだから、ヤー又やり出したぞと云ふ調子で、つまり世界の内乱として扱はれたのである。全く一世紀後れた考へが此敗戦となったのである。何んとか彼とか云はれても、兎に角原子爆弾が新武器であることは否定は出来ない。其新武器は今日では世界制覇の決定権を持って居るのだ。それ故に原子爆弾の共同管理が叫ばれて居るのだ。日本人の武器は何んであったか。大砲軍艦で戦争して居る処へ一発で一市が吹っ飛んで終ふ原子弾が出て来たのである。竹槍では火炎放射器は防げないのである。徹頭徹尾、日本軍閥、官僚、資本家は世界的無知であったのだ。ものゝ見事に敗戦亡国となったのである。昨年の今日は来るべきものが来たと私をして嘆息を發せしめたのである。そしてそれから已に一ヶ年が経過したのである。今や上海の日本人は僅かに二千人となった。そして居食ひして居るのである。座して喰へば泰山も空しである。将来はどうなるか今の処見透〔し〕がつかないが、私は一本より無い文化の糸にすがって余剰〔の〕生命を使ふつもりで、グズグズとウゴメいて居るのである。一九四六、八、十一。

お、吾が半身なりし汝安らかなりや。吾れは日々事もなく暮らし。

〔版画作品名と作家名〕

- | | |
|----------|----|
| 1 鲁迅 | 麦稈 |
| 2 放回来の爸々 | 〃 |
| 3 回娘家 | 〃 |
| 4 飢餓 | 李樺 |
| 5 人市 | 漾兮 |
| 6 難兄難弟 | 戎戈 |
| 7 突撃 | 葛原 |

「老ひの繰言」

今日は九月十三日だ。朝四時過ぎに起きて掃除をすまして、五時四十分頃寿美ちゃんと二人で静安寺行きの電車に乗った。熱間の南京路も朝まだきは人通りも少く両側の店も未だ深い眠りの中にある。やがて静安寺で下りて墓地の門をはいった迄はよかったが、門番のロシヤ人が出て来てブリース ノーケ〔チ〕ンと云ふから私の墓へ行くのだと云ふと八時に来て呉れと云ふ。ドウしても入れては呉れない。

トウトウ門前払ひを喰はされて今日はスグスグと男を下げての後戻りした。何んだか君に済まん様な気がしてならんが堪忍して下され。帰りにマ〔一〕ケットへ寄って寿美ちゃんがお花を買って帰った。何んと其花は君が好きな野菊の一束と、グラジオラスの二三本と、晚香花の三本とであった。夕方になってからの好いかをり、実に君が思ひ出されてならん。ベランダのお白粉花も毎日咲く様になった。

世の中は何んとなく物騒になって来た。上海のロシヤ人は婦女小児をウラジオストックに三回引揚げさせた。市政府はロシヤ人三百数十人を解雇したと云はれて居る。アメリカの論調もナカナカ強くなって来た。其中にあつて私共は此三十年前の記念の家でのうのうと暮らして居る。然し時々君を思ひ出す。特に最近になって、結婚した寿美ちゃん夫婦が内地へ引揚げの考へをもらして居るので、一入淋しさを感じて居る。寿美ちゃんは君が昇天すると共に家へ帰って来て一切万事をやって呉れる。何んの事はない、君の二代目であった。其為メに一時非常に沈んで居た私も漸く元気を取り戻した。其中に空襲が盛んになるやらトウトウ日本の大敗北となって、愈々日本人の避難の生活が初ったが、其間いつも私の世話役は寿美ちゃん、千愛里の家へ帰る迄に塚本一家四人との同居が松桐里で始つて、千愛里へ移つてからは山岸女史を加へて七人の生活になった。其中、正雄が帰って来て八人になった。

正雄も三月に帰国したが、其千愛里も安住は出来なくてトウトウ此なつかしい家に移つて来たのだが、山岸君は四月八日に帰国したので六人暮しになった。寿美ちゃんは〔中略〕結婚はしたが矢張り同居して、私の事は何か何迄寿美ちゃんが世話して呉れて居るのである。然るに二人が帰国したら私はホントに一人になる。無論塚本夫人の御厄介にならねばならん事だが、塚本君には二人の子供迄あるのだから夫人の忙しさは大変である。初めて最近二人が帰国後の淋しさをつくづくと思ふて居る。

神様は必ずよきに為し給ふ事は知つては居るが、ドウしてか淋しさのみが私の心を暗ふするのである。それを思ふと君の言葉が恨〔め〕しくなるのである。私はいよいよ独り身で暮らさねばならんと思ふとしみじみと此れからの淋しさが私を憂うつにするのだ。而も君が昇天してから後の私のすること為す事は、実は事毎に失敗して居る。それを思ふと又、君によって援けられて居た私がありありと見えるのである。そしてあゝ共にありしならばと返らぬ繰言に悲しくも涙するのである。私は独りでは弱い虚しい存在である。君と共にあつてのみ推しも押されもせん存在であつたのだと云ふことを十分に知ることが出来た。晚香花の香りは私の鼻をついてまざまざと君の姿があらはれるのである。あゝ君しあらば吾は嘆くことなきものを。今は返らぬ老ひの繰り言である。一九四六. 九. 十三。

「論語の中から」

日本では罪とか罪惡とか悪人とか云ふときに、法に触れた人を罪人とか悪人とか云ふのであつて、法に触れざへしなれば罪人でもなく悪人でもないと思ふ考へが万人の考へである。此れは法は絶対であると教へた処に其根柢があると思ふ。而も此考へは非常に間違つた考へであると私共は常に考へて来たのであるが、孔子は已に此事について論語の中に言ふて居る。

「之を道くに政を以てし、之を齊ふるに刑を以てすれば民免かれて恥なし。之を導くに徳を以てし、之を齊ふるに礼を以てすれば恥ありて格し」と徒らに法令以て民に臨めば民に徳義の心失せて、法に触れざれば即可となすに至る、と割〔喝〕破して居るのである。而も日本は遂に此言に陥つたものである。儒教は中国に亡びて日本に生きて居るとは兼ねて日本に於いて聞かされた事があるが、此位イの事が行はれて居らないで生きて居るとは少々づうづうしい言ひ方であると私は思ふ。一九四六. 九. 十三。

直接と間接

『改造評論』第二号に出た座談会の記事及び創刊号の対日箴言三十三氏の一人として日本改造に対する意見に天皇制の打倒を云はない人はない。天皇制の存在は再び日本が武装する最も危険なる偶像であ

ると云ふのである。此点については大公報などでも矢張り同一の意見を吐いて居る。

然し此意見は国民政府の意見とは違ふ様である。蔣主席の意見は初めから天皇制は日本国民自らの決定すべきことである、吾等の関せざるところと云ふて居るから、直接日本の天皇制を攻撃することは間接には国民政府を攻撃して居るのである。之れは中国の一つの間接射撃であつて同時に直接射撃にもなると云ふ二本建ての攻撃方法である。それは其顔ぶれによって知ることが出来るのである。日本天皇制存続への攻撃は共産党か又は民主同盟の人々の意見であるから、今日の此等の派の人々の意見は国民党又は国民政府の意見には必ず反対して居るものと見ることが出来るのである云々、とは対日文化工作委員会主任羅克典先生の説である。一九四六、九、十四。

「外交の妙？」

「直接と間接」の処で其二本建てを闡明したのであるが、然し此二本建てはモウ一面から見ること出来るのである。表面的には実に寛大にしておだやかな意見を吐きつゝ、而も其反対派をして峻烈なる反対意見をワザワザ展開させると云ふ方法にも使はれるのである。其処に複雑性があるのだ。仮へば日本の様に何んでも彼でも一本槍でやると誰れからでもスグに見抜れるのであるが、此く二本建てでやれるとどっちがホントの意見であるか取捨に迷ふのである。此処等が外交の妙とでも云ふ処であらうと思ふ。一九四六、九、十四。

「魯迅先生の二戦法」

「世界に押し出して行くことが中国の活動を有利にするのだ」、此れは魯迅先生が中国新版画の普及についての言葉であるが、実は先生はあらゆる事について此筆法を実行して居られたことを私は知つて居る。彼の人権同盟と云ふ団体が出来た時、中国では人間の首を切ること大根の頭をハネる程にも思ふて居らんと云ふ処に結ばれた。此の人権擁護同盟では適々発生した柔石外数名の青年が暗から暗へ解放された。魯迅先生は直ちに人権同盟で此問題を取り上げて世界に向つて訴へたのである。

そうすると世界の輿論と云ふ奴がムクムクと頭を上げて来た。其力は弱い様だが、然し世界的輿論と云ふものは決して弱いものではない。直接的ではないが然し間接的にはあるがナカナカ有効であつた。それは即ち世界に押し出して行くことなのだ。魯迅先生は矢張り中国人である。中国人が如何に世界の輿論を恐れる人間であるかと云ふ点を十分に認識して居られたのだ。其処で何んでも世界へ押し出すと云ふ戦法を使はれたのだ。此れと反対に先生には黙殺と云ふ戦術があつた。中国では何んでも人を攻撃する癖がある。然し其攻撃にも二様のネライがある。攻撃するのには無名の人をしないで必ず名人を攻撃する。それは勝てば一層だが負けた処で彼れは誰れと論戦したと云ふ勝利ならぬ得物があるからである。其後で其一方は其勝利ならぬ得物を渡さない様に、ドンナに攻撃しても相手にならぬ、つまり黙殺するのである。之れが最良の戦法である。魯迅先生は世界に押し出す戦法と共に、一見矛盾せるが如き此黙殺の戦法を時々使つて居られた。此の二つの比較はナカナカ面白いものである。非常に積極的な戦法を使ふ魯迅先生が極めて消極的な黙殺戦法をも使はれるのであるから矛盾の様に見へるが、先生に於いては決して矛盾ではなくて極めて自然にスラスラと行はれて行くのである。一九四六、九、十四。

釜灶の事

中国の釜灶は実に進んだものである。之れは永い間燃料に苦しんで来た結果の発達であらうと思ふが如何にもよく発達して居る。単的に云ふても灶の口を小さくして火力を強くすることなど実によく考へて居る。どんな火爐でも必ず胴が張つて居つて上と下とが小さく出来て居る。適々上が張つたのがあると、上が三つの鍋がかゝる様に分れて居る。そして火は一ヶ処丈けである。一つの火を二方にも三方に

も使ふ其使ひ方が甘いのである。

灶の方で見て此上〔図1〕の三つの中、左の一つ目火口から焚くと三つの物が煮〔へ〕る。若し忙〔急〕ぐ時には左右二つの火口を一度に焚けばよいのである。又藁を焚く灶には藁の上に糶をかけて火持ちをよくする。湖南あたりの灶は粉炭と赤土との混合物を焚くのであるが、煙突の途中に二つ位イ穴をあけてやかんが二つのせてある。東北の田舎では何か大人数の集会の時など土煉瓦で臨時に灶を造る。此上〔図2〕の○が湯沸しを入れる口であって、〔図3〕形の湯沸しであって、此灶の中は全く一つの空洞になって居る。一つの火口から焚けば全体が沸くと云ふ仕掛けである。実に巧妙を極めて居る。



図1

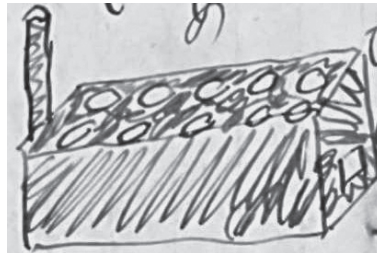


図2



図3

老虎座の湯鍋の使ひ方〔図4〕には、大きな二つの湯鍋は洗臉や行水の湯で、二つの小さいのが飲料の開水である。中央の小さい穴が火である。焼芋の灶は大きな壺であって半分迄泥土をつめて半ば以上空室にして置くのである。そして中に網の棚を二段位いつつて尚ほ口から針金を下げて芋をつるして居ると云ふ方法である。此壺も十二分に火力を使つて居る。

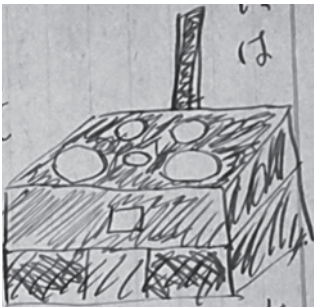


図4



図5

大餅焼の壺は図〔図5〕の様に上半を空室にして其空室の壺の肌到大餅を張りつけて中央の火力によって焼くのである。焼上げを冷くない様には中途の場所に並べて暖めるのである。書き後れたが、何れの釜灶でも火口から奥へ燃料の火を真直ぐに煙突へ走る様にはしてない。下を算盤形にして其凸凹を〔に〕火を這はせるのである。此れで火力を十分に留置出来るのである。火口から焚いて火が此の算盤形を這ふのである。此んな釜灶はナカナカ無いのだ。而も之れは誰れでもが勝手に造る釜灶である。此ふした釜灶の研究を充分にすることはやがて日本へのよく〔き〕示唆である。一九四六、九、十四。

「疑ひを解くには」

中国人は日本の現在迄の転向を見て頭から疑ふて居るのである。日本人は必ず表面には民主々義を装ふて、内心では復讐を考へて居るに違ひないと考へて居る。此の疑ひ深かい性質は歴史的に見て其権謀術数の生活が造り出したものである。それが特に日本人に対する時に一入疑ひ深いのは、中国人の此歴史的性質を見抜かないで何日でも思ひつきの行為を現実にして見せた処に一層拍車をかけたのであ

る。其処で日本人は決して今更中国に対して復仇観念なんか持って居らんと云ふ事を認識して貰ふにはドウしたらよいかと云ふ事になる。それは日本人の実行より外にないのだ。数年来日本から大坂人参、堀川牛蒡、東京大根の種を取り寄せて造って見せた結果がトウトウ其良質を認識して、今春の様に立派な大根と人参と牛蒡が出来た。此の現実を提供するより外に路はないのである。声明は余り重要ではない。必要なことは実物を見せる事である。

中国人は人間を無視して事件とか仕事とかばかりを見る癖がある。其通りだ。日本人が、彼れは親日家と云ふて骨の髄迄親日家の様に云ふ。此れは排日家と云ふと骨も肉も悉く排日家の様に云ふ。此れは大きな間違いである。何々の事件に対して彼れは賛成した反対したである。決して其人が賛成したのでも反対したのでもないのだ。反対も賛成も従って排日も親日も其事件によるのだ。其事柄によるのである。此点を従来日本人は見そこなって居るのだ。一九四六、九、十四。

「二本建」

国共の内戦を美〔米〕ソの衝突に迄展開せしめることを喜ぶ様な人はあるまいと思ふが、万一そんな人があったら禍ひなるかなである。二本建ては中国の無意識の常識であり不文の規矩である。国共二つの存在することは当然のことである。国共は同じく中国人である。何か異民族の争ひの如く見るのは間違いである。何れにしても自ら民族を売〔つ〕たり国を売る様なことは断じてない。お互ひに牽制して自分に言ひにくひことは相手に言はせると云ふ戦法もあるのだ。一本調子に考へることは危い哉である。一九四六、九、十四。

中秋

頭を挙げて山月を望み、頭を低れて故郷を思ふ、挙頭望山月 低頭思故郷 李白

中秋の月が夜半になって高く輝やいた。私は床の上で寝たまゝで月見をして居ったが頭の中では此詩が思ひ出されて居った。他郷に在る者の思ひは日本人であっても特別ではあり得ない。詩は現実だよと私に教へて呉れた人があった。私の目は其時に開らけた。私は詩は全く空なもの、様に考へて居った。詩と夢とは寝て見るのが夢で、起きて見るのが詩だとのみ考へて居った。処が必ずしもそうではなくて詩も現実があると云ふことを知った。そうでなければならん。景色とか戦争とか人間の死とか生とか云ふものは必ずしも夢見る丈けのものではなくて、実は現実人間が目撃することの出来るものである。タゞ夢見る人の此等の事柄を歌ふた詩と、現実に見、身又其渦中にあった人とか、眺めた人とかの詩とは同じ題であっても人に迫るものが違ふ筈である。ホントに送別、惜別した人の詩と他人の事を歌ったのとは必ず違って居る。力があるか無いかは其人の夢であるか現実であったかで違ふのである。

未だ見ない将来の事を歌ふ詩は夢である、空想である、理想である。其れは断じて現実ではないのだ。未来を歌ふ詩が現実であつてはならん。それは飽く〔迄〕夢でなくてはならん、それは空想でなくてはならん、理想でなくてはならん。未来のことを現実歌ふことは出来ない。そんな心で歌つたところがそれでは高い詩にはならん。人間の理想を歌ふ詩は空想と共に夢でよいのだ。詩人は理想ばかり歌ふものではなくて人間の現実、自然の現実に向つても亦た歌ふものである。詩人は理想より歌はないとなると其人はつまり空想家と云ふものになって終ふのだ。私の目を開けて呉れたのは此の意味に於いて貴いことであると思ふ。「詩は現実だよ」、此れは中国人でなくては云へない言葉だ。現実を歌ふ詩人が現実に飽きたらなくて理想を歌ふ、夢を歌ふ。詩も亦た現実から一步を運ばねばならんのだ。現実を見ないで、又は見ることを避けてタゞ只管に理想を描いた処でそれはタゞの夢である。恐らく何の力もないものになると思ふ。空想に終つてはならん。現実の欠陥を十二分に踏んで其上に立つての夢でなくては力が無い。一九四六、九、十五。

反省

人間の知恵ではどうにもならんものゝあることを知って、「あるまゝに受け、なるまゝに委せる、それが最高の理性と云ふものだ」とは偉らいことを云ふたものだ。之れこそ神に委かせた生活である。「何事もたゞ其まゝに、二人して」と云ふ一句を私は書いたことがある。此の前の言葉から生れたのである。一九四六、九、十五。

「香港」

上海が共同租界から解放されて上海特別市になった。それは仏租界と共同租界を込めてである。之れで上海と云ふ且つての魅惑が依然としてあるのであらうか。乍残念最早上海は且つての上海ではあり得なくなったのだ。英領香港は昔にまして大繁昌をするのであらう。恐らく香港は東洋の樂園になると思ふ。且つても香港は南方の樂園であつたが、今度は上海、漢口の人々をも、青島、天津の人々をも狩り立て、香港へ移らせるに極って居る。香港は而も自由港である。輸入も輸出も自由港は有利な立場に立つと思ふ。今後の中国人の金は全部香港に集るであらう。香港は将来の樂園を予約されしワケである。詳しくは後に記す。一九四六、九、十五。

「上海の現在から香港を見る」

上海の現在の貿易は先づ美〔米〕国の独占と云ふてよいと思ふ。日本投降後の一ヶ年で上海の市面が全く美国品で掩はれたことは誰れの眼にも見へて居ることであつて、而も上海の地場製品の方が高値であつて美国品の方が安いと云ふ奇現象を呈して居るのである。美国のサンフランシスコから呉淞迄の運賃と、呉淞から上海迄の陸上げ賃とは同額又は前者の方が安いと云ふ状態である。此れはどうしたワケか。其為めに上海港の輸入超過は今日迄の処、先づ毎月一千億元の入超であると云ふ処から対美為替を引上げて輸出品を免税することになって、八月十九日、従来美貨一弗が二、二〇〇元であつた為替を美貨一弗三、三五〇元に引上げた。然し之れも一向に効果はありそうにないのである。中国人全部が、日本投降と共に重慶から国民政府が帰って来る、国民政府が還都しなれば物価は下るであらうと期待して居た。処が実際に国民政府が還都したらドンドン物価は高くなって来たのである。列国の投資額は全支を通じて約百五十億弗前後で、其中上海には恐らく四十億弗近いものが投じられて居る。而も其中三割は英国の投資と云はれて居るのである。日本の投資は大部分紡績工場で、上海の製造工業中の首位を占めて居たのである。居留人にしても日本人は三万人上下であつて他の外国人と殆ど同数であつたのだ。此上海から日本人の紡績業を初め全日本人の経営の全部が零になつたのである。日本との交通さへも今日の処では断絶されて居るのであるから、日本の全部は消へたとすると其れに代つたのが美国の投資貿易であるのだ。

然しそれはタゞ貿易であつて美国の政治力が共同租界の力と同じ様であれば申分ないのだが、然し此れは一寸出来ない事である。今日の上海は国民政府治下の特別市としての上海であつて、外国の力は容かい〔喩〕出来ないのである。タゞに上海丈けではなくて天津も、青島も、済南も、漢口も悉く国民政府治下に其租界地は編入せられて居るのであるから、今や中国の最も近い処に於いて且つての租界地的性質の地点を求めるならば、香港と澳門の二ヶ処よりないのである。且つて中国の租界の性質を知る者にとって租界がなくなった今は、且つての租界の恩恵に均てん〔霑〕して居たと同一の恩恵に浴せんとすれば香港か澳門に於いてのみやゝ可能である。此れを除いては不可能である。且つての租界が中国人に、外人にどんな恩恵を浴せしめて居たか、それは多く云ふ必要はあるまい。資本主義的な経営は、租界地以外に於いては利益は挙げられなかつた事一つだけを考へれば十分であると思ふ。それは外国の武力が、政治力が租界地を保護して居たからであるのだ。それ故に今日となつては香港と澳門以外に於いて資本経営が保護される外にはないのである。

且つて租界の繁栄が、中国の内乱とか革命とかの場合、其安全弁となってダンダンに繁栄を増して来た。即ち人命に於いて、資本に於いて、其安全区域の役目を勤めて来たのが租界であるのだ。今後人命も資本も中国政府の治下に於いて十分に其安全が保たれるならば文句はないが、万一尚ほ多少共に危険があるとするならば、其安全は香港が第一である。此に於いて此後の香港がどうなるかと云ふ事は凡そ想像がつくと思ふ。人と資本の逃避は香港である。而も中国人と外国人とを問はず資本の大部分は香港に集中するに相違ないと思ふ。そして中国人は香港を中次〔継〕ぎとして金銀の為替を買売するに違ひないと思ふ。兎に角此に後日の為メに記す。一九四六．九．十五。

大公報

今日の大公報は、ワーレス商務長官が親蘇方針を演説した。而もそれはトルーマン大統領も支持して居ると云ふので、巴里の会議に出席して居るペルース國務長官の今日迄の行動と全く反対であると云ふので大騒ぎしてる様である。先日スターリンはモロトフを突然として招〔召〕還した。

再び巴里に現はれたモロトフは、独逸に独立政府の出来ることに賛成したと報じられて居った。ソ聯が美〔米〕国に対して一步を譲ったと思ふて居った処へ突然としてワーレス商務長官の今日の演説である。而も已にトルーマン大統領も賛成して居ると云ふ。之れでは美国のソ聯に対する政策が従来とは反対になったとすれば、モロトフの態度とニラミ合せて、其処にはスターリンとトルーマンとの間に已に妥協が出来て居ったものではないかとさへ思はれるのである。各国の外交のやり方を見て居ると、日本の外交なんかは下々の下策であったことが合点される。いよいよ美ソの間がドウやら危険を脱したらしい。一九四六．九．十五。

（東京十四日電）

日本政府は賠償局を設立、大野勝實局長となる。

世界第二次大戦の責任を負ふて日本天皇は米英ソ聯中国を飛行訪問、赦罪云々と云ふ案を、ビタミン製造業の高木徳造氏が発表したとの事である。実に問題を芝居じみて考へて居る。そんな事で世界の思潮が少しでも動くとも思ふて居るらしいが、如何にも日本人らしい、子供らしい考へ方である。一九四六．九．十五。

○昇天

上海事変に中国人の救済に奔走した天主教の神父ジャキノ師は九月十日ベルリンで昇天したとの事である。神よ、貴き神父の霊を守り給へ。一九四六．九．十五。

三省の要

日本人はや、もすれば冷静を欠く人間であるが、冷静に討議を進めてゆく訓練が欠けて居ることを意識して十分に感情の激発を防止せよと、朝日新聞は過般の鉄道就業員組合の会議の模様を例に取りて論じた。要旨は、「日本人すぐ感情に走り問題の要点から離れて仕舞って、もう相手の議論には全く耳を傾けず解決の鍵を失って仕舞ふ傾向がある。この点をよく考へて冷静に凡ゆる角度から問題を紳士的に討議する訓練をつまないと民主主義の政治の実行は難しい。会議の場合は各自の意見を披瀝し忍耐して聞く事が必要である。そして解決点を見出す様に努力せなければならん。紳士の討議の訓練が大切である。云々」

と云ふて居る。そうである、実に其の通りである。日本人は何事でも感情で問題を反って紛糾させる癖がある。此点を中国人は子供らしいと云ふて居るのである。一九四六．九．十五。

「反対論を聴くことだ」

朝日新聞が日本人の討議についての訓練の不足を論説に書いたのは当然の事と思ふ。日本人は何事によらず物事を一本調子に考へるので、自分の考へる以外の考へは無い様な事を云ふ。此れが非常な欠点である。現に此度の戦争に於いても反戦非戦は云ふ迄もなく、戦争進行以外の意見は一口も言はせない、戦争一本の意見でやろうとする。此に根本的な錯誤があるのだ。

「人間界の事にタゞ一つの見方より無い」と云ふことは決して無いのである。必ず二つ以上の考〔へ〕方見方があるに決つて居るのである。なぜなら現象は必ず二元的であるからである。自然と人為とを問はず現象は必然的に二元である。内外、表裏、左右、美醜等と、如何なる場合にも一方丈けと云ふことはないのである。

一つの問題を討議すれば、進むべきか退くべき乎、為すべき乎不為可き乎、と云ふ様な意見が出るに決つて居る。其時に相方が相手の意見を十分吐かせて忍耐して聞く、そして相互の意見を纏めて解決点を発見する様に努めるべきである。然るに日本人はタゞ自分等の意見一本調子で進行せうとする。それは無理であるのだ。意見は必ず色々あるのだから単一で押す事は不合理である。相手の主張する処を十分に聴く丈けの度量がない、それは子供である。中国人が日本人を評する最後の言葉は日本人は子供らしいと云ふのである。此批評は私共が十分襟度を寛くして受けいれなければならん。そして吾等が三省の要があると思ふ。

日本人は一本調子に短兵急に決定せうとする。此れは大なる欠点である。日子長である。決して一時間を急ぐ必要はない。急行列車でも汽船でもだが、日本人はタゞ急行と云ふ名に囚はれて一分でも早く着くことに専念する様であるが、実は一分や一時間早く着いたからと云ふてそれ丈けでは別に大いしたことではない。あらゆる設備が一分一秒を争ふ様に出来て居てこそ一分早く着くと云ふことにも意義があるが、万般の設備が出来て居らないでタゞ急行列車丈けが一時間早く着いた処で大きな影響はないのである。此ふした点を考へて物事の決定をすべきである。アスハルトの舗装道路の上を自動車走らせるのならよいが、県道にもなつて居らん田舎路を其まゝで乗合自動車を走らせるなんかは、レールを敷かないで汽車を走らせるのと全く同じである。

吾々がこんなことを平気でやって居るのはつまり相手の反対論を聞く度量を持たないで、何んでも自分の意見一点張りであるに原因して居るのである。返す返すも反対論に耳を傾けて討議するので討議である事を知るべきである。一九四六、九、十五。

「ルーブルのインフレ」

一九二二年のルーブル発行高は十七兆五千億ルーブルとなつて居た。此年一萬ルーブルを新ルーブルで引替へんとしたが、依然として濫発されてトウトウ此年末には新ルーブルを百万ルーブルに引替へる新紙幣が発行された。

一九二四年三月には更に此新紙五萬ルーブルを一金ルーブルに引替へが実行されたのである。仮にインフレの実際高を旧ルーブルで計算して見ると、一九二四年四月には七十六万八千兆ルーブルと云ふ實際天文学的数字になるのである。

「マルクのインフレ」

一九一四年一月のマルク発行高は約二十三億マルク、十二月には五十八億マルク、
一九一五年十二月には約八十四億マルク、
一九一六年十二月には約百十四億マルク、
一九一七年十二月には約百八十三億マルク、
一九一八年十二月約三百三十億マルク、

一九一九年十二月約五百億マルク、
一九二〇年十二月約八百十四億マルク、
一九二一年十二月約一千二百廿五億マルク、
然しながら第二期に比すれば軽微であった。一九二二年十二月約一兆三千億マルク、一九二三年二月約三兆五千億マルク、四月約六兆六千億マルク、六月約十七兆三千四百億マルク、八月約六百六十九兆マルク、十月約二百五十兆マルク、十一月約四億兆マルク、十二月約五億兆マルクと云ふケタはづれのインフレとなったのであって、遂に一兆マルクが一金マルクに相当する一レンテンマルクに引替へられると云ふ。殆ど紙幣切捨てに比〔等〕しい大整理が断行せられたのである。

「クローネとインフレ」

奥太利に於けるクローネのインフレは次の様である（一九一三年末の二十三億五千万クローネとして）

一九十四年十二月約五十億クローネ、
一九十五年十二月々七十億クローネ、
一九十六年十二月々百〇八億クローネ、
一九十七年十二月々百八十二億クローネ、
一九十八年十二月々三百四十九億クローネ、

奥太利ホンガリーの四分五裂して、遂に奥太利の国土は八万三千平方料、人口六百五十万人となった。而して、一九一九年三月末約四十七億クローネ、六月末約七十四億クローネ、九月末約九十八億クローネ、十二月末約百廿一億クローネ、一九二〇年一月約百三十二億クローネ、六月末約百七十億クローネ、十二月末約三百六億クローネ、一九二一年六月末約五百億クローネ、十二月末約千七百四十一億クローネ、一九二二年六月末約五千五百億クローネ、九月末約二兆二千七百七十億クローネ、十二月末約四兆八百億クローネとなつて遂に整理に入つたのであるが、一万クローネを新貨幣単位の一シリングで引替へたのである。之れも全く紙幣切捨てと同様であつたのだ。ロシヤとドイツとオーストリーの世界大戦に因つてのインフレーションは実に此の如き大数字となつたのである。そのかはり思ひ切つた大整理が行はれたのである。

此大整理を今度中国に於いて実行された。CRB 二百元が CNC 一元と引替へられたのは丸で問題にならない軽微なインフレーションである。目下米〔米〕貨一弗が CNC 三千三百五十元と云ふが、此れも又引下げか引上げか知らんが、きっと五千元位イにはスグなる様に思はれるのである。然して現在の CNC が整理される頃には果してドノ位イの引替率になるか一寸見物であらうと思ふが、現在の処では米弗は未だ未だ買ひである。中国の CNC の発行高、日本の旧円と新円の発行高が知り度い。

旧円、新円

日本では旧円は全部銀行に預金せしめて其後の引出しを非常に制限してる様であるから（実際はドノ位イになって居るか不明だ）、ヤ、ブレーキが効いて居る様であるが、それでも今後賠償金とか其他のインフレによって新円がきつと発行増加になるであらうから、日本のインフレも樂觀は許されないであらう。中国もきつと此 CNC は何かの新紙幣と交換されるに相違ないと思ふ。然し独露や奥の様なことにはならないで済むらしい。此れ丈けは非常に助つたことの様に思ふ。然し日本は其反面である。衣食住に於いて殆ど飢饉状態である事は残念至極である。一九四六、九、十五。
(G 円一元について法幣は一五、〇〇〇、〇〇〇元であつた。其 G 円は人民幣一元に対して十萬円で整理された。其人民幣は一九五五年三月一新人民券に十萬旧人民券で交換された)

ルーブルのインフレ

一九一四年一月約十六億六千五百万ルーブル、七月約十五億ルーブル、
 一九一五年五月約二十五億ルーブル、八月約三十五億ルーブル、
 一九一六年八月約五十五億ルーブル、十二月約六十五億ルーブル、
 此処でツァーの政府が倒れてケレンスキーの仮政府時代となった。
 一九一七年四月末約八十五億ルーブル、七月末約百卅五億ルーブル、九月末約百四十五億ルーブル、十月末約百六十五億ルーブル、
 此処で十月革命となってソヴェット政府になると、貨幣消滅を考へて居った為めに濫発は拍車をかけたのであった。貨幣無き社会を造ると云ふ勢ひで進んで濫発したのである。其結果、
 一九一八年約五百億ルーブル、
 一九二〇年約二千二百億ルーブル、
 一九二一年約一兆二千億ルーブル、
 一九二二年初め約十七兆五千億ルーブルになったのである。そして新ルーブル〔を〕旧壺万ルーブルに引替るべく発表されたがダメで、トウトウ新ルーブルは旧百万ルーブルで引替へられたのである。然し更に整理が断行されて一金ルーブルは新五万ルーブルで引替へられたのである。此くて十年に近いインフレーションは一先づ終りを告げたのである。通計すると、一金ルーブルは五百兆ルーブルに当る。一九四六、九、十五。

「忘八 くつわ」

京都の島原と云へば昔から有名な遊廓である。廓内は六坊上の町、中の町、太夫町、中堂寺町、揚屋町、下の町で、揚屋、^{くつわ}忘八茶屋軒を並べた云々。此中に忘八と云ふ字があつてくつわと読んで居る。此字は中国にて有名な字であつて、忘八又は王八と同音なるが故に王とも書くのであるが、巷間の罵り言葉にもなつて居る。又元来は嫖子の送迎をする人間に対して云ふたらしく、昔嫖子が局票で呼ばれた時には、男の肩に腰かけさせて、男は嫖子の纏足を手に持って送り迎へした事があつた。其男を忘八と呼び、忘八は頭に青い帽子を被つたらしい。此忘八と云ふ字を大字典によって見ると、

忘八、ボウハチ 仁、義、礼、智、孝、悌、忠、信、の八徳を失ひし義、亡八、遊女狂ひを云ふ。幼学須知に出、とある。

更らに石山支那語大辞典は、

忘八、人を罵る語 孝、悌、忠、信、礼、義、廉、恥を忘れて不正を敢へてするの意。原と五代史、全史等に出づ。忘八崽子ワンパツァイツ、人を辱め罵る語。畜生野郎、碌でなしの恥知らず奴などと云ふ意、とある。

此に一寸面白いのは忘七と云ふのがあることである。

忘七、佛家の語「指月録」に「因七見一 見一忘七」とあるより出づ。此れは恐らく忘八の別語として使はれて居るのではないかと思ふ。語源は仏語であっても、“因七見一 見一忘七”は如何にも十三塊六角が亀を指すのと同じ様なことになるらしい。それは兎に角として、此十三塊六角と云ふて亀を指し、亀のことを烏亀と云ふて忘八と同じ様な意味に考へるのである。

広辞林には、轡女郎、くつわ女郎とは島原の最下等の女郎のこと。

言海には、くつわ 亡八、伏見の遊里撞木町、十字に割りて轡の形をなしたればくつわ町とも云ふ。亡八は遊女屋、娼家遊里の異称。ぼうはち 亡八、忘八、仁義礼知孝悌忠信を失へる意と云ふ。娼家の異称。

辞苑〔には〕、くつわ 遊女を御すること、馬を御するが如くなるに出でしと云ふ。又遊里、遊女屋、遊女屋主人を云ふ。

何にしても昔から此字は日本でも使はれて居ったのであって、而も矢張り中国と同様遊里の言葉であったのだから面白い。以上

四民（江戸時代に定められた四つの階級とある）

四民とは士農工商を指して居る。士は武士。「武士は元和二年十月武家諸法度十三個条を定めて、其れを守るべきことを規定して以来、武家政治社会の最高級の人民としてこれを庶民即ち農工商の上位に置いた」と大百科事典には書いて居るが、面白いのは庶民とは農工商と云ふことである。中国語の四民は矢張り士農工商であり、庶民も矢張り士農工商である。然るに大百科は士を別に扱ふて庶民とは農工商の事として居る。尤も日本では武士を士族として華族と平民の間に置いたことなども、原因は此んな処にあるのだとは思ふが、然し初め中国から舶来した言葉では（文字としても）庶民とは人民の事であり百姓を指して居ること、諸々の人と云ふ意であることを教へられたに違ひないが、士を武士と限り武士を一階級別に上位に置く様にしたので、四民の中から士丈け別にした処、実に勝手な事をしたものだ。独りよがりだ。此れは武家政治に際して武士を一階級上に置く様にしたのであって、武家が自分を高くする意味で、庶民とは農工商であると云ふたのに違ひない。

士は中国では読書人と云ふことであって、必ずしも武士に限った意味はないのである。士も亦た百姓の一つである。四民の一つである。庶民人民の一つである。然しながら民からはづれて居る者は臣である。臣は家来であって降伏した人間であるから民とは別物に扱はれて居るのである。然るに日本では臣民として人民国民と同様に扱はれて居る。分離判明せしめる要がある。一九四六、九、十六、

忘八之二

島原では揚屋と忘八と茶屋とが軒を並べと書いてある処を見ると、忘八とは一種の営業に対する名である様だ。揚屋が（言海には）「遊女を招きて遊興する家青楼」とあり、茶屋（言海）「総べて飲食遊興等の客を遇する家（路傍の茶店より変じたる語か）、茶屋小屋、料理小屋、待合茶屋、芝居茶屋、引手茶屋」とあり、忘八の方は（言海）「娼家の異称」とあるから、島原にて最下等の女郎をくつわ女郎と云ふたとある（広辞林）から、其最下等の女郎屋をさして忘八と云ふたもの、様である。つまり轡女郎屋を忘八と云ふたものらしい。されば揚屋即ち青楼や、忘八即ち娼家や、茶屋即ち引手茶屋等が軒を並べて居ると云ふことである。此くて日本に於いても忘八は亡八とも書き娼家を指し、其主人を指し、又遊女狂ひを指し等して、遂に仁義礼知孝悌忠信を欠いて〔いる〕様な営業及営業主、又は其行為を為す者及び其行為を指して云ふて居るのであるから、確かに之れは中国からの直き輸入である。頭に青頭巾を被って居らん丈けが違ひである。一九四六、九、一六、

観音堂に就いて

京都の清水の観音様にはあの大きな舞台が崖の上に建て居る。処が面白いのは観音様にはあーした崖に舞台造りをしたのがある。備後の阿伏兎の観音様もあんな崖に建て居る。長野県小諸在の布引観音（釈尊寺）と云ふのも矢張り崖の上にお堂が出来て居る。崖と観音、何か関係があるらしい。

大公報記事

東京電報の中に、日本政府当局と密接の関係にある人が公開表示する所によると、「占領軍と日本人との合作が何処迄真実性を以って居るか」と云ふと、私の思ふ処では、吾人は表面的には服従して居るが、心内に於いては決して服従して居らない。日本人民は与し易からざものである。外国人は、日本人は自由に改革が行はれる様に考へるかも知らんが、改変と云ふ事はナカナカである。日本人は国際意識が欠けて居って国家意識が強い。世界的大事に対し丸で井底之痴蛙である。一般民衆がそうであるだけ

でなく、実に政府の高官から陸海軍の極端分子にも亦た此んな人間が多い云々」と書いて居る。此の見方は穿った見方である。一九四六、九、十六。

美〔米〕国のペルロス国務長官がソ聯に対して非常に強硬な態度で臨んで居る時、ワーレス商務長官はソ聯と提携すべし、英国の帝国主義を警戒すべしと発表した。ナカナカ外交が甘い。先日来巴里其他の情勢は美ソ甚だしく尖鋭化して来たのである。其処へソ聯は突然としてモロトフを招〔召〕還して巴里会議に再び出るや、美国の主張である独乙の独立政府の設立に賛成したと時を同ふして、ワーレス商務長官はワシントンでソ聯と友好的な演説を発表した。

何んだか此の二つの現象には奥歯に何かが引っかゝって居る様な味がある。仮へ其味のあるなしに拘らず、美国外交は若い日本など足下へも寄りつけないものがある。中国でも国共問題について前大使が共産党側と甘く行かないと見るや直ちに招〔召〕還すると共に、マーシャル元帥を大使として送って来る。そして国共の妥協に尽力させて居る。そうかと思ふと、今度の様に対ソ聯政策が危険になるとワーレス商務長官をして一寸水を指〔差〕して一服の余地を与へる。其の巧妙さは日本人の以って手本とすべきである。二つの戦法を二人の人を使って平気で発表させる。実に甘い外交とはこうした事を云ふのだと云ふことがはっきりと解る。日本外交官はコウした時に十分注意して勉強して置くべきであると思ふ。一九四六、九、一六。

九月十六日

彭学沛先生（国民政府宣伝部長）からの招待を受ける。堀内、山田、小川、堤、植田、中山医博、速水理博と私とであった。彭先生と郭心崧先生と邵毓麟先生と張超先生とで昼食の御馳走になった。堀内先生が得意の自己宣伝に之れ勤められる。然し邵先生は曰く、今日は彭部長は国民外交部長である。それで郭先生と出て来て貰はれた。国民外交の為メである。自分や堀内さんなどはもう退いて、貴方達でどうか真の国民外交をやって頂き度いと云ふて居られた。言外に堀内さんの隠退を言ふて居るのだが御本人には解らんらしい。昨年終戦以来こんな集りは初めてゝある。

郭心崧先生は今度対日文化工作委員会が改組されて亜東問題研究会となった、副委員長である。どうやら此頃色々の機関の整理が初った様である。改造日報然り、文化工作委員会然りである。導報とか遠東観察者などもやられるのではないかと思ふ。一九四六、九、一六。

クガノボル 空閑昇（一八八七—一九三二）

陸軍々人。佐賀市の人。昭和七年二月上海事変勃発するや、第九師団歩兵七聯隊第二大隊長として出征す。二月十九日よりの第一次総攻撃に於いて江湾鎮西北方の敵を攻撃せしが、戦況不利にして大隊は多大の損害を受け、二十二日彼又重傷を負ふて人事不省に陥った。その後大隊の損害益々甚大となり、かつ旅団命令ありしを以て大隊長代理尾山大尉は二十三日未明残兵を指揮して撤退したが、彼れは戦死と誤認されて遺棄された。然るに彼れは偶然にも陸軍士官学校区隊長時代に教育せし中華民國の将校甘海瀾に救はれ、一旦真茹の野戦病院に収容されたが、日支捕虜交換に依って上海兵站病院に移された。彼れは捕虜なりしことに恥ぢて、三月廿九日戦没部下の五七日に相当せる日を以って自ら奮戦せる地点に於いて拳銃を執って自決した。享年四十六才。昭和九年四月特に靖国神社に合祀されたと書いてある（平凡社大百科事典 27 卷）。

然し私が甘海瀾少佐から直接聞いたところによると、空閑少佐は全く人事不省で収容した。生き還った時には殺せ殺せと云ふて騒いで困った。そこで、宜しい殺ろして上げると云ふてスイミン剤を注射して暫らく眠らせた。今度目が醒めた時には非常におとなしくなっていたので、私は、決して御心配はいりません、貴方の名誉を傷ける様なことは決してしない、安全に送り届けて上げますと云ふて、捕虜

とはせずに送り帰した。其後聞く処によると、上海の楊樹浦の紡績工場の中に設けられた仮病院の一室に幽閉されて居ったそうであるが、五七日即ち三月廿九日に戦没部下の墓参に行つて来ると云ふて一挺の拳銃を渡されたので、彼れは其拳銃を持って墓地に至り自決したのだ。アンナ事をさせるのだったら帰らせるではなかった。気の毒なことをしたと残念がつて居った。又、安慶から来た彭先生も同様の事を云ふて居った。而も、日本の軍律は厳しい、それは決して悪い事ではないが、殺す処を救ふのが武士のなさけと云ふものではあるまいか、其処で其なさけに感憤して其人は更らに大きな働らきをする様になるのではあるまいかと云ふて居った。何れが真相なりや私は知らんが、私は偶然此記事を読んで、本人である甘海瀾少佐から聞いて居った、彭先生からも聞いて居った事と余りにも違ふので、此に書きつけて後日に遺すことにした。一九四六、九、一六、

「三道河」

一八九〇年ベルギー、フランス両国の天主教宣教師共同してこの地をアラ善蒙古王より租借し、鋭意開墾を行ひ、山西、陝西の窮民を移して、こゝに部落を造り植樹農耕に努めしかば、従前满目荒涼の地今や繁盛なる村邑を現出し、灌漑用の運河も四通八達してゐる。天主堂も各地に建立せられ其数十八。ベルギー人十数名駐在して教化に従事してゐる。黄河沿岸磴口下流一〇〇支里の部分から黄河大迂回点に至る二百六十支里、巾約百三十支里の地域である。一九四六、九、一六、

且つて同文書院学生が旅行せし地。

「東洋社会党」

昭和十五年五月廿五日大和の人樽井藤吉等によって肥前島原に於いて東洋社会党なるもの創立された。其綱領は、

第一 我党は道德を以て言行の規準と為す

第二 我党は平等を主義となす

第三 我等は社会公衆の最大福利を以て目的となす

と云ふ三綱領であつたが、実際には嘗て鍋島閑叟が富農の土地を借り上げてこれを貧農に自作せしめた徳政の継続を望み、これ等の農民は自他平等、天物共有、貧愚の世襲の破壊、を主張したのであって、樽井の運動を支持した。

時の政府は同年六月廿日を以て結社並に集会を禁止したが、十六年一月六日党則修正してこれを新聞に発表した為めに集会条例違反として、樽井は輕禁錮一年に処せられて此運動は終りをつけた。一九四六、九、一七、

城について

戦争絵を見て居ると、源平時代は幕を張りて陣屋を作り、其中に屯ろして赤旗白旗を樹て相方対陣せるなり。南北朝時代より同じであつた。平城京時代の城は中国式の平城であつて、平安京又平城であつた。然るに織田氏が安土城を築くに於て初めて西洋式の城になったのである。戦争専門の城は西洋の流れである。日本の山城と云ふのは、山賊共にあつては山寨であつたり物見櫓であつたりしたもので、山寨を城の原始形態と見るのはあたらないと思ふ。少くも日本に於いては物見櫓は又タゞの遠方を見る櫓であつて、此れに據つて戦争をするのではない。戦争は陣屋と陣屋との対抗であつた。それが織田信長が宮殿を造営するに當つて、適々切支丹の設計者をして安土に築造せし物が、後の日本の城の最初になったものであると私は考へる。凸字形の城は中国にも朝鮮にも無いと思ふ。中国も朝鮮も王城は平地に在る処の平城である。其平城の中に市街を抱いて居るのが特色である。然し西洋の城は市街の外に屹立して居る。丘の上に建築せられて居るのである。そして西洋の城は戦争が目的である。東洋の城

(少くも中国朝鮮に)は平城で百姓を城の内部に抱いて外敵を防いだのであるから、頭から中国の平城は戦争が目的ではないのである。此城を一つ見ても中国文化は出発点が違って居るのである。初めから戦争を目的に築く西洋の城と平和を目的に築く中国の城とは全く違っている。中国では戦争は長期のものではなく適々発生する病気の如きものであると云ふ考へである。凹字形の市街を抱く城は平和の象徴とも云ふべきであり、凸字形の城は戦争を象徴して居るのである。日本の城は初めは凹字形であったのが織田氏の時から凸字形に変形したのである。それは西洋の影響である。一九四六. 九. 一七.

縫ひ針

縫針は中国からの舶来品である唐針と呼ばれたとの事である。応神天皇の御代に中国文化の輸入に際して舶来したものらしい。古昔の遺品中に僅かに骨製の針があったらしいのである。木又は竹の針もあったであらうとは思はれるが、材料の原質上保存されて居らんから解らないが、針則金属によって造られた針の遺物が無いと云ふのである。何んと貧弱なことであらうか。針がなかったと云ふことは日本人は縫ふた衣類を着て居なかったと云ふことになる。私は日本は中国から、又は朝鮮から文化が舶来する迄は文化らしいものはなかったと断言して居る。それは学問とは教へて貰ふもの、教へられて習ふ物と云ふ考へより持って居らん日本人はそれ以前に学問らしいものゝなかった証拠である。又縫針が中国からか朝鮮からかの舶来とすれば、それ迄日本人は着物らしいものを着ては居なかったと云ふことになる。朝鮮文字か中国文字かゝ舶来する迄日本に文字がなかったことから考へても、文化の初めは文字にあるが故に、日本には文化らしい文化はなかったと云ふことが当然である。一九四六. 九. 一七.

幕府

幕府と云ふ文字は幕を張り廻らした処でなければならんと思ふて一寸言海を見ると、

幕府 1 将軍之職、在征行、所在止以、帳幕、為、治

2 将軍之居所の称

3 将軍公方の政令を発するノ処、武家の政府

とある。之れではっきりした。矢張り幕屋のことである。それが将軍の居る処と云ふ意味になって、居城も亦た幕府と云ふ様になったものゝ様である。遂に武家政府に迄展開したものゝ様である。一九四六. 九. 一七.

「苜蓿」

クローバは生又は乾草共に家畜の飼料として最も優秀なものであるとの事だ。殊に乳牛の飼料としてはクローバーに若くものはないとの事だ。それは乳汁生産上必要な蛋白質及び灰分を多量に含み且つ美味な為めである。又家畜の發育を速め骨骼の構成を強くする。レッドクローバーの乾草百分中、水分九. 二一、灰分六. 九七、粗蛋白質一五. 〇四、粗脂肪三. 一二、粗繊維二四. 七七、可溶無窒素物四〇. 八九、蛋白質一二. 六三、以上である。中国人が好く理由は母乳供給者の食料として最良の副食物である〔ことだ〕。一九四六. 九. 一七.

クロボトキン

人間は偉大なる主張をする人程、其人は深刻な経験を持って居ると云ふことも云へるが、仮へ経験は持たなくても其人の眼光にしてせんえい〔尖鋭〕であれば大いなる影響をするものである。クロボトキンは近衛隊に入隊してアムール地方のコサック隊に入隊した。其処で彼れがシベリヤ地方の地理学に大発見をする奇縁が出来たのであるが、然し又一面彼れは、当時ロシヤ帝国から非常に圧迫を受けて居った非戦論のキリスト信者であるゾボボルツイの団の共産生活を直接に見たのである。此れが他年彼れ

が無政府主義を唱道する土台石となったのであるが、同時に軍隊生活が人類の不幸を養って居ると云ふ錯誤をも知ったのである。人間には時々偶然の一致的なことがあるものだ。賀川さんが時事新報に小説を書いた時に、私をモデルに使って其名を閔根〔と〕つけた。先年藤森さんが小説を書いた時にも私のモデルは閔根となって居る。そこで藤森さんに其事を話した処が、何にも別に理由はない、タゞ偶然の一致であらうとの事であった。

中国国民革命の当時中国の最高顧問としてロシヤから来て居った人にボロゼンとかガロンと云ふ人があった。此れが帰国するとボロゼンもガロンも仮名であった事が判明した。今私はクロボトキンの小説を読んで居ると、彼れがチャイコフスキー団に入って革命運動をした時に其名をボロゼンと名〔づ〕けて居る事を知って、此にも偶然の一致らしいものを見るのである。それは兎に角として、クロボトキンの無政府共産党は世界的に随分大きな役割を勤めたものである。一九四六、九、一八。

抗戦八年木刻展覧会

今朝の『大公報』を手にして見ると“抗戦木刻展 今日起在大新画廊展出”と云ふ見〔出〕しがある。中華全国木刻協会主催としてある。私はすぐに行き度くなった。時計は已に十一時である、昼食後に行くつもりになった。然し今日は新生活講座が四時からある。困ったナアー、然し今から行けば三時には帰られると、パンを三つ四つ頂いて行くことにした。

十一時十分に出かけた。昆山路を北四川路へ出て、文路から北河南路へ出て、河南路橋を渡って北京路を西へ、浙江路から南へ、天津路を西へ、大新会社の東の入口から這入って二階へ上った。西側の方に幕を張った画廊がある。記名して入場券を買って入場した。統計表が出て居る。それによると第一期、第二期、第三期、第四期に分かれて居る。それによると、

第一期 1937-38 合計 56	一般生活	119
内 戦争画 24	労働	73
一般生活 13	風俗	35
労働 7	風景	29
風景 3	災難	38
肖像 (災難 2) 7	肖像	22
第二期 1938-39 合計 142	装飾小品	15
内 戦争 57	第四期 1945-46 合計 115	
一般生活 49	内 戦争 9	
労働 12	一般生活 73	
風俗 14	労働 5	
災難 4	風俗 5	
風景 4	災難 20	
装飾小品 2	風景 4	
第三期 1940-44 合計 298	肖像 12	
内 戦争 37	装飾小品 8	

連環画を別にして合計 611 枚である。然して此れが作者はどうかと云ふと、

安徽 二人 雲南 一人 貴州 二人
 湖北 一人 湖南 五人 四川 廿一人
 江西 八人 広東 八人 広西 十人
 福建 十四人 江蘇 六人 西北 卅五人 合計百十三人である。

第一期の第一番は魯迅先生の肖像が色刷で出て居る。それからボツボツと概観的に見たが、イヤハヤ

あっと驚くばかりである。何んと云ふスバラシさだ。アノ木刻画が此んなにも発達するものであらうか、私はタゞ涙が流れた。此民衆芸術の力強い健康美的な芸術品の展覧会〔が〕ヒシヒシと推し進んで来る様だ。私は嬉しくて嬉しくてタゞ涙が流れるばかりである。刃鋒が私を見つけた、煙橋が居った、やがて野夫が出て来た、王樹芸が居る、其他数人が居ってトウトウ私を中心にして写真をとった。私は今日は概観的に見ただけである。これから数回に参観して詳細に見度く思ふて居るので、再会を約して帰って来たが、老巧あり、新鮮あり、実に千態万様、七花八裂の感がある。一番感じたことは各個人がはっきりと自己を主張して居る点である。且つはタゞ模倣であつたが、今日では押〔し〕も押されもせぬ立派な一人一人の芸術品である。抗戦八年中油絵や水彩がドレ丈け進歩したか私は知らんが、恐らく木刻の発達に比すべきものはあるまいと思ふ。是非共日本へ紹介したい。此れは此抗戦中中国が生んだ最も優秀なる文化作品の一つである。イヤ恐らくは最優秀なるものではないかと思ふ。前の数字に見る様に戦争中の芸術でありながら、戦争及戦争に帰する画題が少くて、一般生活と生活関係のものが大部分であると云ふことは一体何を物語って居るであらうか。私は此しゃくしゃくたるゆとりを如何にして持ったか不思議に思はれるのであるが、然し又此ゆとりのある処が中国の面目であると思ふ時に、九で吾子が成人したかの様に嬉しくてならのである。概評として記す事然り。一九四六、九、一八、〔魯迅先生逝去の〕記念日である（私を中心にして写真をとった）

「分業に就いて」

江西省景德鎮は陶磁器の製造地であるが、此地の凡べての経営は昔から其製造、販売等に至る迄悉く分業になって居るとの事である。而も其各分業が徹底して居る点では世界中に比較なしと云はれて居る。一九四六、九、一九。

郭先生が夫人とお二人で来られて、午後木刻展へ同道を約したので、食後狄思威路へ行く。雨が降って来たので自働車で行く。大新の画廊ナカナカの入場者である。一八芸術社の写真を流動展の写真と共に渡す。複写するとの事だ。記念に一筆書けとの事で郭先生の次ぎへ、「十六年以前を顧みて驚嘆と共に感慨無量。作者の個性の活躍と共に迫力がヒシヒシと感じられる。最早世界的標準に迄近〔づ〕いて居る。愈々健闘を祈る。魯迅先生の亡きは千載の恨事。内山完造」〔と〕書いた。

郭先生は買薬に行くと言ふので別れて、又木刻展で斯先生を待ったがトウトウ来なかった。そして田漢先生が来たので又写真にはいった。五時になったので失敬して帰った。野夫、刃鋒、麦稈、余白墅など会って愉快である。一九四六、九、一九。

追記、中国の木刻は生きた絵だ、生活美術だ、健康美術だ、民衆美術だと云ふ様な言葉で批評すべきものであると思ふ。それは凡べてが日常茶飯事である。人間生活の土台に立っているものである。

三連単に就いて

前にも一二度書いて存〔の〕こしたと思ふが、中国の制度の中に三連単とか五連単とか云ふものがある。何れも一冊の帳面を、三連単は三枚に、五連単は五枚に切るのであって、三連単なら之れを漢口滙票に使ふとしたら、同じことを書いた三枚の票子〔の〕壹枚は依頼者に渡す、壹枚は自ら漢口の取引先きへ送る、壹枚即ち票根は自分の処に保存するのである。依頼者は其票子を郵送するか自分が持って行くかして、漢口の指定の錢莊（錢莊に限らないが）へ票子を指示すると、錢莊は上海錢莊から来て居る票子と照合して間違いなければ支払って呉れるのである。三連単を船荷証券に使ふ時には、船行へ荷物を漢口送りとして引渡すと、船行は三連単の一枚を引替証として呉れる。船行は漢口の船行へ向けて一枚を送る。票根は自分の処に保存して置くのである。荷物引替証は自分が携帯するなり漢口の取引先きへ送るなりする。そして漢口の船行へそれを提示すると、船行は上海船行から送って来て居る三連単の

中の一枚と照合して間違ひなければ荷物を引渡すのである。郵便局の郵便為替に三連単が使はれて居る。此れは又面白い。為替取組者に千円でも貳千円でも為替の額丈け切手を買はせて、それを三連単の二枚（票根を除いて）の中央に貼る。そして各一枚に其貼った切手の額丈けの金額を書く。そして其二枚の中央即ち切手の貼ってある上を鋏で半分に切って一枚を為替取組者に呉れる。為替取組者は其票子を目的の名宛人へ送る。郵便局は其半分の一枚を目的地の郵便局へ直接に送る。そして其郵便局では受取人の持参する匯票を、自分の方へ来て居る半分の票子と合せて見て間違ひないと支払ふのである。其二枚の切り方がナカナカ面白い。チャン〔と〕真直ぐに切ると云ふ様なことはない、誠に無雑作に切るのである。之れが偽造などを防ぐ一つの方法であるとさへ云はれて居る。五連単なんて云ふのは租税とか、瓦斯代とか、電話料とか、電燈料とかに使はれて居るらしく、通知と領収証と二回の催促と票根と云ふ様に使はれて居るらしい。兎に角此ふした方法が西洋から習ったのでもなく、中国で發明されて居るのである。それは驚くべき文明の方法である。私は〔が〕中国は進んで居るのか後れて居るか分らんと云ふのは、こんな立派な制度を見る時に出る言葉であるのだ。一九四六、九、一九。

阿 Q 時代

平凡社大百科事典に阿 Q 時代と云ふことが出て居る。然し阿 Q 正伝は出て居ない。それが面白いと思ふ。阿 Q 正伝が出て居なくて阿 Q 時代が出て居るなど一寸変なこと、思ふ。阿 Q が出て居って次に時代と云ふ様に出るなら当然と思ふが、一つ前に出るべきものが出て居ないで後のもの丈けが出ると云ふのは、実に此事典の編輯に一つの欠点である様にも思はれるのである。其説明の中にも阿 Q 時代は、魯迅の阿 Q 正伝から来て居るものと書いてあるのだから変に思ふのである。一九四六、九、一九。

悪（大百科事典の説明）

善の反対又は善と矛盾する概念を云ふ。悪は凡そ三つに分けることが出来る。

第一義は自然的物的悪であつて病氣とか災害とか云ふものである。凡そ自然的なものは其まゝでは善でもなく悪でもないが、それが人間界に入り来つて人間と関係を持つ様になると人間の善を妨ぐるが故に悪となる。此意味の悪は嚴格にも害悪と云ふものである。

第二は道德的悪で、凡そ人間の世界に於いて其善を否定するもの、善の実現を妨ぐるもの、法律的には犯罪、宗教的には罪と呼べる、ものである。人生に存する個々の衝動や欲望や動機はそれ自体は善でもなければ悪でもない。善悪は此等個々の衝動、欲望、動機の秩序関係を決定する意志に至って始めてあらはれるものである。故にあるべきもの、無いこと、強かる可きもの、弱きこと、意欲すべきものを意欲せせざることは即ち悪である。善をも悪をも意志し得る自由可能態にあつて、而も擇善固執するところに反省的自覺的な人間の道德生活があると云ふべきである。

然しながら如上の第一第二の悪は何故に存在するか、かゝる悪の存在根拠は何であるかと問ふに至つて、第三の形而上的悪が考へられるのである。即ち諸悪の發生の根源としての悪である。哲學的宗教的には人間の不完全なる有限的形骸的存在が根本悪の根源と考へられたのである。

悪が人生及世界に不拔の根底を据えんと観ずる処に罪惡觀、厭世觀が成立し、悪の滅亡、善の勝利を信ずる処に最善觀、樂天觀が成立する。又善悪の二元觀を立てる世界觀も存在する。悪は善を否定せんとする。然しそれは否定した後に自ら否定せらるべき運命を荷ふてゐる。善の意義は悪と闘つてこれを征服するところに成立する。凡そ悪なければ善もないが、悪の現實的、時間的、歴史的意義は其の倫理的価値を否定せられるところに存するものと考へられる。

内山云ふ、宗教的に人間は不完全であると吾人共に云ふては居るが、完全なる神から不完全が生れると云ふ其事が甚だ妙でない〔ある？〕。善なる神から悪が出る筈がない。すると人間に自由を与へられた為メに人形が自ら悪を作り出したと云ふのであるが、然し之れも亦た一寸考へられないものである。

神の完全が人間に於いて悪魔を造ると云ふことはどうもおかしいのである。一九四六. 九. 一九.

仏教に於ける悪について要約されたものが書いてある。

- (一) 宇宙の第一原理に背いて起るものを悪と云ふ。
- (二) 生死流転の愛すべからざるを招くものを悪と云ふ。
- (三) 現在並びに未来に違損を招くものを悪と云ふ。
- (四) 無慚無愧等の心理そのものを悪と云ふ。
- (五) 仏制定の道德に背くものを悪と云ふ。殺生、偷盗、邪婬の如きは身業の悪と云ふ。妄語、綺語、惡口、兩舌などは口業の悪と云ふ。貪り、瞋り、愚痴等は意業の悪と云ふ。此等は皆な十悪の中である。仏教の「悪」はナカナカ徹底して居る。一九四六. 九. 一九.

「デイオゲネス」から

「獅々〔子〕は飼はれても奴隷にはならぬ。」

彼れは海賊に捕へられて奴隷に売られながら此言葉を吐いたのである。身は事実奴隷に売られて居るのである。自分の日常生活は奴隷であるのだ。而も彼れは尚ほ飼はれても奴隷にはならぬと叫んで居る。

今日日本人は或は身は奴隷と同じ様に自主自治の生活は出来なくなるかも知れないが、然し吾々の精神生活の面だけは断然自由自治の生活を営まなければならぬ。無論再び武力によって日本を再興することは出来ないことは火を見るよりも瞭らかであるが、平和な民主的な日本を造ることは世界何れの国からも、特に其管理者である四ヶ国（米英ソ中）の理想であるのだ。管理四ヶ国も日本人を奴隷になれと強制することはあるまいと思ふ。タゞ平和的な民主国を造れとは要求して居る処である。

吾等も其れ丈けは飽く迄厳守しなければならぬが、而も其身を如何に扱はれるとも、其身は如何に奴隷的に行為されるとも、獅子は飼はれても奴隷にはならぬと云ふことは常に心に銘記して置かねばならぬ処である。一九四六. 九. 二〇.

巧妙なる条約文

中国は非常な老国である。世界史上珍しい、それこそ恐らく一つの国家として此位長い年月の歴史を持って、尚ほ国家民族が栄へて居る国は珍しいのである。西洋の科学文明から見ると中国は非常に後れて居ると見るのは当って居る。誰れでも極めて容易に此の尺度を持って来て言ふが、然し文明の標準を考へる事が必要である。其標準の又相違がある。その標準の比較から初まって其れぞれの文明の比較となるのである。それは兎に角として、中国が明末から清初にかけて阿片の輸入が漸く多くなって来て、一八二〇年頃になると、輸入は一ヶ年に参万箱を数へる（一箱は百式十斤入り）に至って、林則徐を両広総督として阿片を英商から没収して（約式万箱）焼棄した。そして此後の輸入は船貨諸共没収して、関係者は死刑に処すと声明した。然るに英国は貿易保護の名の下に軍艦十六隻と運送船二十七隻を派遣して来た。そして南京条約が出来た。

- (一) 清国は二一〇〇万弗の償金を支払ふ
- (二) 広東、厦門、寧波、福州、上海の五港を開港する事
- (三) 香港を割譲する事
- (四) 爾後両国は対等の交際を為す
- (五) 輸出入品には五分の関税を課す 以上

阿片を原因とする戦争の終結にあたって、其条約文面に一字の阿片と云ふ文字がない。実に不可思議なる条約文である。而も両国は暗に阿片は密貿易として之れを認めたものゝ様である。実に巧妙を極めた条約文である。日本の二十一ヶ条の様に全部を文面に表はしてある様な（先方が国民に対して困る様

な事ばかりを並べ立て、ドウジャドウジャと迫るのは下々の下に属するくどきである）如何にも若い者の成金と云ふたかたちである。日本には未だ外交と云ふものは出来て居らん様である。世界大戦に火をつけるなんて考へもなく、遂に火つけの罪名を其結果からして負はされる処など、はっきりとそれが見へる。一九四六、九、二〇、

郭先生と語る（二十日）

久し振りだナアー、永い間イヤだったナアーから話は初まって、日本はエライ失敗をした、明治の維新が下から持ち上っての革命でなくて封建諸侯の薩、長、土がやったので、つまりは名前のつけ替へだけで其内容は封建の殿様が天皇に拡大された迄のことで、殿様が生殺与奪の権を持って居ったのが天皇に持ち替へられた迄の事で、而も最近になって其封建制度の行き詰まりから国体を宗教的に推し進めた為めに、天皇は神様である、神聖であると云ふ様な、今日此れ丈け科学的に世界が進みつゝある時に宗教的な国家を造りつゝあったことは大きな間違いであったのだネー。

然し僅かに何十年であれ丈けの文化を発揮した処は実に偉らいものだ。今度の失敗もキット立直しが出来る。そして十年後には又日本は立派に独立国として出来上るに違ひない。タゞ今度は路筋を間違はない様に丈けはせにやらんネー。先年如是閑先生が来た時に、日本の革命は頭のつけ替へで出来るのであって下から盛り上って出来るのではない、日本の国民は奴隷に甘んじて居る人間であると云ふたので、甚だしく私は彼れのモウロクせることを思ふたが、然しそれは私の間違いであった。矢張り先生の見方が正しかった。如是閑先生はどうしたかネー。ウン、貴族院議員に祭り上げられた。日本の再建を考へるなら一番先きに文部大臣を考へることだ。従来文部大臣は伴食大臣だなんて云ふて来たが、実は此文部大臣の下に国定教科書編纂委員会と云ふものがあって、此れに一つの方針を与へて教科書の編纂をさせるのであるから、軍国主義でも、侵略主義でも、尚武主義でも、平和主義でも、民主々義でも、何んでも出るのは此处からである。此处で出来上った国定教科書を教材として、此教材を如何にすれば徹底的に児童の頭に教へ得るかと云ふ技術を教へるのが師範学校である。其処で日本の改造は先づ師範学校の改造が一番先きでなくてはならん。次ぎの時代の国民を作るのは此处に其鍵があるのだ。文部大臣に平和主義の偉ら者を据へて、相当する教材を造らせて、師範学校で其教育技術を教へて、国民学校で教育させる。此れが一番近路であり、又最も正確に日本改造が出来る路である。そうだネー、それは必ず成功するネー。私は先日「座骨神経夢物語り」と云ふ一文を改造日報に出したことがある。一度見て下さい。私の方針がヤゝ出て居るから。トウトウ昼になったので再会々々した。一九四六、九、二一、

日々の力

良心は如何なるものなるや。良心は汝の奥秘に住む所の神の声なり。吾等の意思感情は此声によりて働かざる可からず。良心を尊敬せよ。良心に従順なれ。良心は靈魂中に存在する神である。世界に於ける最も完全なる神の肖像は良心である。汝良心の命に背いてはならん。良心こそ万人が万人持つて居るものである。それ故に神の姿であると云ひ得るのである。一人として神に造られない人間はない。されば一人といへども神の姿を持たない人はない筈だ。たゞに持たないばかりでなく、其神の命ずるまゝに行為すべきである。日々の力の今日の教へ。一九四六、九、二二、

英国

英国は農耕地としては僅かに全国土の二三％よりない。而も農民と云ふては全人口の七％より居ないのである。英国は農業が没落したと云ふのは、此うした点から云はれて居るのである。然し牧畜は、尚ほ衰へたと云ふても全面積の三三％の牧場に一七〇〇万頭の牛と二七〇〇万頭の羊によって、年々百万

頭の肉と十三億ガロンの牛乳を供給して居るが、それでも不足するので年々五億三、四千万ポンド食糧を輸入して居るのである。英国の不振は英国の五大工業即ち石炭業、棉紡績業、機械輸出、自動車輸出、造船業の年々の不振が最大の原因を為す。イギリスの教育はドルトンプランやモンテッソリー法が輸入せられて来た。教授時間は上級でも一週廿八時間を越すことなく、授業は午前のみで午後は遊戯競技に当てられる。小学校の教授課目は（国庫の補助ある学校では）、聖書二時間半、国語及算術十時間、歴史地理唱歌五時間、自然科学五時間半、衛生一時間半、遊戯及自由時間三時間。時間割は個々の学校で著しく異って居る。知識の注入よりも品性の陶冶が主になって居る。教授法よりも教師の人格を重視する傾向が強い。幼児部 三才乃至七才、男児部 七才乃至十五才、女児部 七才乃至十五才。「英国人は独りは馬鹿であるが、二人になるとフットボールの試合となり、三人寄ると大英帝国を造る」と言はれるそうだが、此れは事実であると聞いて、吾々は考へさせられるものがある。一九四六、九、二二。

英国の社会には三つの階級がある

（一） 貴族及富〔裕〕階級

古い伝統のある貴族、日本で云へば公侯伯爵などにあたる。全部上層階級の人である。そして此等〔の〕人々は上院に議席をおいて居ると同時に歴史的豪族富豪の士其他の有閑階級も之れに属するのだ。

（二） 中流階級で、此れは上層中流と下層中流との二つに分けられる。

上層中流とはおもに職業階級である。医師、法律家、僧侶、教師、陸海軍人、大官及び実業家である。下層中流とは小売商人、店員事務員等である。

（三） 労働階級

労働階級は一般に労働生活者で、炭坑夫、一般工場労働者、鉄道、造船所の職工、土工、農業労働者である。

此外に商業本位の英国でも農民はそれ自体で一大階級である。此に分別せられた社会階級の分け方は実に直ちに中国に持って来てあてはまることである。其まゝであてはまるのである。私は中国人と英国人とは実に好い角力であると云ふて居るのであるが、此ふした事を見ても私の考への過りでないことを知ることが出来て非常に愉快である。

英国人の自由思想が又非常に発達して居った。他人の生活と権利に干渉しないと共に、自分の生活と権利にも他人の干渉を嫌がらる。政治上に於いても此個人の自由思想を守らんことを主張して居る。現に政治的にも個人の権利を最も有効に実現すると思はれる議会政治と云ふものを創始して居る。思想上に於いて個人の思索や思考を制限される様なことは承知出来ないのである。概念的に制約したりする観念論は嫌いである。従って経験を重んずるのである。他人の干渉を嫌がると共に他人に干渉することも嫌いであるだけに、階級闘争なんてことは余り此国では発達しない。一九四六、九、二二。

「中流生活」（イギリス）

○英国の中流生活は多分に生活を享樂すべき時間と金の余裕がない。彼等は年中勤勉に働らく、そして彼らの享樂は極めて単純である。四月の復活祭と八月のバンクホーリデーは彼等が楽しみ得る年二回の休養である。

○家庭はイギリスの中流生活者にとっては何ものにも勝る楽園であるのだ。

○家庭の個人生活を極度に尊重する英人は家庭を以て社会生活の中心とする。自分の魂がホントウに自分のものと云へるのは、家庭生活を楽しむ場であると彼らは信じて居るのである。

○宗教は戦後も依然として個人と社会との関係を支配する指導力を有して居る。日曜は安息日である。

凡べての業務は休みである。教会の礼拝後は家庭にあって静かに一日を送るのである。イギリスの日曜日は誠に静粛である。大抵の商店は閉めて居る。劇場、シネマ、ゲーム場、其他の娛樂機關も日曜日は休む。スポーツさへも禁じられて居る。土曜から日曜の夜にかけては汽車の運転さへも回数が減るのである。

貧富の懸隔

イギリスの富の八割八分は全国民の二割五分の少数者によって所有されて居る。耕地の八割四分は三万八千の家族によって所有されて居る。ロンドンの市街地の大部分は四人の貴族が所有して居る。イギリスでは此等少数の富裕者に幾多の高率の課税をなし国家に提供させる一方、幾多の社会政策を立て、失業保険、養老年金、寡婦孤児扶養法、其他年金階級者の生活維持及び改善をやって見るが、依然として貧富の差は大きくなって行く。

○失業者の氾濫は英国現在の大問題である。一九四六、九、二二、

九月廿三日

昨年の今日は第二集中命令の出た日である。今日から十月八日迄に北四川路以東に集合して生活せよとの事であった。此次ぎが十一里坊となり、遂に三里坊となるのである。一ヶ年間先づ先づ無事に、イヤ此間に二つの葬式を出した。神よ、上り逝きし二人の霊の上に貴方の豊かなる御恵みを与へ給へ。彼等は共に子供を地上に遺して居ります、ドウカ彼等が無事に育ちます様に祈り奉る。其上二組の結婚式まで挙げたのである。此ふした数々の事の外に尚ほ土曜会は再会する様になり、互助会になる迄自治会は育て、行った。イヤ多くの遣帰者を無事に帰国せしめた。其上に互助会になってからも新生活講座なども開らいて、お互ひの知識の活動の幾分でも助けて居ることが出来る、誠に感激すべきである。今日は彼岸の中日である（或は昨日であったかも知らん）が墓参が出来かねる。此れ丈けは残念だがしかたもない、心の中で墓参して置くことにする。又時を造って行くとせう。以上。一九四六、九、廿三、

英国人と日本人

今日の英国人を造り上げる迄の生物的歴史を見ると、初めにはブリトン人が居った。それをアングロサクソンが征服した。アングロサクソンを再びノルマン人が征服した。「ノルマン人は欧羅巴中で最も進化した民族であった。と云ふのは、元来彼等はスカンジナビヤの海賊であったが、紀元九〇〇年の頃フランスを攻めて其北の広漠たる平地を占領して王国を造った。彼等は自分の特性を持ったまゝでフランス文化を摂取した。フランス人と結婚して民族発展の実行をした。僅かに百年にして野蛮未開のノルマン人はフランスの風俗を覚へ、言語を覚へて遂に優良民族となったのである。」

此優秀なるノルマン人がアングロサクソンを征服するや、彼らはフランスの文化文学を輸入したのである。そしてアングロサクソン民族との長年に渡るお互の結婚によって更らに新しい優良民族をつくり出したのである。元来ノルマン人はチュートン民族の血とフランス人の血との結合によって、両種族の性質を結合して居ったのである。鋭敏にして才気に富み、想像力が豊かであって、而も勢力旺盛な民族であった。アングロサクソン人は元来頑強にして忍耐強く、常識に富み、想像力には甚だ乏しかった。其アングロサクソン人とノルマン人との結合は偶然にも優生学上の好結果を得るに至ったのである。丁度鷺の敏活な^{ウシ}霊を牛の強い体に注ぎ込んだのだ。此れが今日の英国人を造り出す原因であったのだ。此くの如き生物学的発展を遂げた英国人が優良な民族となることは、優性遺伝学を通して見る時に当然過ぎる程当然な事である。

此れに比較して日本人を見る時に、日本人にはこうした交配がない。日本民族は北からはオロチョンか朝鮮の民族が流れて来たのであらう。南からは台湾の人間が流れついたのであらう。西からは浙江、

福建ありの中国人が漂流して来たのであらう。東北からは白哲人種が早く流れて来て居ったであらう、即ちそれはアイヌである。出雲民族は朝鮮系であらう。台湾系は熊襲共であったであらう。此れ等の民族の混血が今日の日本人となったのである。此混血以来永く日本人は混血がないのである。最早日本民族は純粋民族でもあるかの様に思ふ程交配がなかったのである。而も優生学とか遺伝学とか云ふ事は日本の学問ではなかったで、そんな事に一向おこまいなく、無暗に純粋民族日本人を誇って来たのである。処が純粋種は血縁結婚であるから、此民族が優秀になると云ふことは優生遺伝学に於いてはあり得ないことになるのである。優生遺伝学に於いては混血交配でなければ優秀な生物は出来ないことになって居る。無論其交配の如何によつては悪質なものも出来るワケであるが、兎に角今日の日本蚕種を見ても優秀種の交配混血が行はれない処に優良種は出来ないのである。此優性遺伝学から見る時に英国人の優秀が立証されると、日本人の劣等が其反面に於いて表現されることになるのである。私は丸で一種の皮肉の様に之れを見るのである。言語に於いてもノルマン人がフランス語を以て来たので其影響を受けた。然し其骨組は依然としてアングロサクソン語が根本となつて居るからフランス語とは違って居るが、然し在来のアングロサクソン語にフランス語が加つて出来て居るのが今日の英語である。従つて両民族の混血融和から新しい英国人を造つた。新英国人は新しい文化を新しい言葉で表現し、新しい文学を造り出したのである。詩人キーツの言葉「美は真なり 真は美なり」。一九四六. 九. 二三.

日本の世相

海員ストライキは十日間で解決を見たとの事である。鉄道のストライキはどうなるか見物である。然しストライキを争議の手段とし認めて始めてのストライキが非常に鮮かに解決した事は、恐らく日本に於いては案外の事であつたであらうと思ふ。

更らに住友吉左衛門氏の十二才の娘さんが何者にか拉致されたとか、妙齡の女子を三人迄も暴行の上殺したと云ふ犯人が捕縛されたとの事であるが、タゞに此れ丈けでなく日々の新聞紙上に此等の事件は相当多く出るとの事である。戦後の人心が殺伐になることは当然の事であるから今更ら騒ぐにも及ばない事であるが、兎に角世相は甚だ不安な模様である。而も農作予想が非常にあいまいなもので云はれる様に豊作でもなく平年作以下にあるとは、イヤハヤ何処迄も革命を要するものがあると思ふ。吉田首相の談話とかでは日本の天皇は英国の皇帝と同じ様な事になられるであらうとの事である。始めから極つてる事だ、それ以外に道はないのだ。以上

◎国共の妥協が遂に纏らないで、中共は自由行動を採ると発表したとの事であると云ふた処で、未だ未だ和平解決に相方が努力するのは当然の事だ。

ワーレスの進退

美〔米〕国の商務長官ワーレスは遂に辞職したとの事である。而も彼れは第三党を組織するであらふとの噂もあると云ふが、其等の事はどうなるとも、已にワーレスが一度親蘇的な意見を発表した以上、仮へ美国政府の外交国策に変化なしと云ふても内閣に二つの意見のあつた事は事実である。

イヤ内閣丈けではなく美国内に必ず二つの意見のある証拠である。然れば国策が如何に変更なしと云ふても、已に従来の通りの方針で行つても実は其の通りに押し切ることは出来なくなったのである。未だ発表されない間は何んでもないが、一度発表された以上どんなに取消しても又どんなに圧へても、それはモウ取消しにもならぬのである。一度発表された以上は従来の対蘇危険に対して水を指した事になったのである。八百長か實際が知らんが、これは一応危機を救ふたことになったのである。一九四六. 九. 二三.

「二元を一元へ」

コリント前書十三章の八節には、「愛はいつまでもたゆることなし」とある。親子の愛、夫婦の愛の強いことは誰れでも知って居ることである。其愛は実にいつまでもたへることはない。凡そ人間が此世に生存する以上、それは断じて絶へるものではあり得ないのである。然し私は近頃妙なことを考へる様になった。

凡べての現象は必ず二元的に発生するものであると云ふことである。戦争はそれが発生すると共に平和が時を同じふして発生して居るものである。人間がホギアと生れたらその時にもう死が発生して居るのである。其のホギアからウンまでの間の時間的長短があるだけである。そしてそれが生であるのだ。それと同じ様に戦争の発生も、同時に発生した平和までの時間が則ち戦争であるのだ。其時間は私等には明白ではないが矢張り長短がある。(明白、不明白は光線で考へた言葉だ。解るとか、分るとかは人為的分析からの言葉である)

吾等は気がつかないで居るが、愛が発生したら同時に憎しみと云ふことが発生して居るのである。あるからやゝもすると其憎しみが反面に出て来るものである。然し今考へられることはそれでよいのだ。愛と共に憎しみが発生して居ってもよいのだ。憎くむ迄は愛はつゞけられるのだ。其処だ、吾々人間は其愛と共に憎しみが発生して居ることを認めて、其憎しみのあらはれん様にすることだ。二元に間違ひはないのだ。愛と共に憎しみが生れて居ってもよいのだ。吾等は愛と憎しみを同時に現象することは殆どないのだ。愛が生れたなら其通りに愛することだ。子供が生れた親は子供に対して無条件で愛する。其子供は親の無条件の愛を絶対的に受けて大きくなるのだ。其子供が大きくなると共に男は女を、女は男を愛する心が生れる。そして与へられた女を、与へられた男を、絶対的に愛すればよいのだ。そしてやがて此男女が子供を与へられて、其子供に対して絶対的愛を与へるであらう。人生は愛の三段の循環である。其三段の愛を実行する間に憎しみを圧迫することだ。それが克己だ、それが努力か、イヤそれが道徳とか倫理とかの第一歩であるのだ。

戦争が終りを告げると、大体に於いて勝った方と負けた方とが出来る。勝った方は万歳を唱へる、然し其の万歳を唱へた時に恐怖が発生して居るのである。それを意識して而も其恐怖の発生が現実にならん様に相〔双〕方が努力するのだ。それが永遠の平和への道であるのだ。此の努力なしに平和〔は〕来ないのである。此れ迄平和への努力は払はれた。然し其努力の目標が私には明白ではなかった。然し今は明白になった。今次の戦争が発生した時に同時に平和も発生して居ったのである。其平和までの間九年に渡つての戦争であつたのだ。そして平和が現はれたのであるが、此平和と共に同時に又戦争が発生して居るのである。其戦争が現はれる迄が平和の時間であるのだ。吾等は次ぎの戦争の子供が已に生れて居ることを意識して、其子供の發育を転換させなければならん、其為メの努力である。万歳の歓呼と共に已に恐怖が生れて居るのだ。其恐怖を意識して断然転換させるのである。

恐怖をして押込めて終ふべく努力するのだ。それさへ押し込んで終へば、或はそれは絶対ではないかも知らんが、仮へ時間的にやゝ長くだけでもよい、吾等は全力を挙げて其恐怖の顕現をしない様に変形させることだ、イヤ転換させることだ。方向を転換させさへすればよいのだ。それが吾等が愛の持続である、万歳の持続である、平和の持続であるのだ。吾等は此事を十分に意識して努力をせねばならん。其努力がホントの努力である。愛すると共に生れて居る憎しみを意識して、其憎しみの顕現することのない様に努力する、それが愛の持続である。愛を持続せしめさへすれば、憎しみは断じて顕現するものではないのだ。然し此憎しみが愛と同時に発生して居ることを十分意識して、其憎しみの顕現することのない様に愛を持続することを努力する。吾等の一生として憎しみの顕現する時間を与へないならば、吾等の一生は愛の一生を生きることが可能であるのだ。

吾等は其子に此秘伝を教へて、又其為メに努力させるのである。此くて、今から永遠に愛の持続を伝へるべきである。それは同時に憎しみの顕現を防ぐ唯一の方法であるのだ。私が戦争□を否定するなら

ば、私は飽く迄も今日の平和が同時に戦争を已に発生して居ることを十分意識して此戦争の顕現せない様にせなければならん。それには吾人共に和平の持続、即ちお互ひが愛の実行のみに努力する事だ。万人が愛の実行に努力する事によって、憎しみは自然に消へるのである。

アー、愛なるかな、愛なるかな。愛を持続すること、これこそ唯一の天国への路である。努めよ、励めよ、愛のみの実行を。 一九四六、九、二五。

「十四個条」

- 一 講和談判の公開
- 二 海洋の自由
- 三 経済的障壁の撤廃
- 四 軍備の制限
- 五 植民地問題の公平なる解決
- 六 ロシヤに対する利己的ならぬ援助
- 七 ベルギーの恢復及保証
- 八 アルサスローレン二州の復旧
- 九 伊太利領土の民族的解決
- 十 オーストリ〔ア〕、ハンガリーの諸民族の自由なる発展
- 十一 セルビヤに海港を与ふるごときバルカン問題の解決
- 十二 トルコ領土の民族自決及びダーダネルス海峡の解決
- 十三 ポーランドの独立
- 十四 大小諸国家の独立を保障すべき列国間の特殊条約の制定

以上 一九一八、一月、一、

アメリカ大統領ウキルソンの発表せし欧州大戦平和会議への根柢となるべき条件の声明

「出でよ ウキルソン」

前きの欧州大戦に際して米国大統領ウキルソンは一大声明を発表した。それは一九一八年一月一日であった。それは有名なる十四個条であったのだ。而も此十四個条は世界に戦争がある様になって以来、又戦争の平和が出来る様になって以来の爆弾の声明であったのである。其中、講和談判の公開、海洋の自由、関税障壁の撤廃、軍備の制限、民族の自決のタゞ五つを見た丈けでも明白である。実にそれは破天荒の声明であったのである。然ればこそウキルソン大統領の巴里入りは、恰も救世主の来巴の如き歓迎であったのである。而も其ウキルソンが中心となって作り出された国際聯盟の規約なるものが其本国に於いて遂に上院の反対によって批准を否決されるの運命を見たのであるが、而も仮へ曲りなりにも国際聯盟は今日も尚ほ存在して居るのであり、民族自決の一項には確かに国家再建運動は猛然として起ったのである。遂に無効には帰したが軍縮会議も開会されたのである。又、講和談判も大体に於いて公開されて討議されたのである。そして今回の大戦の後始末を考へる時に、未だ世界平和について一人の声明を発する人がない。已に停戦後一ヶ年を経過して居るのであるが、イヤ已に独伊に対する外交会議は開会されて居るのであるが、平和への一歩処か或は遂に第三次大戦への路を歩みつゝある様にさへ新聞は報じて居るのである。今日各国の憂ひは悉く此点にあるのである。

満洲事変から十五年、中日事変から八年、太平洋戦争から四年、英独戦争から六年のちになって、遂に前きの欧州大戦と同様に独乙が敗れ、新加入の日本、伊太利が敗れて無条件降伏をした今次の戦争終結が、一ヶ年を已に経過して居るのに未だ平和建設への大方針となるべき根幹の大道さへも発表されて居らんと云ふことは、返へす返へすも遺憾に思ふ点である。

世は進歩するものであるならば前きの大戦よりも今次の戦争はより進歩した戦争であつたであらう。其通りである。戦争が原子弾を使った丈けでも其進歩は非常なものであつた。其進歩した戦争の終結なら、又其の通りに進歩した終結が見られる筈であると思ふ。実際にドンナ完結が出来るか知らんが、私は何んとなく心細さを感じて居るものである。前きの大戦にウエルソンが軍備制限、戦争の国際聯盟會議に拠る回避等が提案されたのであるから、今次の平和會議にはより一步を進めた提案があるであらうと私は今でも尚ほ期待して居るのであるが、未だ聞く事が出来ない。此点は実に淋しく思ふて居る。神よ願くば再びウエルソンの如き高潔の人を出し給へ。祈り奉る。一九四六．九．二五。

「堪へる負担」

前きの大戦終結では一時無併合無賠償と云ふことが言はれたことがあつたが、遂に成立せなかつた。そして多額の賠償金を独乙は負担した。其負担は遂に独乙では負ひ切れないで抛げ出したのだ。而も恐らくは其賠償金の負担が第二次大戦への誘発であつたのではないかと私は思ふ。日本がどんな条件を受諾せなければならんかそれは未定であるが、而も又しても其負担が余りにも過ぎてか、又しても到底負担し切れないことになってはつまらん事である。一九四六．九．二五。

「公民の話から」

今度の戦争を起こしたのも個人主義であり利己主義であつた。敗戦の原因も亦た個人主義であり利己主義であつた（堀内氏の言葉）。此の所謂個人主義とはどんなことであるか？である。

個人主義、他を以て代置し得ない個性の価値を自覚尊重し、之れに基いて一切の道徳的行動を規定しようとする立場。政治的には国家権力に対して個人、人格の尊厳、自由を主張するもので、此意義に於ける個人主義はフランスの大革命によって近世史上に確立されたものである。

個人主義、個人の独立自由を重んじ、自己を基礎としての一切の行動を規定せんとする主義。

（教）国家又は社会に関係なく、たゞ個性を発達せしむることを以て教育の目的となす主義。

（経）経済上、個人随意的行動は最も有効なるが故に、国家はなるべく其自由に放任して、其行動を容易ならしむべしと云ふ主義。

そして此等の説明によれば、個人主義なる主義は実に個人の自由と云ふ上に立って居るものであり、個人の自由は個人の自主自治なる人々の持つべきものである。個人の自主自治は個人個人の個性なるものを認める処に立脚するものである。個性を認める処に個々人の自主自治が許され、其自主自治の人にして初めて自由人たることが認められるのである。自由人にして初めて個人主義の人たることが認められるのである。自由のない処には個人主義はあり得ないのである。

それ故に此個人主義は自由主義の国でなければ、自由主義の社会でなければあり得ないのである。故に個人主義はフランス、英国、米国あたりに最も行はれて居るものであつて、日本の様に信仰の自由も、言論の自由も、集会の自由もない、結社の自由なんて頭から認められない国には毛頭あり得ないのである。私は日本には個人主義は発達しなかつた〔と思ふ〕。刑法は其処罰を個人に限つたのであるが、それにも不拘、子供が社会主義者になったからと云ふて、親は中学校の校長さんを辞職しなければならんと云ふ様なことでは個人は認められては居らないのである。然るに堀内氏は何をどう考へたのか、日本の今度の戦争は個人主義、利己主義（利己主義の事は別にして）によって起つたとか、敗戦も個人主義の為めであるとか云ふて居つたが、此れは大きな誤謬である。日本には国民主義はあつたが個人主義はなかつたのである。

利己主義と個人主義とは違ふ。個人主義は個人から発展して社会国家にも及ぼすのであるが、利己主義は徹頭徹尾自分の利益のみを考へる主義である。利己主義〔は〕自分の利益、自分の保存のみを目的とする主義。此れが社会、国家と相容れないものであることは云ふ迄もない事である。利己主義は中国

に於いては楊子の説である。

そこで個人主義が日本の戦争を起こした原因であるとか、その敗戦の原因であるとか云ふ事になると、最も個人主義の国である美〔米〕国がドウして勝ったかと云ふ事になる。実際的に見て日本に個人主義と云はれるものが近年あったか考へて見ればスグ解る事である。日本には個人主義も自由主義もありはせなかったのである。あったものは君主主義であり、国民主義であり、軍国主義であり、侵略主義であったのである。其等の主義が戦争を発生せしめたのであり、敗戦したのであると云ふなら明白であるが、個人主義が利己主義かと云はれると、利己主義と個人主義とを混同した解釈の様に私には思はれるのである。

又、王陽明にしても朱子にしても、中国の儒教が個人主義と同じ様な内容であると云はれると、此れも相当の開らきのあるものと混同して居るとしか思はれないのである。修身、齐家、治国、平天下が個人主義の発展と同じであると云ふ考への様に思はれるが、此れは天子が国を治めると云ふ、つまり上からの考へであって、個人主義の様に人民が人民の為めに人民の政治をすると云ふのとは内容が違って居るのである。論より証拠、儒の実践道徳と自由主義、個人主義の実践行為を比較して見ればスグ解ることである。多く云ふ必要はない。「知るは憂ひの初めなり」とある。個人主義に於いては、知らねばならん、人民一人一人に自主、自治、自由を与へなければならぬのであるが、儒教は「知らしむ可らず、抛らしむべし」と云ふのであるから、明らかに此れは相反したもの、様である。

論より証拠、中国には利己主義はハッキリとあるが、自主自治に立脚した自由はない。中国の自由は開けはなしの自由があるのである（実は自由と云ふては語弊がある。此れは寧ろ放縦と云ふた方が適当であると思ふ）。而もそれは、多くの場合儒教からではなくて実際には老莊の思想の流れであると私は思ふのである。

私は平和主義、自由主義も民主主義も個人主義も、此れは何れも同じ流れのものであると考へて居る。それは、人は一人ひとり生も死も他の人に代って貰ふことは出来ないのである。其処に一人ひとりの個性が認められるのである。此一人ひとりの個性は、何人でも自らが主人となり自らが治めるものであって、他人によって他人の命令によって進退するものではない。全く自主自治でなければならん。自主自治の人にして初めて自由人たり得るのである。自由人は他人を束縛しない、他人に自らを強い無い、他人も亦た私に強い無い、私を束縛しない。其処に一人ひとりの民は国の主人であることになる。即ち民主主義が認められるのである。民主主義によって平和に到達すると考へる〔からである〕。之れが平和主義、民主主義の国であるのだ。此くて兎にも角にも英米仏の様な人間が出来るのである、イヤ出来て居るのである。

儒教によって育てられた中国はどうであらうか、実際の生活行為として考へるべきである。私は老莊とか墨子とかの中には非常に濃厚に類似点を見るが、儒教の中にはドウも私には見られないのである。それは儒教の人々の実際生活に於いて其れを見得ないからである。私は、儒教の様に支配者の教へと、キリスト教の様に被支配者の教へとには相当の隔りのあることを考へる者には、今日の話など簡単には受容られないものがある〔と思ふ〕。一九四六、九、二五。

残念ながら

中国人の思想の中には儒教もあるが老莊もある、荀墨もあるが楊子もある、実に色々の思想が押すな押すなであるのだ。其等のものがハッキリと何々何々と本人は意識して居るのかと云ふとそうではない。全くそれは意識して居ない人が大多数であるのだ。今日迄の日本人は、法に触れさへしなければ悪を犯したことにはならん、従って罪人ではないと云ふ考へを持って居る。此れも法律的に考へるなら一応肯定出来ることであるが、然し道徳的に哲学的に宗教的に考へるなら此考へは間違いである。悪とか罪とか云ふものは各々の中に持つ良心に反対した時が悪を犯したのであり、罪を構成したのであ

る。儒教に、「徒らに法令以って民に臨めば民に徳義の心失せて、法に触れざれば即ち可となるに至る」と云ふことがある（論語）。此戒めが其まゝ今日の日本人に当て嵌まることは残念ながら肯定しなければならぬ。一九四六、九、二六。

一九一四年八月二十一日青島を脱出した独乙東洋艦隊の巡洋艦エムデン三六五〇噸、速力二四ノットは、全く単独行動を採って艦長カール・フォン・ミュラー中佐の指揮によって日英仏露の聯合艦隊の目を潜って随処に出没し、聯合國及中立国の船舶を襲ふて略奪撃沈を逞〔し〕ふすること実に五十三度、その噸数十萬噸を超へたのである。又彼南（ペナン）港を急襲して停泊中の露艦ゼムチューク及び仏国駆逐艦を撃沈した。其出没変幻の極まりなき大胆なる行動には世界を挙げて寒心せしめたのであるが、インド洋上の孤島コ・ス島に迫まり（十一月九日）、陸戦隊を上陸せしめて無線電信所を破壊中英国軍艦シドニーに発見され、激戦の後遂に撃破せられて付近の珊瑚礁に乗り上げたも降参せず、全く戦闘力を失ふに至って生残者は英艦に収容せられた。

又、無電破壊に上陸したエムデン副長、ミュッケ大尉以下四十四名は、本艦の撃破を見るや港内停泊中の老朽帆船アエーシャ（一二三噸）を捕獲してココス島を脱出シスマトラ島に泊り、更らに小蒸気船を捕って移乗し、印度洋を横断してアラビヤよりトルコを経て見事独乙に帰還したとの事である。三十余年を距てて今日此記事を読んで、私は今次太平洋戦争中日本艦船中に一つのエムデン号のなかった事を悲しむものである。時が違ふて居る、戦争の様式が全く違ふて居ると云ふ様なこともある。又、エムデンはなかったが神風特攻隊があったと云ふことも云ふであらうが、然し私はあらゆる条件とあらゆる理由とを織り込んで考へても、尚ほ一エムデンが出なかったことは何んとしても残念に思ふものである。

尚ほ独乙は、あの時九〇〇噸の潜水艦を以て大西洋を横断してアメリカに貿易商品を運んだことがあった。今次の太平洋戦争の最中、独乙駆逐艦が横浜港で停泊中に原因不明によって三隻又は四隻が爆破沈没したことがあった。此事實は独乙から水電艇が駆逐艦か知らんが遥々と日本迄やって来たに違ひないのである。日本からも一隻が独乙を訪問したことはあったが、其の腕を持ちながらエムデン的行動を取ることを成し得なくて如〔徐〕々に追ひ詰められて海底の藻屑となったことを思ふ時に、日本海軍にケチをつけるのではないが一籌をゆ〔輪〕するものがある様に思ふのである。一九四六、九、二六。

「トルーマン外交」

ワース商務長官の辞職について、后任としてハリマン氏が任命された。ハリマン氏は前蘇聯駐在米国大使であった。ハリマン氏は曰く、自分はトルーマン大統領及びバーンズ國務長官が米国民大多數の意見を代表するものと信ずる其外交政策に賛成する云々と語ったとの事である。そして廿四、五日頃巴里へ赴くとの事が報じられて居る。此任命を表から見るとワースの失敗と云ふことより見へないが、若しも米国がホントに外交をやっているのであれば、ワースの親蘇演説で美〔米〕ソの危機を一寸水を入れて、而もそれではバーンズの立場が困る、又トルーマンも立場に困るので、商務長官ワースを辞職させて其後任に蘇聯大使を任命して巴里に赴かせるとは実に凝ったやり方であると思ふ。モウ美蘇の衝突は当分無いと私は思ふ。此の凝った入れ替へと対照するものはソ聯のモロトフ召還であった。再び巴里に現はれたモロトフは先づ第一に独乙の独立政府樹立に賛成をした。此れは美国提出の案であったのだ。此モロトフの行動とワースの親蘇演説とは必ず偶然の一致があったのだ。相〔双〕方戦争を避けるべく努力して居ることが見へる。外交はナカナカー本調子のもではない。裏もあれば表もあるものである。バーンズがあれだけ強腰でやって居る鼻をトルーマンがくぐくことは断じて出来ない事である。そこでワースに水を入れさせたのである。処がバーンズがそれでは承知が出来ない。又トルーマンも承認をワースに与へたとは言へない。そこでワースを止めて貰ふて前蘇聯大使を後任にすることによって、ソ聯は以心伝心である。英国も飲んで居るとの事である。此れで八方好々である。ト

ルーマン大統領もナカナカ外交手腕は凡でないと思はれる。記して後日に照らす。一九四六．九．二六．

「失敗」

ロバートオーエンは其ユートピアを描いて自ら実際に経営して而も悉く失敗したと云ふことである。これは計画は間違ひないのだが、計画者と同じ考への人が揃はないからである。又初めは同じ考へでやりかけても飽きが来て続かないのである。又已に今日迄の世の中で成人して居る人間を急に集めて理想的な生活をせよと云ふても都合のよい愉快なことにはやるが、少し都合の悪いことや骨の折れる事になるとやらなくなるのである。要するに理想の計画は出来るが理想的な人がないので実行は失敗するのである。一九四六．九．二六．

綁票

トウトウ日本でも綁票が出て来た。住友邦子さん（十二才）が学校からの帰りに綁票された。然し幸ひにも早く犯人も捕縛され、邦子さんも無事に帰って来たとの事であるが、此犯人は何んの目的で綁票したのであろうか。金をとる考へであつたらうと云ふことが第一に考へられる。それは相手が住友と云ふ大富豪であることからである。何故に男装させてつれ歩るいたか。それが一つの疑問である。或は当分匿れるべく転々として居つたのであつたとも考へられるが、兎に角日本でもこんな事が出来る様になった。時世時節だ。一九四六．九．二六．

「新四種の法令」

県知事や市長、町村長迄が人民投票によって選挙せられることになつたらしい。マックアーサー司令官は非常に賞めて居る。此後は県会、市会、町村会等の会議が大きな責任を負はねばならん事になる。同時に権限も大きくなるが、果して予期する様な自由意志の発表とか自由行動の表現なんてことが出来るかどうか。信仰の自由、言論の自由、集会の自由、結社の自由が認められても頭から上からの命令でなければ動くことを知らん、自主もなければ自治もない人々に当分は自由の扱ひ方は一寸無理であり、又實際扱へないであらうと思ふ。タゞ出版の自由だけは或る程度迄活用されるであらうと思ふ。兎に角此れからは一つあらゆる期〔機〕会に於いて自由の言論を聞かせること、又色々の出版物によって自由の意思や考へを発表して、それを読ませること、それから漸を追ふて自らに自由に語らせ、自ら自由に意思を発表させることにせにやならんと思ふ。

然しそれ等のことは今日最早大人には多くを期待することは不可能である。イヤそれ処かヤ、もすれば後退する怖れが甚だ多いのである。吾等が期待出来るのはタゞ次ぎの時代の子供である。ドウカ子供の将来を立派な自由の人間にしたいものである。自主自治の人間に日本人を造り上げる事が今後の最も大切な事である。何処迄も個人の尊厳を個々の良心に認めて其人々の自由を尊重し、其人々の自由なる行動によって日本を真の民主国家にすると共に、民主の真理に徹底して断然平和な日本を建設しなければならんと思ふ。吾等の希ふ処はタゞ自由にして平和なる日本を造り上げる事である。一九四六．九．二六．

欧州大戦が生んだ詩人にオーエンと云ふ人がある。此詩人は其詩に於いて戦争の悲惨さを痛烈に指摘して居ると云ふことである。満洲事変から今次中日事変へ、更らに太平洋戦争へと戦争がダンダンと峻烈さを増して行くと共に日本軍の方ではそれと比例してダンダンと悲惨を加へて行つたのである。神風特攻隊と云ふが如き青年空軍が爆弾を抱いたまゝ、敵艦船をめがけて飛行機を抛げつけると云ふ世にも惨虐たる戦争が闘はれたのである。而も日本の詩人に文学人に誰れが此の悲痛惨虐を文に綴り、詩に唱

ったであらうか。日本には一人の真の詩人は居らなかったのであらうか。一人の真の文学者は居なかったのであらうか。ある限りの文学人も詩人も皆な其勇壯を賞めた、へたのであらうか。忠義として忠臣として讃辭を呈した様である。イヤ彼等は悉く戦争を聖戦と云ひ、敗戦を玉砕と云ひて、忠臣として神に祭られると云ふ様な文章を綴り、詩を歌ふた人はあったが、一人の人間も居らなんだのである。此点、私は今オーエンなる一人の人間が英国に詩人として存在して居たことを知って日本の為めに涙するものである。一九四六、九、二六。

「人間の顔色の黄化」

光線が欠乏すると植物は黄化する。それは中国人が好んで食する黄芽菜（ニラを塵芥の中に埋めて発芽させる）を見ればよく明白。青島葱でも塵芥や土を深くして造ると白根が長くなって菜先きは黄化する。あらゆる菜の菜心は日光を受けないから悉く黄化する。キャベツも白菜も三河島菜も同じである。此植物の黄化現象が太陽光線の欠乏に基くとすると、中国に渡来する日本人が大体に於いて俗に中国色と云はれる様に其顔色がヤ、黄味を帯びて来るのである。此人間の顔色の黄化も、或は光線の欠乏に原因するのではないかとも思はれる。大体中国人の顔色が日本の日本人の顔色に比べると赤味がなくて黄味が勝って居る。それ故に黄色人種とも云はれて居るのであるが、如何なる原因によって中国人は黄化するのであらうか。顔色の黄化の原因が知り度い。従って日本人の顔色の黄化も其原因を知り度く思ふのである。調らべること。一九四六、九、二六。

人為か自然か

吾れ心には善を為さんことを願ひつゝ、吾が肉は反って惡を為す、とパウロは嘆声を發した。私もその嘆きに陥って居るものである。然しながら考へなければならんことは、心に願ふところが善で肉の行ふ處が惡であるとはどうして考へられるのであらうか。其尺度は何か。心の願ふ^{もの}善を善とはどんな尺によって量ったのか。肉の行ふ處を惡とは如何なる尺によって量ったのであるか。其尺はキリスト教の倫理道德と云ふ尺によって量って云ふて居るのである。キリスト教の倫理道德は一体自然のものか人為的のものかと云ふことが考へさせられるのである。キリスト教の倫理道德は神からモーゼが承けたものである彼の十戒が其根本であると云ふのである。然しながらそれは今日の人々には一寸信じられない事柄である。釈迦は五戒を人倫の道として造られたと同時に、モーゼは十戒を案出して人間の倫理道德の根底としたものであると思ふ。五戒にしても十戒にしても実に少しの間違ひの無い立派な人為の法則である。人間界に法則と云はれるものが人間によって考へられた。少しの間違ひのない法則は恐らくは此十戒であらうと思ふ。此くも立派な法則が人間によって案出せられたと云ふことは実に驚くべきことである。

人間は自然の子であると云ふが、其自然は神によって造られたものである。人間も従って神によって造られたものである。神は十全である、神は全能である、神は善そのものであると云ふことに間違ひがあるとは思はない。此考へに間違ひがないならば、其宇宙の根源である主宰者である神によって造られた人間には惡と云ふものはみじんもある筈はないのである。少しも生れたばかりの人間に惡があるはずがない。而も宇宙の万物悉くが神によって造られたものである以上、宇宙の間に惡なるものが存在するワケはないのである。宇宙に惡なく人間にもあることのない惡なるものがどうして此世に存在するのであらうか。其處で考へられることは、吾々人間が惡と考へるものは一体何んだ、惡と云ふ名をつけるもの〔の〕事柄はホントに具体的にはどんなことを指して云ふて居るかと考へて見ると、字引に書いてある。惡の字を被せられた熟字を見ると、先づ「惡、善の反対」となっている。此れはよく解る。處が此善とは何かと云ふことを決めなければ惡が出て来ないのである。先づ善を見る必要がある。「善、仁人君子の美しき言にて正理に適ひ、法則に戻らざる完全なるもの。そして惡の反対」となっている。然れ

ば正理とは何か、法則とは何かと云ふことが問題である。正理とは正しい理（ことわり）と云ふことであらうと思ふ。法則とは自然の法則を云ふのであらうと思ふが、尚ほ念の為めに調らべると、「正理、たゞしき道理」とある。道理とは何か。「道理、ものごとのことわり。みちすじ」とある。道理の道とはみちのことである。而も此みちは衢にあらず、達にあらず（四通八達）と云ふ。故に道は、一方へのみのみちである。二方にはないのである。「法則、原因結果の規定、又行為、動作の準則となるもの。のり、おきて」。法則には自然法則と人為法則とがあつて、〔前者は〕人間の考へや力ですることとなく自然に出来るきまつた方法である。仮へば植物の花が開らき実になる。春と夏と秋と冬とが出来る。こうした事は自然の法則によって出来ることである。人を打つことはしてはならん。樹木の枝を折てはいけない。こんなことは人為法則である。こうした法則をダンダンと煎じつめると、それは矢張り自然法則からの分家であることが解る。道理とか正理とか云ふことも煎じつめると、此自然の法則からの分家である。此くてモーゼの十戒も釈迦の五戒も悉く基くところは自然界の法則であるのだ。然れば自然界の法則のどんな事が善であつてどんなことが悪であらうか。

凡そ人間が善と云ふて居る処のものは、其何んであるを問はず一人以上の人間の生活に於いて都合のよいことを指して云ふて居ると私は思ふ。而もそれは善の外に真と美とを加へて真、善、美と云ふて居るが、此三つは何れでもそれは必ず人間の生活上に於いて甚だ都合のよいことであるのだ。若しも都合の悪いことであるなら、それは即ち悪であると云はれるものである。どんなに高尚に説明しても、どんなに上品に解釈してみても、どんなに公平に考へて見ても、吾等が善であると云ふ事柄又は物は必ず其人の為めに、其人以外の人々の為めに絶対的に都合のよい事が善と云はれ、都合の悪いことが悪と云はれて居ると思ふのである。一人の人の都合によいばかりでなく万人にあてはめて万人悉くが之れは甚だ都合がよいと云ふ事は善であるから、其反対である悪は悉く都合の悪い事に限つて云はれる名であると云ふと反対の意見も出るであらうと思ふ。仮へば人間は苦しんで働らくなつて事は甚だ個人としては都合のよい事では無いと云へる。

然し仮へ一人の人にだけは都合が悪くても、全体の人間として都合がよい事であるなら黙つてそれは善であると云ふて差支へないと、反対に一人の人にはどんなに都合が好くても全体の人間に甚だ都合が悪いことであるならそれは悪であると、此く考へて来ると、善と云ひ悪と云ふことも根本的には量の問題の様にも思はれるのである。少くても善いことでも多くなると悪くなる。一人には悪いことであっても多くなればそれが善になると云ふ様な点もあるらしい。すると絶対の善もなければ絶対の悪も無いことになる。一人の人に善いと云ふことを全体に拡大して矢張り善であるなら、それは先づ善として間違ひのないもの、様である。一人の人が悪と思ふことを全体に拡大して見て矢張り悪いなら、それはホントの悪であると云ふことが出来る。全体的に

都合がよい。〔=〕善

都合が悪い。〔=〕悪

と云ふことが言ひ得られるとすると、善悪は量の問題であるとなる。あらゆることは自然のまゝでは善でもなく悪でもないのだが、一度人間の生活にはいつて来て、それが其人間生活の全体として都合がよい事であるなら、それは善と云はれる。若しも全体的に都合の悪い事であるなら、それは悪となるのである。従つて一人一人としては必ずしも全体の都合のよい事が一人の場合にも都合がよいに決つては居ない。又都合が悪い事でも一人としてはそれが反つて都合の好い事もある。此に善悪も一人一人の人間の善悪と全体の人間としての善悪とは違ひがあると云ふことを認めなければならんと思ふ。又一人の人間としても心に思ふことが必ず善で肉の行ふことが必ず悪であると云ふことは云へないのである。又今日では善であることが将来悪と云ふことになることもあると思ふ。善悪には故に空間的に時間的に制約されるものがある様だ。現に昨年八月迄の日本的な善悪観は今日の善悪観とは違ったものがあると思はれる。

時間的に善も悪となり悪も善となると云ふことがある。然しそれは客観的に云はれることであって主観的には必ずしもそうであるとは云はれないと思ふこともある。此客観主観は日本人の考へと外国人の考へとを指すものである。此ふして考へて来ると一体善とは何か悪とは何かと云ふ事が甚だ判明しなくなつて来た。ポウロの云ふた「心には善を願ひつゝ、肉は反つて悪を行ふ」と云ふ意味がはっきりしなくなった。而も心も自然法則によって生じたものであり、肉も亦た自然の法則によって生じたものである。而も其自然は神と云ふ善によって生じたものとすれば、悪のあるべき筈はないとなる。然し自然が人間を生んだ時には善でもなく悪でもないものであらふが、人間がダンドン成長して色々の事を覚へる様になると善だ悪だと云ふ様になる。そこで人間が善と名づけ悪と名づける事は自然の名ではないこと丈けははっきりと明白。然れば善と云ひ悪と云ふも実は神の命名ではなくて人間がつける名であるのだ。

人間の命名つまり人為的のことである故に善悪に絶対はないのである。善悪に心と肉との区別はない。タゞ自然が与へた一つのものに人為的に善だ悪だと別々の名をつけたまでである。仮へ悪と名のつく事を肉がしたとしてもそれは肉の本能であるならば、それは必ずしも悪と云ふことは出来ないのである。ナゼなら本能は人為ではないのだ。本能こそそれが心の考へであつても肉の行為であつてもそれは全く神からの賜物である、自然其まゝのものであるのだ。然れば善でも悪でもない。神と自然の賜物であるばかりだ。であるのに之れは善だ、之れは悪だと人間が勝手に区別すると云ふ事は其事自体が神を汚し自然への冒瀆であると思はれるが、どうか。今日は先づ此れで擱筆する。又続けて考へる事にする。一九四六、九、二六。

上海の進出口 八月分

進口 一千百七十九億五千四百八十一万七千元

出口 四百九十七億〇九百万〇四千元

入超 六百八十二億四千五百八十一万三千元

八日迄の総入超は四千五百十億元となった。そして今日の新聞によると、対美〔米〕為替は三、九三〇元から四、〇〇〇元となつて居る。一兩日来に比べて少しばかり下つた。最高は四、三〇〇元迄あつた。金条は二、一四五、〇〇〇元から二、一七〇、〇〇〇元と云ふ処である。此れでは美匯も金条もまだまだ上る可能性がある様だ。銀貨は一、五七〇元から一、六一〇元見当である。日本からの貿易を許可すると云ふことが先日新聞に出たが、今日の新聞によると、貿易は一切米国側の貿易庁の手を経てゐないと取引はさせないとの事である。私の予見の通りである。一番儲〔かる〕から貿易の面はチャンと美国でおさへるのである。日本人は工賃で働らかして貰ふ丈けである。一九四六、九、二六。

義理之法則

人生に於ける倫理道德や正邪曲正と云ふことは誰れが造つたのであらうか。自然界の法則として正邪があるか、曲正が叫ばれるか、倫理とか道德とか云ふものがあるであらうか。此れは自然の法則にはないものである。そうすると自然界の法則でない以上、此れは人為法則である。則ち此等のものは自然法則でないのだから、此れが義法であるのだ。此等の法則こそが義理と云はれるものであるのだ。自然法則を真なりとする時に人為法則は真ならざる義法則であるのだ。義理の法則であるのだ。憲法も民法も商法も刑法も軍法も此等あらゆる法は悉く之れ人為法であつて、自然法ではないのである。然れば此等の法も亦た義法である。真の法ではないのだ。義理の法律であるのだ。人為法則、人為法律、此等は皆な義理の法である。人定法、不□法だ。世界がタゞ自然のまゝの世界であるなら自然法丈けでよいのだが、自然人ではあるが、然し兎に角人間と云ふものが存在して人間が色々の事をする以上どうしても人為的な色々の事が発生する。其中に人為法が発生するのだ。之れは一寸防ぐ手がない。人為法がどうしても出来る以上、知らぬ顔では過ごされない。此れを如何に扱ふかゞ問題である。ルッソーは自然に還

れと云ふ。実際人間は今一度自然に還って見る事が必要である。自然法はどんなものか、自然法による人間の生活は如何にすればよいのか。其処から出発する必要がある。それが出来て、其上に色々と人為法も考へるべきである。人間生活の根本である自然法則さへも知らないで次ぎから次ぎと造り出される人為法で生活を規定して行うとすることは無暴である。どうしても一度自然法に迄還って考へなければならん。一九四六. 九. 二六.

「色分けはなぜ出来たか」

なぜ白い皮膚の人間と黄色い皮膚の人間と小黒い皮膚と真黒の皮膚の人間とが出来て居るのか。此れは生物にはなぜ馬が出来、牛が出来、狐狸が出来、羊や兎や□が出来て居るのか、鳥や鳶や雀が出来て居るのか、植物には何故に色々様々の草木が出来て居るのかと云ふこと、同じ様な質問、イヤ愚問かも知らんが、然し私には一寸こうした疑問が出たので書いて見る気になった（今は丁度午前の二時半である）。辞苑の人種と云ふ処を見たら、人種には黄色、白色、銅色、黒色、褐色人種とがある。そして又ヨーロッパ人種、アジア人種、アフリカ人種、アメリカ人種、マライ人種とにも此れを分けると書いてある。然しそんなことは私にはどうでもよいのだ。なぜ白人、黄人、黒人、褐色人、銅色人が出来たかと云ふことが知り度いのだ。創世紀には人間は神様が神様自分の像に似せて人間をお造りになったと書いてある。然し白色や黄色等については何にも言ふて居られない丈けでなく、ヨーロッパ人は白色だ、アジア人は黄色だ、アフリカ人は黒色だと云ふ様な色分けと云ふことは書いてない。又其色分〔け〕が土地分けになってるとも書いてないのである。何処かに其人間の色分けを書いた本はないかと思ふのである。それはドウヤラ人種学の取り扱ふて居るものらしいが、人類学、人種学の筋を見ると其祖先が類人猿の中のチンパンジーが最も人間に近かいと云ふこと迄は詳細に書いてある。而も其れは骨格が主になっての研究である。

又皮膚に有毛の多少と云ふ様なことは書いてあるが、皮膚の色分けについては一向書いてない。タツタ一つ皮膚の色分けによって人類の異源説もあるが、其所論には無理があると云ふて居る。然し白色人種はヨーロッパに、黄色人種はアジアに、銅色人種は印度？、黒色人種はアフリカに、褐色人種〔は〕アメリカ（？）に現在集団して居る点から考へて見ても、少くも生活が各々集団して居る以上、同類集団は認められる。同類集団が認められるなら、其祖先がソレゾレ類別の祖先を持つと云ふことも一応考へられないことではないと思ふ。人類の発現が地球上にタゞ一個処であつたと云ふ考へには古代の距離と云ふことに疑問がある。現在吾々の生活に於いて其進歩の面に於いてのみ地球上の距離が緊縮されつゝあるのであつて、昔程距離は遠く世界が各地に同類集団毎に此れを世界と考へたであらうことが私には考へられるのである。兎に角、人間の皮膚の色はなぜ白かったり黄であつたり、銅色であつたり褐色であつたり、黒色であつたりするのか。其事については一向書いてないらしい。余りにも簡単なので書かないのかも知れない。熱帯地域、即ち太陽光線の強い地域の間人種が黒い皮膚をして居ると云ふことは大体に於いて承知出来るが、経緯度を同ふする地域の間人で白いのや黄色が出来て居るのはなぜかと云ふのを他日にゆづつて調べたい。一九四六. 九. 二八.

「肉食はせんがよい」

二羽一錢で売られる雀の一羽も神様の許しなくては地には落ちないとの事だ。況して人間に於いておやである。此言葉を読んで私は誠にありがたいことに思ふて居ったものである。実は神は吾等人間に万物を与へて下さったことが已に大きな感激である。此のことが実は私には最近まではっきりして居なかつたのである。私は動物はもとより植物に至るまで悉く神様は同じ位置において下さったものとばかり思ふて居った処が、『創世紀』一章にははっきりと「神は万物を人間に与へ給ふた」ことが書いてある。そして其信仰に立つて居る外国人キリスト教徒が非常に勇敢に人類の幸福を目ざして活動すること

がはっきりと明白って来たのである。そして私にも神様は人間以外の万物を与へて下さったのだと考へる時に嬉しくもなるが、然し実は此考へは余りにも人間の得手勝手の様に考へられるのである。

あらゆる生命のある者が自然の寿命を終るにあらずして生命を不慮に失ふ時のあの苦痛の姿を見る時に、人間が殺される時のあの苦痛と全く同じである。見てある私には可哀相だナァーと云ふ情が自然に湧いて出るのである。それは圧へようとしても圧へられないのである。汎神論的な考へであると云はれても何んと云はれてもよい。私はあらゆる生物が不自然に生命を墜とす時の姿を思ひ浮べた丈けでも可哀相に思へて、時に涙さへすることがあるのである。神様は人間に対してゞはあるが、あの哀れな雀を殺ろして食ふことを許しなさるとはどうしても考へられない。若しも人間が生物を殺ろして食べる事が神様の許されたことであるなら、猛獣が人間を捕って食ふことも亦た神様がお許しになったことになる。野蛮人が人間を殺すことも神様がお許しになったことになる。其処には大きな矛盾がある。生命の本源は神様である。神様が生命の本源であるならば、神様は人間の生命、鳥の生命、獣の生命、魚の生命、虫の生命と云ふ様に別々の生命をお持ちになって居るのであらうか。私にはそれは考へられないのである。生命はアメーバーからあるゆる動植物を通じて人間に至るまでタゞ一つの本源から流れ出て居るものであると思ふものである。万物を人間にお与へ下さったかも知らんが、植物だけは別として凡そ生ける鳥獣虫魚を殺ろして食べよとは言ふて居られない。之れを殺ろして食べると云ふ事には何んとしても疑義がある。神様が二羽一銭の雀もお許しがなければ地には落ちないそうだ。然しそれはタゞ地に落ちる、即ち自然に与へられた生命の終ることで無ければならん。

人間が打ち殺ろして食ふと云ふ意味ではないと思ふが、一つ気になる言葉は二羽一銭で売ってる雀と云ふことである。生捕って又は打ち殺ろして人間が食ふ為メの雀と云ふことを此れで言はれて居るのかどうかである。二羽一銭で売ると云ふことは買ふ人があると云ふことである。買ふた人はどうするか。食ふ為メに買ふのであらう。すれば鳥獣虫魚は食ふてもよいと云ふ事になる。其処に起る問題は死んだ鳥獣の肉を食ふことか、生捕って打殺ろして食ふと云ふことか。此に問題がのこされることになるのであるが、私は人間が肉を食ふと云ふ事が自然に生命を終った鳥獣虫魚の肉なら文句は云はないが、彼等を打ち殺ろして食ふと云ふことは甚だよくないと思ふ。それは多分に私の感情ではあるが、理論的にも人間の肉食は禁じてよいと思ふ。 一九四六、九、二九。

改造日報終刊

昨年九月三十日を以って第一号を発行した改造日報はいよいよ九月三十日である満一ヶ年の今日を終刊として廃刊になった。思へば僅かに一年ではあったが、私も時々書いたが、此新聞は日僑の指導と云ふことを標榜〔榜〕して居った為メに、書く事が従来の大陸新報の軍国一点張りとは丸で天地の差があった。大陸新報の時代は嘘でも誠でも悉くが軍国日本を賞讃する記事ばかりであった。処が終戦と共に其筆鋒は転換せなければならん事になったので大陸新報は苦しい立場に立たされたのである。間もなく改造日報となって発行せられるようになった。第三方面軍発行であるから直ちに日本軍閥の攻撃を書き出した。それ処か日本天皇の問題が取り上げられた。時々共産黨員も書いたが、然し兎に角第三方面軍の新聞であるだけに決して紅い色ではなかったにも不拘、一般日本人の間では改造日報は紅いと云ふ評判であった。

私は度々弁明イヤ釈明してやったが、多くは無知であるので終り迄ダメであったと云ふてよいと思ふ。終りはトウトウ戦判〔犯〕の審判で一パイであった。南京大虐殺の審判記事はナカナカ大きかった。無理はない。アレ丈けの大事件であったのであるから。終刊の冒頭の記事は、「経済再建果して成るか」、「補償打切法案に口政府の意図注目さる」と云ふのであった。対照は合計約一千億円の政府負担の補償の打切りである。此れはナカナカの大問題であるが、兎に角「袋の口を閉め、箱の錠を丈夫なものにかけて置くと、モット大きな泥棒が来て袋のまゝ箱のまゝ持って行つたであらう」と云ふ言葉を其

まゝ歩いて居るのは日本の現状らしい。吉田茂首相は旧い頃の代議士やアク抜けのして居らん官僚共を従へてナカナカ腹芸をやって居るが、恨みは永しとなることを私は心配するものである。一九四六、一〇、一。

「人間が造ったもの」

日本の色々の写真を見て特に目につくことは、日本人は文化と云ふ文字言葉を其まゝに自然を人為に置き替へたと云ふ感じである。其庭園を見ると実に美しく清掃されて居る。それ丈けに日本の庭園なるものに自然観が少しもない。(特に自然林を其まゝに取り入れたのは別として) 全く人間が造りましたと云ふ感じである。邸宅などにしても余りにも清掃されて居る為メに人間と云ふものゝ住ひでなくて、何か天人でも住みそうに見へる。何から考へても人為美、人為真、人為善に自然界迄を改変せんとして居る事がヒシヒシと感じられる。竹細工を見ても陶磁器を見てもドウも人間〔の〕物ではなくて何か天人の用ふるものゝ様な気がする。自然を人為に置き替へて、而も人間から離れて居るらしい。少くも血の脈打って居る温い身体から離れて冷かな人形が天人の世界を見て居る様である。一九四六、十、一。

「多言と雄弁」

釈迦の五戒の一つに一妄語と云ふことがある。キリスト教にも非常に多く言葉の戒がある。箴言の一章にもあるが、詩篇(七十一三)「吾が口は罪を犯かす事勿らん」、箴言(十の十九)にも「言多ければ罪なきこと能はず。その口唇を禁むるものは知恵なり」と云ふのがある。此等の戒を読む吾等はスグに考へることは「もの言へば唇さむし秋の風」、「雉も鳴かずばうたれざらまし」と云ふ様な歌などである。そこで吾等の間には多言の戒めが厳重になるのである。イヤ現に私等は其戒に教へられて来たのである。之れが日本人の長所であり、又欠点である。吾々には物事を一本調子に考へる癖があると私は常に主張して来て居るそれである。この時にもそれが出るのである。多言の戒めは直ちに沈黙を賞めることになるのである。曰く、「沈黙は金なり」と。

私も実は此沈黙を二三年実行したことがあった。然し又さとり処があつて止めた。どんなにさつたか。多言の戒めは妄語妄言と同じである。言多ければと云ふことは不必要なるである。即ち妄言妄語空言空語の戒めであるのだ。決して必要なる雄弁を戒めたものではないことは、詩篇の吾が口は罪を犯すこと勿らんと云ふ言葉の注釈に「多言する勿れ。無用の談話をなす勿れ。若し汝と友人との交際が重^〇おも」に空談雑話より成立せば、汝の交際は有害無益なり」と云ふて居るのである。尚ほ重ねて、「彼の法螺吹きと称せらるゝ空談者は吾人極力之れを排斥し云々」とも云ふて居る。此等の注釈を〔は〕吾等に適切なることを教へて居るのであるが、而も吾等は其の教への中心をつかむことを吾等の簡短癖きの為メにつかみそこなふのである。此ふした戒を見る時に決して一本調子に考へてはならん。それは極めて簡短である。

何事によらず一本調子に考へることは容易である。一二三四五六七八九十と蜜柑でも柿でも数へることは誠にはっきりとした簡短明瞭なことである。世の中の事柄がなんでも此等蜜柑や柿の様に其一つ一つがチャンと切り離なされて独立した一つ一つである様になって居れば申〔し〕分はないのであるが、どうもそうは行かないのが人事百般である。蜜柑や柿は一つ一つ独立した個体であるが、然も其一つ一つには陰が出来るのである。人間でも一人一人ははっきりと独立した存在であるが、此れも亦た一人に一個の陰がついて居るのである。蜜柑、柿、人間、の個々の独立した存在にも必ず一つ一つの陰があると考へて必ず陰も数へなければならんとなると、一つ二つ三つ丈けでは数が違つて来る。実物が十個あると共に陰も亦た十個あると云ふ事がついて居るのである。それ丈け複雑なことになるのである。私は思ふ、多言の戒めはなる程沈黙を賞することにも用ひてよいが、沈黙を奨励すると修道院の中の様になる。人間生活は全く濡ひと云ふものが無くなって温味と云ふものが無くなる。論より証拠、修道院の中

を見ればよく解る。沈黙の尼僧達ちの静かさ。然し濡ひとか温か味とか云ふものは全てない。冷たいと云ふ感じで一パイである。人間はあゝした生活を或る時或る時間の間希望することがある。然しそれは決して永久にではない。大体に於いて或る時間丈けのものである。沈黙は金なりと云ふ□言が生れるのは当然である。

然し沈黙の相棒は雄弁と云ふことである。雄弁は不必要ではない。雄弁は必要である。特に必要なる雄弁は沈黙に重ぐ賞むべきものである。故に沈黙は金なりと云ふて、重いで雄弁は銀なりと誰れかゞ云ふた。私は沈黙は金なりと云ふたら雄弁も亦た金なりと云ふ。此くて多言空言即ち妄言妄語は私も反対するが、此に云ふ多言はつまり其妄言妄語である。如何なる時にも妄言妄語は警戒せざる可らずである。然し決して雄弁を奨励して居るのではない。一本調子の沈黙を推奨して居るのではないのである。此点を十分に吾等は考へるべきである。必要なる雄弁は無用の沈黙と共に併行的に吾等の戒めであるのだ。吾等現象界の万事は如何なる場合に於いても一方的に偏ってはならん。それは物の反面より知らん事になる。現象は二元である。自然の法則を吾等は立脚点として立たねばならん。 一九四六. 一〇. 二.

「若い夫婦一特に夫たる者へ」

人間は日々の生活に於いて自分の引受て居る仕事については言ふまでもない、最善を尽くすのが当然であるのだ。丁度銀行員が銀行事務に金融事情に経済関係の書物を読むのは当然の事であつて、其等以外に何んの関係もない文学や詩歌の、美術工芸の読書をする。それがホントの読書であるのと同じ様に、自分の仕事に関係のある事をするのは当然であるが、それ以外に自分以外の、仮へば妻とか子供とかの事をするのは主人の当然の仕事であるが、それ以外一軒の家の中の事で誰れがしてもよい事、つまり一軒の家の中の公けの事をする義務がある。それをしなくてはならん。一軒の家の中に公けの事をする義務がある様に、社会の公けの事をする義務もある。処が日本人と云ふものは往々にして自分の仕事と其関係以外の事は何にもしない人がある。たまたま自分の仕事以外の社会的の事をする人もあるが、一軒の家の中の公けの事をする人は割合に少いのである。古るい道德律から云ふと、家の中の仕事は妻がするものと決めて居る人が多い。此等の人々は妻に対する思ひやりと云ふものが少しもないのである。今日では妻の荷物を少しでも夫が助けてやらねば女は解放されないのである。特に妻の荷物は多すぎるのである。それ故に日本人の妻たるものは読書すると云ふ時間が全くないのである。此れを考へるのは日本人の夫の特に考へて助けねばならん事であると思ふ。

私はみきと結婚した時に聊か妻を解放すると云ふ事を考へた。そこで先づ第一に妻の経済的な独立と云ふ事を實行せんと妻をして書店を開かせたのである。妻は果して此仕事に熱中した。するとどうしても家の中の仕事と云ふ事が出来なくなる。それで、それを私が助けてやったのである。其れを助けて妻をして自分の経済的独立の方に向つて専念させたのである。古るい頭の人々は主人だ妻だと何んだか主人は主人として何か偉らい人間でもあるかの様な考へを持って威張つて居るが、それはだめなことだ。妻を愛するが故に妻をして経済的独立をさせて、それから男子と同様の立場を作らせる。それが出来ねば婦人の解放はないのだ。そして私は彼れに其仕事と其自由の一つである読書の時間を与へる事に努力したのである。私達夫婦に若しも学ぶべきものがあつたとすれば此二人の調子がシツクリと合つて居つたと云ふことである。特に妻をして独立の経済を持たせると云ふ事は今後の世界に於いては当然なさねばならん事である。今日迄の日本流では愛する妻が、終生を共にして来た妻が夫の死によって渡世を悲惨なめに合ふことは実に多いことである。子供のある人はやゝ其点では助かる処があるが、万一私達のように子供のない者に於いては、私が先きに死にでもしたら妻は決して幸福を持続する事は出来ないと思ふ。幸ひにして私の妻は私よりも先きに昇天したので、私は彼れこそ幸福であつたと思ふては居るが、世の夫婦に私は云ふ。如何なる場合に於いても、夫婦の財産は別々にして置くべきものである。そして

其独立した経済からでなければ、妻の自由とか解放とか云ふことはないのである。

経済的な独立を考へることは日本婦人解放の第一義である。それは日本では共稼ぎと云ふ。万一其生活を支へるのに共稼ぎするとしたら、それこそ尚ほのこと夫なる者は其妻の仕事を分担してやるべきである。夫が昔ながらの主人的威張り心で自分の事さへも妻にさせると云ふ様な考へでは円満なる家庭生活と云ふ事は出来ないと思ふ。妻をして知識を持たさねば家庭に和楽はない。家庭の和楽を〔は〕妻を賢くすることである。此くて天国は家庭に発現するのである。私は今日の結婚者に対して日本婦人の解放、日本の妻をして賢くからしめる為メの夫は同労者であると云ふ事を考へて貰ひ度いと思ふ。妻は決して色欲の奴隷ではないのだ。夫の色欲の生活の奴隷と考へて平気で居る様な夫は古董品である。妻は夫の同労者である。夫は妻の同労者である。お互ひが樂する。それは五分と五分である。されば経済的にも五分と五分とであつて欲しいと思ふ。然し相当解つて居ると思ふ人でも案外解らん利己主義の人が日本人には多い。

日本人の夫と云ふ者は多く自分は主人だと云ふ考へで妻を丸で下女のように心得て、妻の為メに少しも思ひやると云ふ心持のない人間がある。之れ位イ下らん人間はない。私はこんな人間を唾棄するものである。妻に対して道理とか正しいとか云ふ事以外に、何か特権でもあるかの様に主人〔妻〕に対して何んと威たけ高かになる様な人間は私は屑と思ふ。そんな人間は必ず利己主義生活者である。下らん空威張りをする人間位イ嫌やな人間はない。私は此ふした旧式の不解屋を日本文化の害虫だと思ふ。人間は若い間に其十分の勢〔精〕力を使って読書し勉強し、知識の向上、道德の立脚点をウント確かに握つて世に処するべきである。若い者が老人の様に朝寝して自分の事よりしないで一軒の家の中で共同生活をすると云ふ事は考へねばならん錯覚である。若い間に十分に生活を緊張させて置かないで何日緊張した生活をするのだ。今日の境遇を云々すること勿れ。如何なる境遇に於いても緊張は自由である。

若い者が第一朝寝すると云ふのはだらしないのだ。早く起きて妻の助けをするのは当然の事だ。そしてお互ひに時間の餘猶〔余裕〕を造つてお互ひに楽しく読書し勉強するべきである。若い者が朝からアソビなんかしてる様なだらけた緊張のない生活振りはすべきではない。若い者はモットモット知識欲を緊張させねばダメだ。要は今後の家庭生活と云ふものは夫妻が同労すると云ふことが根底である。お互ひに助け合ふことは当然の義務である。自分がしたい事丈けはするが妻の事など少しも考へない、つまり思ひやりがない。それは人間の中の最も下等な利己主義者である。自分の仕事以外に社会公けの事に出来る丈け尽すと共に、一つの家庭生活の中の公けの事を努力する。此れが今後の家庭生活者の道である。一九四六、十、三。

オランダ

産業上に於いて此台湾よりも少し小さい位イの国がどんな事をして居るか考へて見る必要がある。非常に低地で排水が最大なる国であるが、西部の粘土地方では乳牛が盛んである。約二〇〇万頭が飼育されて、其製品はコンデンスミルク、ドライミルク等の輸出は此国の首位である。又農芸の方面が盛んであつてチューリップ、ヒヤシンスの球根園芸はハーストを中心として世界的声価を博して居る。炭田なく高水なき為メに水力電気の起らない此国は工業的發展が出来ない。そこで此国は商業的發展をしたのである。北オランダ半島のイーマイデンを中心とする漁業が盛んである。此れを見て日本再建の参考となるものは、漁業及び乳牛の飼育と其製品及び球根園芸は何れも好参考である。一九四六、十、三。

「婦人と読書」

日本人は此戦争を契機として従來の考へから脱出しなければならん。ナゼなら従來は実に封建的であつて、タゞ夫は旦那様と云ふ考へで主人関白の位イだなど、云ふて妻の位置が少しも認められなかった。妻は夫の所有物の観があつた。然し青踏社あたりから日本婦人の解放と云ふ声がたちかけて今日に

及んで居るのであるが、敗戦と共に一つ飛躍したことは此婦人の解放運動である。駐米〔米〕軍マッカーサー司令官はイキナリ婦人に参政権を与へて、代議士選挙に選挙権と被選挙権とを与へたのである。其結果として日本国会に初めて三十余人の婦人代議士が議席を占めるに至ったことは、何んと云ふても一線を画したものである。つまり日本人の妻君は一躍して男子と同一の立場に立つべく第一歩を踏出したのである。そこで女は千手観音様ではないのであるから、踏出した自分の立場の為メに男子に負けないう様に知識を吸収する事が目前の急務である。其為メには読書が必要である。先づ各家庭に於いて婦人に対して此読書の時間なるものを与へなければならん。

然し今日迄のまゝで時間の餘猶〔余裕〕をとると云ふ事は不可能である。そこで家庭に於いて夫が妻を助けて妻の読書の時間を造ってやることをせなければならん。それには妻の仕事を夫が分担してやる事を考へねばダメだ。妻だけが暗い間から起きて働く、夫は朝食が出来るまで朝寝して居ると云ふ様な事では話に為らん。家の中の仕事其何かであるを問はず、お互ひが早く起きて分け持です。そして読書の時間を造ってやるのでなければ妻には読書の時間は出来ないのだ。先づ私は各家庭に於いて婦人の読書時間を造り出す事が今日最大の急務であると思ふ。此くて婦人をして自ら自覚せしめる事をしなくてはならん。一九四六. 十. 三.

具体的には毎日の家の中の掃除は必ず夫がしてやる事位イが同労の第一歩であると思ふ。夫が自分の靴の始末をする事などもすべきであると思ふ。

同じく中国人である

中国の国共問題は依然として片付かんので多くの中国人も悲観して居る人がある。誰れでも私にドウ思ふかって聞くから、私は何日でも〔次のように答える。〕此まゝでよいのだ。国民党と共産党とで二本建てだ。一本で行こうとすることがダメなのだ。今日の世界で武力的に強くない国が独立して生きて行くには此の二本建より外に安全な方法はないのだ。美〔米〕ソの二大勢力の間に挟まれて生き抜かねばならん中国は日本人には考へられない方法を探るより外に路がないのだ。而も今日の実情は美国は中国に対して戦争中キツ多条件を握って居るに違ひない。中国としてはアノ時それを諾くより外なかったのだ。それは随分過酷〔酷〕な条件があるに違ひない。それを国民が知ったら必ず大騒ぎになるに違ひない。然し何れは解ることであるが、差しあたり中国政府としても美軍の駐屯は好きなことではないのだが、仕方がないのである。処が丁度都合のよい事には其事に対しては共産党が頻りに美軍擁護を主張するので中国々民党は先づ一つ涼しい面して居る。之れが成功すると其次ぎには亦た何か主張するであらう。此くて次ぎから次ぎと共産党が国民党の失敗してる外交問題を恢復して呉れるであらう。其点について国民党と共産党とは同じ穴のものである。此同じく中国人であると云ふ事を忘れて考へてはダメだ。一九四六. 一〇. 三.

第二代内山書店へ

いよいよ第二代の内山書店を初めるべく古本の買ひ集めからやる。最初に売りに来て呉れたのが岩井五郎君で、『印度及東南アジア美術史』、『総説飛鳥時代寺院址の研究』、『江戸東京紙漉史考』、『雪国の民俗』之れには池田克己から岩井五郎君奥様への贈物で「あめもちも とゞろくまゝに 君が曰や 昭和十九年九月四日 於上海 池田克己」と云ふことが書いてあった。『鏡花選集』、『芸術論』の六冊であった。黙って三千元で買った。二人目は桑木さんと云ふ老人で『大豆蛋白質』『畜産加工篇』『水産加工篇』『台湾発酵工業』の四冊であった。之れも三千元で買った。三人目は互助会の皆川君で『百科大事典』五十八冊物を一部黙って十万元で買った。之れが第二代内山書店への第一歩である。どうか無事都合よく進むようにと祈って止まないものである。三十年で結束した内山書店は内山みきの創立経営であった。第二代は内山完造の経営である。今日此応接間を少し片づけて古本屋の体裁を備へさせた。

一九四六. 一〇. 三.

ヒルティの『眠られぬ夜のために』を夜寝る時に読むことにして居るが、やゝもすると朝になることがある。今朝も昨日の失念で読んで見たがイヤハヤ善いことが書いてある。「人は人生において何よりも先づ自分が本来何を成就せんと欲するかを知らねばならぬ。そして最後にそれを知りえたら（通例の人はこれの為メに已に其生涯の半〔ば〕以上を費す）、この目的とともに手段をも得ようと欲しなければならぬ。それ故、譬へば人が神に帰依せる、そして神に悦ばれる人間（これは基督者なる言葉を一般的な分りよい言葉に云ひ換へたものである）にならうと欲するなら彼はまた患難をも欲しなければならぬ。そして人間の自然的な全感能がもとめてやまぬ不断の安易な享樂を欲してはならぬ。この様な患難は決して過度に来るものではない。そしてひとが神と完全に合一すれば憂慮と絶望とが全く無くなるから多くのことに耐へ得るやうになる。人がその才能を高め老年に到るまで之れを保持しようとなれば、多く善事を為さねばならぬ。これが其事を能くする最も確実な手段である。人が正しく世に働かうとならば是非ともより完全にならねばならぬ。そしてより完全になるためには是非共真的の善を行はねばならぬ。単なる知識や思索だけではどうしても駄目である」と書いてある。此れは教へられる処が非常に多い。私共丈けではない。此から伸びんとする若い人々には特に考へさせられるものである。私は今第二期の出発をせうと考へて居るので矢張り好い参考である。「神に悦ばれる人間にならうと思ふなら患難をも欲しなければならぬ」と云ふ言葉は、私が満洲の伐木会社に特権を与へたら義務を負はせるべきである、権利と義務とは何日でも同時に同一人に与へらるべきものであると主張して居るのと全く軌を一つにして居るものである。悦びと共に患難をも承認せなければならぬ。其事について私は非常に同感するものである。一九四六. 十. 三.

指針

「心を強くして勇め。」「汝の凡べて往く処にて汝の神エホバ偕に在せば懼るゝ勿れ、戦く勿れ。」今日の私への最良の指針である。私は今三人の友人の為メに最良の方法をと奔走して居るのである。私はたゞ彼等の幸福を希ふのみである。それ以外に何んの考へもない。東奔西走はつかれはするが、それでも少しでも人の患難にお役に立てばと思ふての事だけに誠に愉快である。何事によらず吾等の毎日の生活は今日の言葉に立脚して、イヤ此言葉を実行することだ。此れより強いものは無いのである。吾等の日常生活は断じて強くなければならぬ。一九四六. 十. 四.

人間と云ふものは面白いものだ。誰れでもが自由に論議出来、自由に出版が出来、自由に信仰することが出来る。凡べてが自由に行爲行動の出来る社会を希望して居る。少くも自由主義に立つ人々はそうである。そうした人々が且つての上海へ来ると彼等は曰く、「此処には刺激がない。こんな社会はつまらぬ」と云ふて矢張り所謂刺激のある日本へ帰国する。其時私は云ふた、自ら理想とする処にやゝにしても近かい自由都市上海へ来てこんな処はダメだ、刺激がないと云ふて帰国する君等は自由を求める人にはあらで、タゞ刺激のみ求めて居る人である、と。此処だ、やゝもすると考へ違ひをするのは。自らの求むる理想に遠ければ遠い程刺激が多い筈である。自らの求むる理想に近い社会程刺激は少ないのである。自ら其求むる理想にやゝ近い中に生活すると刺激の少いことに不満である。つまり刺激と云ふ事が主になって居るのである。それは修養には色々の刺激を受けなければならぬと云ふ順序を理想の中に迄求める矛盾である。然しこうした矛盾は人間生活には必ずあるものゝ様である。理想の社会を目指して色々の施設経営をして少しでも理想の社会に近〔づ〕いて来ると、何処からか知らんがキット戦争と云ふ大きな刺激物を持て来る。此現象は何日も繰り返している処である。此れは自由主義者が刺激を求めるのと同じ行き方である。心せなければならぬ点である。一九四六. 一〇. 四.

偶像への理解

偶像と云ふからいけないのだ。偶像には一々名がついて居る筈だ。釈迦に観音、勢至、文殊、普賢、布袋だ、弁天だ、と。人と云へば皆んな人であるが他人である。然し父とか母とか兄弟姉妹とか云ふ。そして此ふなるとタゞの他人としては扱はないであらう。夫婦ももとは他人ですが、夫と呼び妻と呼ばれて此世に於ける最も親しいものとなるのです。同じことです。人間は偶像でも名がついて親しくなるのです。然し人は、偶像には生命がない、五臓六腑はもとより、血肉も無ければ皮もないと云ふであらう。然し人間だって五臓六腑の上に色々の着物を着て居る。偶像だって金銀銅鉄石や土で造られた上に美しい色彩をもって装ふてある。然し偶像には人間にある様な靈魂がないと云ふ。然し其靈魂はタゞあると云ふ丈けで迷ひもするが悟りもする。安心するが危みもする。揉みもする、信心もするのである。的がなくては弓は引けない。手品も軽業も修業はするが、お客と云ふ的がなかったら誰れが危い修業なんかするものがあらうか。偶像は不要だと云ふ人があったら、そんなら恋なさる人に恋するだけでそれでよいのか。

「恋人はタゞ慕ふ、愛する、こがる、だけでよいのか。一緒にならんでもよいのか。姿は見んでもよいのか。姿は見たばかりでよいのか。口は利かなくても、イヤ口は利いたばかりで手に触れなくてもよいのか。手に触った丈けで口つけしなくてもよいのか。口つけだけで寝なくてもよいのか。抱かなくてもよいのか。それで済むなら事も甚だ容易だよ。仮へ夢にでも見たいのが人情である。うたゝ寝に見た夢だけで気がすむならそれで安心して居ればよい筈だが、人間はそれでは済まんではないか（プラトニックラブへの抗議である、イヤ空論への反駁である）」とは、泉鏡花が小説の中で主張してる処である。

神仏への信仰が、吾々が基督を通して神への信仰が神との結婚であると云ふ点に迄至ると同じ様に信仰を熱やす事が出来ないのは、所謂近代思想の一つである。偶像の破壊とか形而上学だとか云ふて仏像をタゞの偶像として扱ふ処にも一つの原因はある様だ。つまりは偶像に対する考へが浅いからのことだ。絶対的ではなくても此に云ふてる様に偶像も一つ一つに名がつけてある以上人間に名があるのと同じだ。人間が血肉や五臓六腑で造られて居る様に偶像も土とか石とか金とか銅とか鉄とかで造られて居るのだ。人間が衣服を纏ふて居る様に色彩が装ふて居るのだ。靈魂とか心がないと云ふそふだ。その通りだ。然し凡夫と云ふものは的のない弓は引かれはせん。矢は放てない。空に向って弓を引いたら何んと云はれるであらうか。仏像も人間が信仰の矢を放つた的ではあるまいか。仏像の一つ一つは釈迦と云ふ金的である、観音と云ふ銀的であると考へたらよいではないか。殉教は神との心中である。人間が神への犠牲である。此身を捨てなくて心丈けで心中になるであらうか。殉教になるであらうか。それはダメだ。此身を捨てなくてはならん。此心と共に此身を犠牲にしなくては心中も殉教もなりはせん。恋愛は身体なしでよいのであらうか。結婚も身体は不要であらうか。タゞの観念だけで具体は不要か。つまりは偶像は人間の信仰的であるのだとは甚だよい偶像への理解である。一九四六、一〇、五。

「接収もれがある」

中国の国民生活の経済点は英米のレベルには達して居らん。丁度日本の程〔度〕がよい処である。それ故に日本の対中国貿易は上海で其総輸入額の半〔ば〕を占めるに至ったのである。中国は今日製産増加をはからねばならん時になって居る。然し敗戦日本のあらゆる物を接収して居るが、其中に日本人が日本政府に対して得て居る専売特許と云ふものがある。此特許権の中国内に於ける使用権を接収して居らん。此れが接収が中国の製産増加に対する大きな役割を演ずるものである。又日本として此れは其賠償金の大きな金額になるものである。仮へば豊田紡機や豊田自働織機の如きは其特許権の中国内に於ける使用権を接収して居れば中国の紡織業の発展が極めて容易に出来るのである。

今中国では米国から紡織機械の製造工場を設けるそふだが、其紡織機械は何れ美〔米〕国の特許を分権譲り受けをして造るのであらうが、それは大きな特許権料を一つ一つについて支払はねばならん事

になる筈だ。紡績機械製造工場は設立するがよい。造る紡機は豊田紡機を接収して製造さへすれば世界的に競争出来る紡機製造が自由に出来る様になるのだ。而も其為メには賠償として接収さへすれば一銭も金は出さなくてもよいのだ。中国もそれによって非常に有力な財源を得ると共に、日本もそれによって賠償額が助かるのみならず将来日本と中国との非常に大きな結びが此に行はれるのだ。中日間の連繋は此れ等専売〔特〕許権の中国内に於ける使用権を接収さへすれば大きな製造力を有する事になるのだ。忘れて居る専売特許権の使用権の接収と云ふ大きなものがある。日本が戦争に勝利しつゝ進む〔ん〕だ時に将来と云ふ事を考へないでタゞ目前の接収設収をのみした。其時、私はナゼ将来を考へないで目前の物の接収のみをするのか、此れは大きな失敗だと云ふた。つまり目前にある棉を非常に安くて買ひ取ると百姓は棉を造らなくなる。

米を安くして無理買いすると、翌年からは米の作付反別を自ら少くする。棉や米だけではない。何んでも同じだ。今目前は安い物が手に入るが、次年度の其物が減少する。物が減少すれば自然価値が高くなる。此に戦争の後方援護が非常な驚異を感じる事になるのだ。此れは長期戦の大敵であると主張したのだ。然し軍人共には採用する明がなかった。飛行機の現存数をのみで勢力を計算して後方製産力を計算に忘れたのと全く同じ失敗をしたのである。今中国は其接収から此将来に大影響のある日本の専売特許（世界的のものは云ふ迄もないがあらゆる特許を悉く）は全部其中国内の使用権を接収して、其権利品を製造する様にすれば少くも中国の経済生活のレベルに最も近い製産の増加が可能である。今日直ちに英米の製産を中国でやったら経済生活が非常な危険に陥るであらうことは火を見るよりも明らかである。一九四六. 一〇. 五.